

# FY2015

平成27年度  
大仙市立中学校生徒海外派遣事業  
オーストラリア研修 報告書

Fiscal Year 2015 Daisen Municipal Junior High School Student Overseas Deployment Project

# REPORT OF STUDY TOUR IN AUSTRALIA

3 to 11 January 2016

Omagari Junior High School  
Omagari Nishi Junior High School  
Omagari Minami Junior High School  
Nishisenboku Junior High School  
Hosei Junior High School  
Kyowa Junior High School  
Nangai Junior High School  
Senboku Junior High School  
Ota Junior High School

水資源を大切にするために、どのような工夫をすればよいか？  
地産地消をすすめるためには？  
食料を長期保存するためには、どのような工夫があるか？  
環境保全をすすめるためには、どうしたらよいか？  
CO2の排出を抑えたり、ゴミの分別を進めたりするためにできることは何か？  
大仙市の地産地消を活性化させるには？  
より多くの人が資源を大切にするには？  
大仙市を観光地にするには、どうしたらよいか？  
どんな暮らし方の工夫があるのか？  
日本の豊かな自然を守り、より良い環境で人々が快適に暮らしていくために、私たちは何ができるだろうか？  
エコ活動をより身近なものにするためには、どのような工夫があるか？  
日本とオーストラリアの動物保護の違いと特徴は何だろうか？  
様々な生物の暮らしをよくするには？  
農業人口を減らさないためにはどうすればよいか？  
地球に優しい『エコ』な生活をするためには？  
若い人が暮らしやすく、自然環境を生かした町づくりをするには？  
観光資源を有効活用するにはどうすればよいか？  
未来の地球を守るために、私たちが今できることは何か？  
水を大切にしていけるためにはどうしたらよいか？  
若者が大仙市から離れないようにするにはどうすればよいか？

## ■旅行日程:2016年1月3日(日)~1月11日(月)

日程	地名	現地時刻	交通機関	行程	朝食	昼食	夕食	
1	1/3 (日)	大曲駅(集合) 大曲駅発 東京駅着 東京駅発 空港第2ビル着 成田空港発	11:00 11:44 15:04 16:33 17:25 20:10	こまち18号 NEX41号 JQ026	出発式 新幹線にて東京駅へ  成田エクスプレスにて成田空港へ 出国手続き後、ジェットスター航空にて空路、ケアンズへ (所要7時間30分) 【機中泊】	×	×	×
2	1/4 (月)	ケアンズ空港着 ケアンズ空港発 マンガリフォールズ着	04:40 06:30 08:30	専用車	入国手続き後、マンガリーへ移動(所要:約1:40) レインフォレストロッジにて朝食後、休憩 オリエンテーション後、ホストファミリーと面会 ファームステイ先へ移動 オーストラリア体験生活 スタート  【ファームステイ泊】	○ ロッジ	○ ステイ先	○ ステイ先
3	1/5 (火)	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活 (家族との生活、ファームのお手伝いを体験していただきます) 【ファームステイ泊】	○ ステイ先	○ ステイ先	○ ステイ先
4	1/6 (水)	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活 (家族との生活、ファームのお手伝いを体験していただきます) 【ファームステイ泊】	○ ステイ先	○ ステイ先	○ ステイ先
5	1/7 (木)	マンガリフォールズ	午前 終日		各ステイ先よりマンガリーに集合(集合後、報告会) 昼食後、現地生徒(オージーキッズ)との交流[チームラフトビルド、障害物レースなど] 夕食はオージーキッズと一緒にバーベキュー 後、さよならパーティー 夕食後、土ボタル鑑賞へ出発  【レインフォレストロッジ泊】	○ ステイ先	○ ロッジ	○ ロッジ
6	1/8 (金)	マンガリフォールズ ケアンズ	朝 午前 午後 夜	専用車 鉄道	ロッジにて朝食後、マンガリーを出発 キュランダ見学へ【山】  鉄道に乗車、ケアンズへ ケアンズ到着後、市内散策 徒歩にてホテルへ  【ケアンズ市内/ホテル泊】	○ ロッジ	○	×
7	1/9 (土)	ケアンズ	午前 夕方	バス	ホテルにて朝食後、 グレートバリアリーフ見学へ【海】  ホテル到着後、市内散策へ  【ケアンズ市内/ホテル泊】	○ ホテル	○ 船内	○ ホテル
8	1/10 (日)	ホテル発 ケアンズ空港発  成田空港着 成田空港発	09:40 12:15 18:45 20:30	専用車 JQ025  貸切バス	ホテルにて朝食後、ケアンズ空港へ 出国手続き後、ジェットスター航空にて空路、帰国の途へ (所要7時間30分) 入国手続き後、到着口へ 貸切バスにて大田市へ  【車中泊】	○ ホテル	○ 機内	×
9	1/11 (月)	大田市役所着	7:00		到着後、解散式 おつかれさまでした	×		

平成 2 7 年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業派遣生徒一覽

No.	学校名	学年	生徒氏名	性別	No.	学校名	学年	生徒氏名	性別
1	大曲	2	佐藤颯人	男	11	大曲南	2	佐藤萌々寧	女
2	大曲	2	田口亜湖	女	12	西仙北	2	京極綾香	女
3	大曲	2	田口桜子	女	13	西仙北	2	田村紬寧	女
4	大曲	2	富樫沙瑛	女	14	豊成	2	熊谷まゆか	女
5	大曲	2	西村 駿	男	15	協和	2	鎌田美羽	女
6	大曲	2	畠山 ひなた	女	16	南 外	2	佐々木 心都	女
7	大曲	2	森元 遥香	女	17	仙 北	2	池田 晴香	女
8	大曲西	2	佐々木 優斗	男	18	仙 北	2	小松 真愛	女
9	大曲西	2	田畑 璃子	女	19	太 田	2	石崎 遥衣	女
10	大曲南	2	佐々木 由希	女	20	太 田	2	藤原 真武	男



## 事前説明会

場所：大曲図書館3F視聴覚室

10月9日（金）PM 6：00～

- ・派遣生等紹介
- ・教育指導課長よりあいさつ
- ・諸連絡（旅行代金の納入について等 教育指導課）
- ・パスポート取得、旅行準備について（日本旅行）  
※海外旅行お伺い書（パスポートコピー貼付）の提出について  
※FARMSTAY QUESTIONNAIRE(ファームステイ質問書)・保険申込書の提出について

12月17日（木）PM 6：00～

- ・ファームステイ及び日程についての最終確認等（日本旅行）
- ・緊急連絡先等提出（教育指導課教育研究所）

## 事前学習会

場所：大曲図書館3F視聴覚室

10月30日（金）第1回学習会 PM 4：30～6：00

- ・CIRによるオーストラリアの文化等紹介
- ・自主研究テーマの設定 その他

11月30日（月）第2回学習会 PM 4：30～6：00

- ・自主研究テーマの提出（面接により、自主研究テーマを広げる・深める）
- ・英会話レッスン（自己紹介・機内・税関・ショッピング・ホテル・道をたずねる・乗り物にのる）
- ・出入国カードの記入について

12月28日（月）第3回学習会（結団式） AM 9：30～PM 3：30

- ・作成レポートについて（様式、枚数、締め切り等）
- ・自主研究についての事前活動
- ・報告会について
- ・結団式
- ・ファームステイグループごとの打ち合わせ（日本文化紹介準備活動等）

## オーストラリア海外研修

1月3日（日）～1月11日（月）

オーストラリア（ケアンズ方面）

## 研修報告書作成と提出

海外研修終了後～1月29日（金）教育指導課教育研究所必着で提出

## 報告会・解団式

場所：仙北ふれあい文化センター

2月16日（火）報告会及び解団式 PM 3：00～4：45

- ・代表者感想発表
- ・グループに分かれて「グループ内個人発表」
- ・グループ協議

## 結団式

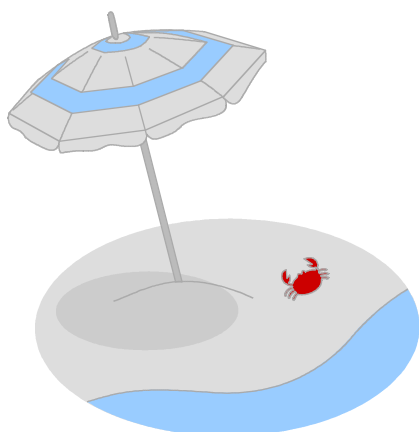
### 派遣生徒代表誓いの言葉

私は大仙市の代表として、「大仙市中学生海外派遣事業」に参加させていただくことに、心から感謝しています。大仙市の皆さんの期待に応えることができるように、たくさんのことを学んできたいと思います。

私が一番楽しみにしていることは、ホームステイです。ホストファミリーとの交流や、異国の文化に触れることを通して、視野を広げることができると思うからです。また、オーストラリアの様々な観光地に行くことも楽しみの一つです。その観光地の素晴らしいところをたくさん見つけるともに、日本との風土の違いを実際に感じてきたいと思います。

そして、私がこの事業への参加を希望した一番の理由である「英語の読解力、コミュニケーション能力を向上させる」ために、たくさんの人と触れ合ってきたと思います。海外へ行ける機会はあまりないと思うので、本場の英語を学ぶチャンスと考え、積極的に周りの人たちとコミュニケーションをとってきたいです。私は将来英語を使う職業に就きたいと考えているので、夢を叶えるための第一歩にしたいと思います。

初めての海外で不安な面もたくさんありますが、派遣生としての自覚をもち、様々なことを学び、思い出に残る研修をしてきたいです。



大曲西中学校 田畑璃子

あと一週間ほどで待ちに待ったオーストラリア研修が始まります。私は今、研修に対するわくわくした気持ちと、ドキドキした気持ちでこの場に立っています。

私がこの研修に申し込んだ目的は大きく二つあります。一つは、この研修で苦手な英語をしっかりと学んで、海外という広い世界で自分の英語力を試し、これからの英語学習への自信につなげていくということです。そしてもう一つは、自分の学習テーマである、「日本とオーストラリアの動物保護の違い」について調べることです。オーストラリアといえばコアラやカンガルーなどの動物が連想されます。動物が多くいるオーストラリアの動物保護は日本とどのような点が違うのかを調べたいと思います。

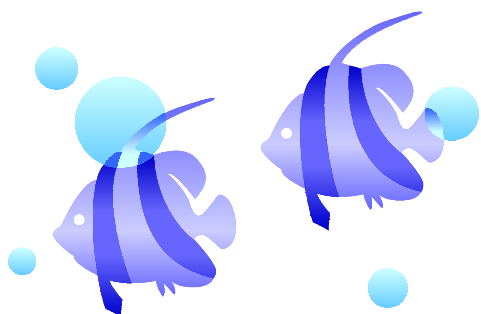
私の父は以前、海外で働いていました。オーストラリアには行ったことがないようですが、海外の文化の素晴らしさや楽しい出来事などを父から聞いていました。だから私は今回の海外研修がとても楽しみです。

私が楽しみにしていることは、海外へ行くことももちろんですが、大仙市の他の中学校の人たちと一緒に行くということです。今回の海外研修では、初めて会う人たちばかりですが、これを機に積極的に交流して、仲良くしていきたいです。

また、ホストファミリーとの生活も、ホームステイのマナーを守って楽しみたいです。そしてオーストラリアの人たちの生活や、日本との考え方やものの見方の違いなどを学びたいと思います。

今回の海外研修は初めてのことばかりですが、何事にもどんどん挑戦していきたいと思います。そして、今回の研修で学んだことを、将来大仙市のために役立てることができるようにしたいです。

これから九日間の海外生活を共にする中学生の皆さん、共に支え合い、充実した研修になるように頑張りましょう。また、この度引率して下さる関係者の皆様、何かとご難儀をおかけいたしますが、どうかよろしくお願いします。



西仙北中学校 京 極 綾 香

## H 2 7 年度海外派遣生徒自主研究テーマ一覧

No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別	自主研究テーマ
1	大 曲	2	佐藤 颯人	男	水資源を大切にするために、どのような工夫をすればよいか？
2	大 曲	2	田口 亜湖	女	地産地消をすすめるためには？
3	大 曲	2	田口 桜子	女	食料を長期保存するためには、どのような工夫があるか？
4	大 曲	2	富樫 沙瑛	女	環境保全をすすめるためには、どうしたらよいか？
5	大 曲	2	西村 駿	男	CO <sub>2</sub> の排出を抑えたり、ゴミの分別を進めたりするためにできることは何か？
6	大 曲	2	畠山 ひなた	女	大仙市の地産地消を活性化させるには？
7	大 曲	2	森元 遥香	女	より多くの方が資源を大切にするには？
8	大 曲 西	2	佐々木 優斗	男	大仙市を観光地にするには、どうしたらよいか？
9	大 曲 西	2	田畑 璃子	女	どんな暮らし方の工夫があるのか？
10	大 曲 南	2	佐々木 由希	女	日本の豊かな自然を守り、よりよい環境で人々が快適に暮らしていくために、私たちは何ができるだろうか？
11	大 曲 南	2	佐藤 萌々寧	女	エコ活動をより身近なものにするためには、どのような工夫があるか？
12	西 仙 北	2	京極 綾香	女	日本とオーストラリアの動物保護の違いと特徴は何だろうか？
13	西 仙 北	2	田村 紬寧	女	様々な生物の暮らしをよくするには？
14	豊 成	2	熊谷 まゆか	女	農業人口を減らさないためにはどうすればよいか？
15	協 和	2	鎌田 美羽	女	地球に優しい『エコ』な生活をするためには？
16	南 外	2	佐々木 心都	女	若い人が暮らしやすく、自然環境を生かした町づくりをするには？
17	仙 北	2	池田 晴香	女	観光資源を有効活用するにはどうすればよいか？
18	仙 北	2	小松 真愛	女	未来の地球を守るために、私たちが今できることは何か？
19	太 田	2	石崎 遥衣	女	水を大切にしていくためにはどうしたらよいか？
20	太 田	2	藤原 真武	男	若者が大仙市から離れないようにするにはどうすればよいか？

## 事前学習会の様子

[10月30日]



初めての学習会。最初はかなり緊張気味。学校の枠を越えて仲良くなれるかな？まずは仲間との関係づくりです。



ハンドサインだけでコミュニケーションを図ります。ちゃん相手に伝わっているか、表情で確認し合います。



アイビー先生から、オーストラリアについて教えてもらいます。「訪れるのはどこか、わかっていますか？」



グループで話し合っ、学習を深めます。皆の表情も少し柔らかくなりました。

「ケアンズがあるのはQLDですが、QLDって何州でしょう？」

こたえ「〇イーン〇〇〇〇州です。」





[11月30日]



アイビー先生



ジョーダン先生



ナタリー先生



タラ先生



リチャード先生

第2回学習会では英会話のレッスンを行いました。講師は、大仙市内に勤務する5名の先生方です。



4人ずつのグループに分かれて、グループ担当の先生とレッスンです。様々な場面を想定して練習しました。最初は固かった表情も、先生がにこやかに優しく話しかけてくれるので、次第に笑顔になっていきます。アイコンタクトも徐々にとれるようになり、余裕が出てきました。

自分から話しかけていく勇気や、聞き取れなかったら何度も聞き返すたくましさも大事と実感しました。





実際のオーストラリアのお金を使って、支払いをする練習です。「ああ！ややこしいな～！」という声があちらこちらから。



おみやげにブーメランを選んで買うとしたら、お店の人とどんなコミュニケーションが必要かな？



ステイ先で日本文化を紹介するとしたら、どんなやりとりができるかな？



皆を代表して、入国審査を受けます。笑顔がいいですね。



税関での荷物検査。持ち込み禁止品について追及されます。“What’s this?”



英語で頑張って切り抜けています！係員も手加減なしです。

[12月28日]

## 各課へのインタビュー



研究テーマに関わる大仙市の状況をリサーチするために、市役所各課へインタビューに出かけます。質問事項をグループごとにチェックし、最終確認です。



各課スタッフの皆さんも、多岐に渡るテーマに関連する資料を準備し、様々な質問に丁寧に答えてくれました。友だちのテーマから学ぶこともたくさんあります。



食・農業・動物保護等に関しても、身近で取り組まれているのに知らないことがたくさんあり、勉強になります。



「将来の大仙市はどうなっているのだろう？」年代別構成人口や産業等について市の構想を聞き、魅力あるまちづくりについて考えます。



「大仙市の観光スポットをもっとたくさんの人々に知ってもらいたい！」という思いを担当課スタッフと共有します。

オーストラリアで何かヒントになることが見つかるといいですね。

## 結団式の様子



一人ずつ自己紹介し、海外研修への期待を述べました。  
少し緊張しますが、大仙市の中学生代表として派遣される責任感と自尊心が湧き上がる瞬間です。



大曲西中学校の田畑さんと西仙北中学校の京極さんが、派遣生徒を代表してあいさつをしました。



安全で実りある研修を願うとともに、チャレンジ精神と向上心あふれる派遣生徒の皆さんを、教育長が激励してくださいました。

## ファームステイグループでの話合い



ファームステイグループごとに集まり、どんな家庭にお世話になるのかを、英語で書かれた情報から読み取っています。



「おみやげに何を持って行こうか？」  
「どんな日本文化を紹介しようか？」  
楽しい相談の時間です。



折り紙やけん玉などの日本の遊びの紹介をしながら、それをおみやげにしようという案が。なるほど。



暑いから、さっぱりした日本食をごちそうしようという案も。さて、何に決まるでしょうか？



学生交流での日本文化紹介について全員で相談。司会進行も自分たちで。丁寧に話合いが進められています。



様々な意見がありましたが、全員で歌って踊ることに決定！大丈夫かな？

# オーストラリアレポート

No.1 大曲中学校 佐藤 颯人

## 1 はじめに

僕は、以前から習っている英語がどこまで通用するのか確かめたいという思いと、テレビ等で何度も見たことのあるオーストラリアの文化に興味があり、この海外研修に参加しました。

## 2 研究テーマ

「水資源を大切にするために、どのような工夫をすればよいか？」

## 3 研究テーマ設定の理由

インターネットを用いてオーストラリアについて調べると、「水不足」という記事が出てきました。そこで、水資源が豊富な日本でしか暮らしたことのない僕が、オーストラリアの水問題について知ることは自分の生活を見直すことにつながると思い、この研究テーマを設定しました。

## 4 節水の取り組み

### 1) シャワー

ミラミラのファームステイ宅に着いてから、水の使い方のルールを教わりました。それは、「シャワーは3分以内に済ませるように」という内容でした。

自分の今の生活は、毎日時間制限なく風呂に入っている状態なので、とてもびっくりしました。

### 2) トイレ

トイレの水を流すときは、水量が少ないため、トイレットペーパーを使い過ぎると流れにくく、それに慣れるまで時間がかかりました。

### 3) 貯水タンク



上の写真から分かるように、オーストラリアの各家庭には貯水タンクがあります。世界有数の乾燥地帯であるオーストラリアでは、2006年にビクトリア州で年間367mmと、とても少ない雨量を観測しました。だから各家庭には貯水タンクが必要なのです。このタンクに貯めた水について、現地のコーディネーターさんに聞いたところ、主に庭の水撒きなど飲料水以外で使用しているそうです。また、日本の水は500mlで約100円とお手頃な価格で買えますが、オーストラリアの水は約200～300円と高い金額で売られています。

## 5 考察

短い期間でしたが、今回の研修のおかげで水の大切さを実感し、僕の節水に対する関心が高まりました。さらに、この地域で暮らす人々の節水への意識の高さに気付くこともできました。とくに、トイレで水が流れにくかったことに驚きました。実は、日本に戻ってから「水を多めに流してくださいませようお願いします」という貼り紙を県内のホテルで見、こんなにもオーストラリアと対極的な貼り紙があるのかと衝撃を受けました。よく見てみると、この貼り紙には「皆様が気持ちよくお使いいただくため」と書かれていたので、節水とはまた別の考え方が日本にはあるんだな・・・と思いました。

おもてなし文化が染みついている日本では難しいかもしれませんが、いくら水が豊かな日本でも、このまま何も意識しないで好き放題に水を使っていると、いつか水不足になる恐れがあるかもしれません。そこで、今回の経験で身に付けた「節水する」というよい習慣を、できるだけ多くの人に呼び掛けて、一緒に進めていきたいと思います。そして、いつかこの日本のおもてなし文化と節水が上手く融合した社会が実現されるように、「節水」を心がけて実行していきたいです。

## 6 海外で活躍している日本人の方へのインタビュー

オーストラリアで4人の方々にインタビューしました。その内容を紹介します。

Q、なぜ、オーストラリアに来ましたか？

A、①治安が良いし、自然も良い。②日本とフレンドリーな関係にある。③海外なのに日本と時差があまりない。④オーストラリアで盛んなホテル業に興味があった。

Q、オーストラリアに来て困ったことはなんですか？

A、①文化の違い。②食生活の違い。

Q、オーストラリアに来てよかったと思うことはなんですか？

A、①生の英語に触れ、自然と英語を覚えられた。②今まで気にもしなかった日本の良さに気付いた。③人に優しくできるようになった。

インタビューで特に心に残ったのは、「オーストラリア人は人の目をじっと見ながら話をするので、しばらくはそれに慣れずにとまどった。」というお話でした。しかし、実際オーストラリアの人と話してみると、目を見ながらはもちろんのこと、笑顔で会話するだけでなんとなく言葉が通じたり、お互いの気持ちが伝わったりしたような気がします。ほんの数日研修に参加しただけで、日本人なのにこの国で暮らしたくなった人たちの気持ちが、不思議と分かったような気がしました。

## 7 日程紹介

### ～1日目～

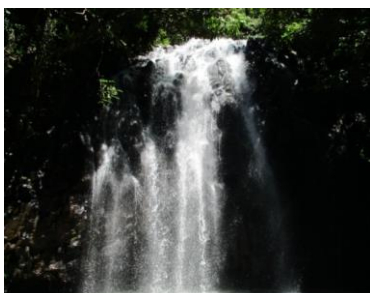
大曲駅に集合してから、スーパーこまちで東京駅へ出発！それから成田エクスプレスに乗り換え成田空港（外国人の多さにビックリ!!）へ。初の国際線でケアンズへ出発。

### ～2日目～

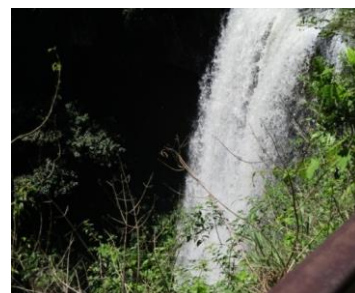
ケアンズ空港着。マンガリーフォールズへバスで移動。到着後、ホストマザーと顔合わせをし、ファームステイのスタート。ステイ先での最初の食事は、サンドウィッチでした。YUMMY!!!!

### ～3日目～

滝を見に行きました。非常に暑い地域なのに、滝周辺はとても涼しかったです。



水がとても澄んでいる  
二つの滝







巨大な牛

外出後、「オーストラリアの夏はとても暑いので体力温存のため昼寝をしましょう。」とホストマザーに勧められ、昼寝をしました。目覚めた後には、広いファームをバギーで案内してもらいました。ファームには、日本では見たことのない変わった牛がいました。

#### ～4日目～

朝9時頃からインゲン豆の収穫を手伝わせてもらいました。その後家へ戻ったのですが、具合が悪くベッドへ。熱中症のような症状でしたが、ホストマザーの優しい看病のおかげですぐ治りました。午後は前日同様昼寝をしたり、家にあるトランポリンで遊んだりしました。コケて痛い思いもしました。

#### ～5日目～

あっという間のファームステイで、ホストファミリーともお別れ。悲しい別れもよい経験になりました。マンガリーに到着後、オーギーキッズと触れ合いました。同い年のサッカーをやっているキッズと出会いました。友達になれましたが、短い時間だったので一緒にサッカーができなかったのは残念でした。

#### ～6日目～

マンガリーを出発する日の朝、お別れのあいさつを英語でしました。とても緊張しましたが、最後までしっかり言えてよかったです。その後キュランダに向かい、レインフォレストーションへ行きました。レインフォレストーションでは、生まれて初めてワニを抱っこしました。口をビニルテープでぐるぐる巻きにされていたので、却って怖かったです。続いて、キュランダ鉄道に乗りケアンズ市内に行きました。市内でショッピングを楽しみ、夕食には、冷やし中華と餃子を食べました。やっぱり日本食が一番!!ホテルに到着後は、疲れていたせいかすぐ眠れました。

#### ～7日目～

待ちに待ったフランクランド諸島!!!

半潜水艦、シュノーケリング、島内散策をしました。シュノーケリングではウミガメと一緒に泳ぐことができました。海はとてもきれいでした。



フランクランド諸島の海

## ～8日目～

オーストラリア滞在終了



飛行機から見たグレートバリアリーフ

・・・短く感じたな・・・成田空港に戻り、バスで一路大曲へ。バスでは友達と夜更かしをして楽しみました。

## ～9日目～

大曲着。久々に家族との再会。冬の大曲で「黒くなった」と言われました。

## 8 オーストラリア研修を終えて

初めての海外で緊張しましたが、オーストラリア人の人柄の良さや暖かい気候に触れ、9日間を楽しく過ごすことができました。でもやはり、食事は日本食の方が自分の口に合うと実感しました。

言葉は違っても、ある程度の単語を知っていれば、ジェスチャーを交えながら大体のことは通じるということが分かりました。その上、オーストラリアは何事にも積極的でフレンドリーな子どもたちが多かったので、シャイな僕にとってはとても勉強になりました。

今回の研修で、以前より海外に興味をもてたので、今度は自分でお金を貯めて行きたいと思います。今回の研修で引率して下さった高橋先生、井合先生、飛田さんありがとうございました。最後に、参加を後押ししてくれた両親にも感謝の気持ちを伝えたいと思います。

# Australia Report

No. 2 大曲中学校 田口 亜湖

## I はじめに

私は、小さい頃から英語を習っており英語が大好きです。しかし、普段の生活では英語を使う機会がなかなかありません。中学生になり海外派遣研修について知ったとき、「参加してみたい！」と強く思いました。海外に行き実際に生の英語と触れ合い、今の自分の英語力を試してみたいと思ったからです。また、他の国を知ること、改めて自国の素晴らしさを感じたり発見したりすることができるきっかけになるとも思ったからです。

初めての海外ということで、はじめは不安もありましたが、事前学習などでオーストラリアについて学んでいくうちに「もっと知りたい！」と思うようになり、不安が楽しみに変わっていきました。

## II テーマ設定の理由

○研究テーマ 『地産地消をすすめるためには？』

普段買い物をしていると、日本の食材は海外からの輸入品が多いと感じることがあります。実際に調べてみたところ、日本は食料自給率が低く、輸入している食材が多いことが分かりました。そして、オーストラリアは食料自給率が高いことも分かりました(オーストラリアの食料自給率は日本の約5倍)。そこで、私はオーストラリアの食料自給率が高い理由を探り、地域の取組と比較し、参考になる点を見つけたいと思いました。

## III 研究方法／調べた内容

### 1 研究方法

- ①大仙市の地産地消に対する取組について事前に調べる
- ②オーストラリアでの地産地消に対する取組について現地で調べる
- ③①、②を比較する。

### 2 調べた内容

#### (1) 大仙市での地産地消に対する取組

大仙市役所へ行き、農林商工部農林振興課の方のお話を聞くことで、次の四つの取組が行われていることが分かりました。

- ①農産物直売所や農家レストランでの販売・提供
- ②学校給食においては大仙市産の農産物を優先的に納入
- ③市内のスーパーマーケットの中に「地産地消」コーナーを設けて販売

④首都圏からの農業体験を受け入れ、生産者と消費者の交流を通して、安心して安全な地場農産物を知ってもらう活動

大仙市でたくさんの地産地消の取組が行われていることを知り驚きました。私たちの知らないところでたくさんの人たちが、地産地消を進めるために努力していることが分かりました。と同時に、こんなにたくさんの取組をしているのに、なぜ食料自給率が低いのか疑問に思いました。

(2) オーストラリアでの地産地消に対する取組

ホストファミリーに、オーストラリアのスーパーマーケットに連れて行ってもらいました。オーストラリアにある食材は、ほとんどが国産（オーストラリア産）でした。また、売られている食材は種類がとて多く、サイズも大きいのが印象的でした。

- ①私のファームステイ先では、ニワトリや牛を飼っていました。朝起きたら、ニワトリが産んだ卵を取りに行き、牛にえさをあげるのが日課でした。
- ②オーストラリアの町は自然豊かで、牛、鳥、馬などの家畜だけでなく、野生の動物も多く生息していました。また、お茶や果物、麦などの畑もたくさんありました。
- ③ミルクを絞っている工場に連れて行ってもらいました。また、牛乳からチーズを作っている様子も見てきました。



ニワトリが卵を産んでいました



ファームステイ先でとれた卵



牛乳を絞っている様子



チーズを作る工場の様子

### 3 まとめ

オーストラリアでは、地元で育てられた食材を食べることが多いということが分かりました。また、地元でとれたミルクがチーズなどに加工される現場を実際に見ることもできるため、より安心して食べることができるのではないかと感じました。

普段の生活の中で自分たちが食べている食品が加工される前の状態（牛や豚などの生きている状態）を見たり、自分で育てたものを食べたりする機会が多いことは、食べられることへの有り難みや食品に対する感謝の気持ちをより一層深めることにつながると思います。

日本（大仙市）ではオーストラリアの環境のように野生の動物に触れたり家畜を育てたりするのは難しいことだと思います。しかし、ミニトマトやジャガイモのような小さな野菜などを自分の力で育てることは、決して難しいことではないと思います。このような小さな取組を積み重ねることにより、やがて未来の日本、大仙市の地産地消の活性化が図られていくと思います。私はこれから、食べ物を食べるときは、食品や作った方への感謝の気持ちを忘れずにいたいと思いました。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

～家族紹介～

ホストファザー・・・Johnさん（とても明るくて元気な方でした。）

ホストマザー・・・Dianneさん（笑顔がすてきな女性でした。）

～ファームステイ先～

私たちがファームステイした家は、とても敷地が広く驚きました。家にはプールがあり、私は毎日プールに入りました。プールはとても広く、足が着かないくらい深かったです。家のプールなのに、プールの水が塩辛くて、まるで海のようなでした。また、家の中には写真がたくさん飾られていました。その中には日本のものもたくさん飾られており、うれしかったです。夜は毎日ホストファミリーとUNOをしました。家族みんなでやるUNOはとても楽しかったです。

～おいしいご飯～

ファームステイ先では、毎日おいしいご飯を食べさせてもらいました。ホストファザーが、食事の前に「いただきます。」、食事の後は「ごちそうさまでした。」と言ってくれました。日本語を話してくれたことがとてもうれしかったです。ご飯はバイキング形式で、夕食の後には必ずデザートがありました。私がステイ先で食べた食事の中で、一番おいしかったのは「タコス」です。



ステイ先で出たタコス



バイキング形式の食事

～ドライブ～

JohnさんとDianneさんは、毎日ドライブに連れて行ってくれました。日本に比べると車のスピードが速く、坂がとても急で、まるでジェットコースターに乗っているみたいでした。

ホストファミリーは、色々なオーストラリアの自然を見せに連れて行ってくれました。緑がとてもきれいで、空気がとてもおいしかったです。



ドライブ先で記念写真

～お別れ～

JohnさんとDianneさんとはハグをしてお別れをしました。はじめは慣れない生活で、言葉も通じず、「日本に帰りたい。」とってしまったときもありました。しかし、お別れのときはとても悲しくなり、涙が出そうになりました。3日間という短い時間でしたが、私にとってはとても長かったように感じます。

この3日間の思い出は、私にとって一生の宝物になりました。

## 2 オージーキッズと

オージーキッズたちと一緒に、たくさんのことを楽しみました。キッズの中にはハーフの子どもたちもたくさんいて驚きました。一人のハーフの男の子に、「Which do you like Australia or Japan?」と聞いたら、男の子は「I like Japan! I like yakitori!!」と答えてくれました。日本の食べ物をおいしいと言ってくれたことがとてもうれしかったです。

私たちは池で泳いだり、フライングフォックス（ロープウェイ式の遊具）で池に飛び込んだり、たくさん楽しい体験をしました。また、チーズケーキも作りました。レシピをもらったので家で作ってみたいと思います。夜には全員でダンスを踊って楽しみました。私はダンスが苦手ですが、フレンドリーなオージーキッズたちのおかげで楽しんで踊ることができました。

オージーキッズは、明るく元気でやんちゃな子どもたちが多く、本当に驚きました。毎日がこんなに賑やかだったら、とても楽しいだろうと感じました。

たくさん「元気」と「笑顔」をくれたオージーキッズたちに感謝したいと思います。



一緒に遊んだオージーキッズ



チーズケーキを作る様子

### 3 オーストラリアの街を散策

～動物園で～

オーストラリアの動物園にいる生き物は、日本にいるものとは全く違っていました。ここでは、コアラやワニ、ワラビーなどの動物を見ることができました。驚いたことに、ワラビーは檻の中に入っておらず、自由にさわることができました。触れても逃げず、人なつこくてとてもかわいかったです。



ワラビーと触れ合っている様子

～アボリジニ～

アボリジニとは、オーストラリアの先住民のことです。私たちは実際にアボリジニたちに会い、アボリジニショー（世界最古の木管楽器演奏、弓矢での狩りの仕方）を見たり、ブーメラン投げを体験したりしました。日本では絶対に見たり、体験したりすることができないとても貴重な時間を過ごすことができました。



アボリジニショーの一場面

～ケアンズの街でショッピング～

自由行動のとき、ケアンズ市内で買い物をしました。はじめは「言葉が通じなかったらどうしよう。」と不安でいっぱいでした。しかし、ケアンズの街には日本人の店員さんもたくさんいました。日本人に会えたことがとてもうれしかったです。

オーストラリアの店には、おいしそうな食べ物がたくさん売られていました。しかし、私たちは日本食が恋しくなり、夕食は日本食レストランを探し、そこで食べました。「早く日本に帰ってお母さんのご飯が食べたい。」と感じました。

ケアンズでの買い物はとても楽しく、秋田県では見ることのできないような光景もたくさん目にしました。

～世界遺産グレートバリアリーフ～

私たちは、グレートバリアリーフに行ってきました。グレートバリアリーフとは、世界遺産にも登録されている、たくさんの珊瑚礁が広がっている海域です。ここでシュノーケリングを体験しました。海を泳いでいると、目の前を大きなウミガメが通りかかって、とても驚きました。今思えば本当に素晴らしい体験ができたと感じます。グレートバリアリーフはどこまでも青く美しかったです。



ケアンズを走る列車



グレートバリアリーフ

#### 4 海外で活躍している日本人にインタビュー

(三人の方にインタビューさせていただきました。)

Q 海外で暮らしてみて感じたことは何か。

- A 1. オーストラリアの人は、自分の主張をしっかりとする。(日本人よりもアピール精神が高い)。  
2. 英語を話せなくても何とかなる！  
3. 日本と文化の違いが大きい。(あいさつのしかたなど。)

Q どのようにして英語を勉強したらよいか。

- A 実際に生の英語とふれあうことが一番大切。英語を使わなくてはいけない環境で生の英語と触れ合うことで、英語力が自然に身に付き急成長すると思う。

Q 海外で暮らしてみて良かったことは？

- A 人の目を見て話せるようになった。物事にこだわらず、人にやさしくなった。

インタビューでは、全員が海外に来てよかったと答えてくれました。また、海外で暮らしたことによって、自分の世界が広がり、色々なことに挑戦したり、興味をもったりすることができるようになったということも話してくれました。

海外に住んでいる日本の方々の話を聞き、私も自分の力で海外に行って、もっとたくさんの世界を見て、たくさんの方に挑戦していきたいと思いました。

#### V 海外研修を終えて

今回の海外派遣では、たくさんの方々の貴重な体験をさせていただきました。はじめは英語が通じず、とても不安で辛いこともありましたが、言葉を上手に伝えることのできない状況の中で生活し、「感情を態度や表情などで表現することの大切さ」を学ぶことができました。また、英語が通じたときの喜びも実感することができました。今回の体験を通して、もっと英語を勉強し、今度は自分の力で海外へ行きたいと思います。また、研究テーマをもったことで、オーストラリアのことだけでなく大仙市のよさも知ることができました。日本の中にも私の知らないことはまだまだたくさんあると思います。これからもたくさんの方に興味をもち、色々なことに挑戦していきたいと思っています。

また、オーストラリアに行ったことでたくさんの方々に助けをもらったと思います。その方々に恩返しをすることができるように、これから頑張っていきたいです。そして、今回学んだことを将来に生かしていきたいと思っています。

**This experience is my treasure. I will never forget it.**

**I will study English hard so that I can visit foreign countries through my own efforts.**

**I like English, and I love Australia!!**



# オーストラリア研修レポート

No. 3 大曲中学校 田口 桜子

## I はじめに

私は、将来英語を使う職業に就きたいと思っています。「なりたい職業に就くための一つの経験として、生の英語で色々な人と話したい」と思い、この研修に参加しました。ファームステイ先のホストマザーをはじめ、オーギーキッズや現地の人たちと英語でたくさん会話をすることができ、貴重な体験をさせていただきました。

## II 研究テーマ

「食料を長期保存するためには、どのような工夫があるか？」

{テーマ設定の理由}

秋田では大根を薫製にした「いぶり大根」や麴を使った漬物にしての保存法があります。冬期間雪の下に野菜を入れて保存する方法もあります。

そこで、暑い気候のオーストラリアではどのように食料を保存しているのかを知りたいと思い、このテーマにしました。

## III 調べた内容

### 1 ファームステイ先での食事について

私がファームステイ先で食べた食事と日本の食事を比べてみました。



- ・パイナップル、マンゴー、ブルーベリーの上にマンゴーヨーグルト（左）
- ・卵とトマトとハムとピーマンを焼いたものとトースト（右）

朝食



- ・ハンバーガー、ティムタム、バナナ、ブルーベリーのパンケーキ、果物ジュース

外で食べるのはとてもおいしかったです。

### 昼食（ピクニックにて）



- ・バーベキュー（ソーセージ、ハンバーグ、牛肉）、ポテトサラダ
- ・ライムのゼリーの上にたっぷりとかスタード

### 夕食・デザート

ロッジでも同じような食事が出ました。

秋田ではなかなか食べることのできないメニューもたくさんあり、貴重な体験でした。

## 2 オーストラリアでの食品の保存方法について

ホストマザーにインタビューしました。



シリアル



ベジマイト



ピクルス

主な保存食として  
シリアル（乾燥）  
ベジマイト（塩漬け）  
ピクルス（酢漬けや塩漬け）  
ジャム（砂糖漬け）  
などがありました。

朝食はシリアルを食べることが多く、シリアルの中には乾燥させたブドウやリンゴやバナナが入っているそうです。

同じく朝食の時によくパンと一緒に出てくるベジマイトは、オーストラリアではとても有名な食べ物で、これも保存食の一つです。ベジマイトは、キュウリ、ブロッコリー、玉ねぎ、肉を塩に漬けこんだものです。濃い塩味でなじみがないので、不思議な味に思えました。

ピクルスとジャムは、日本と同じく野菜や果物を塩漬けと砂糖漬けにした保存

食です。オーストラリアは暖かいため果物がよくとれます。そのため、ジャムは色々な種類があります。私が一番珍しいと思ったのは“マンゴージャム”です。日本では見たことがないのでびっくりしました。

他にもスモークサーモンのような薫製や酢漬けなどの保存法があります。

オーストラリアの人は酢が大好きで、フライドポテトにも“酢”、ポテトチップスにも“酢”をかけるそうです。

秋田では酢よりは、醤油やみそを使うことのほうが多いように思います。

### 3 考察

暑いオーストラリアと寒い秋田では、保存方法がかなり違うと考えて選んだテーマでしたが、食料を長くもたせるための基本的な方法は同じでした。殺菌作用のある酢や塩を使って保存するのは、世界共通だと知りました。しかし、オーストラリアの酢と塩の味は濃くて（ベジマイトなど）、秋田より大量の調味料を使っているように感じました。

韓国やタイでは辛い調味料で保存することもある（キムチなど）ようですが、今回の海外研修では見つかりませんでした。

また、乾燥させてフルーツを保存することが多く、やはり太陽の国オーストラリアならではだと思いました。私は、今回の研修以前はドライフルーツが苦手でしたが、今はおいしく感じられます。

祖母の家ではいぶり大根を作っているのでスモークや薫製した食べ物も探してみました。スモークサーモンやベーコン、ハムなどはありましたが、野菜をいぶして保存することはないようです。いぶり大根は手間がかかりますが、おいしくて春まで食べられる素晴らしい保存食です。他には見られない独自の食文化だとあらためて思いました。

大仙市にはまだ、世界に誇れる食文化がありそうですので、さらに調べてみたいと思いました。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ先での生活

私がお世話になったファームステイ先は、ホストマザーのSANDYさんと娘のCHEYANNEちゃんのお宅でした。残念なことに、CHEYANNEちゃんはお父さんの家に行っていて、ステイ中は会うことができませんでしたが、オーギーキッズとの交流の時に会うことができました。

SANDYさんはとても優しく面白く、そして日本が大好きな方でした。私が英語が

分からずにいると、手でジェスチャーをしてわかりやすく教えてくださったり、自分の和英辞典で日本語に直したりして話してくれました。



オーストラリアの滝



オーストラリアの湖

たくさんの観光地に連れて行ってもらいましたが、そのほとんどが豊かな自然に囲まれた滝でした。オーストラリアは暑かったですが、滝のある場所はとても涼しく、野生の生き物の声なども聞こえてきて気持ちよかったです。

湖にも連れて行ってもらいました。最初にピクニックをし、そのあとに、湖に入りました。暑い日に、青く澄んだ湖の水に入るのはとても気持ちよかったです。その他にも、牧場見学や乗馬など、貴重な体験をさせていただきました。

## 2 海外で活躍する日本人

研修最終日の夜に、海外で働く日本人の方三人に話を聞く機会がありました。今回は原田さんに聞いたインタビューの一部を紹介します。

Q：なぜオーストラリアで暮らそうと思ったのですか？

A：もともと自分が海外で暮らしたかったのと、子供の環境を変えてあげたかったからです。

Q：オーストラリアで暮らすようになって一番困ったことは？

A：日本とオーストラリアでは文化の違いが大きく、あいさつ一つでも、慣れるまでが大変だったことです。

Q：オーストラリアで暮らすようになって、考え方が変わったことはありますか？

A：色々なことにこだわらなくなり、人に優しくなったことです。

{感想}

インタビューをしてみて、原田さんはポジティブな方であり、そのポジティブなところが、海外での生活やオーストラリアの方とのコミュニケーションのとり

方の成功につながっているのだと思いました。

原田さんを含め、オーストラリアで暮らしている三人の方からたくさんのことを学ぶことができ、外国についてさらに興味をもつことができました。

これからは私も自ら挑戦し、前に進んでいきたいと思います。

## V 海外研修を終えて

今回の海外研修は、「将来働く」ため、「人として成長する」ため、「大仙市をよりよくする」ためにたくさんのことを学ぶことができ、とてもすばらしい経験をさせていただきました。

ホストマザーをはじめ、現地のオーストラリアの方と英語でたくさん会話をすることができ、研修前に比べ自分の英語力が高くなったと思います。

このようなすばらしい経験を私にさせてくれた両親、このような機会を与えてくださった教育委員会のみなさん、たくさん私と英語で話してくれたオーストラリアのみなさん、

**本当にありがとうございました！**

## I はじめに

私がこの研修に参加しようと思った理由は、中学校に入る前から海外の人とのコミュニケーションに興味があり、研修に参加することで生の英語やオーストラリアの文化に触れたいと思ったからです。

また、この研修を通して、オーストラリアのよさと大仙市・日本のよさを比べ、大仙市のよさを改めて知る機会にしようと思ったからです。

## II 研究テーマ

私が設定したテーマは、「環境保全をすすめるためには、どうしたらよいか？」です。

自然に恵まれている大仙市にも、環境問題はあると思います。

そこで、オーストラリアで行われている環境保全の活動と、大仙市で行われている活動とを比べ、よりよい方法を見つけて大仙市の未来に生かしたいと思いました。

## III 研究方法と調べた結果

### 1 研究方法

- ① ホストファミリーに環境問題についてのインタビューをする。
- ② オーストラリア在住の日本人の方に、環境保全のため普段から心がけていることを聞く。

### 2 調べた結果

ホストファミリーにインタビュー

- ① オーストラリアの環境問題はどのようなものがあるのか。
  - ・野生化した動物たち（ウサギ、ロバ、ヤギ）によって、土地が荒らされている。
  - ・鉱石（金属）の採掘が環境破壊につながっている。
- ② このような環境問題に対して、何を行っているのか
  - ・野生化し、増えすぎた動物を駆除する。
  - ・農地の復元。
  - ・温室効果ガスを減らす。
- ③ オーストラリアの環境面でよい点とはなにか。
  - ・その土地固有の、絶滅の危機にさらされた動物が保護されている。

現地の日本人の方にインタビュー

(ここでは、ヒルトンホテルに勤務されている児玉さんにインタビューしました。)

① 環境保全のために普段、自分が心がけていることは何か

・印刷に失敗した紙の裏を再利用すること。

その他にも、ヒルトングループでは「NO BIN DAY」があります。

「NO BIN DAY」とは、週に数回食事を残さず食べ、ゴミを出さないというヒルトングループの社員が行っている取組です。

社員食堂にゴミ箱を設置せず、捨てられる場所をなくすというものです。

さらに、宿泊客が使い切れなかったせっけんを回収し、貧しい国に寄付するという活動なども行っています。



「NO BIN DAY」の表示

また、ケアンズ市内にはいたるところにゴミ箱が設置されていて、これがポイ捨ての防止になっているのではないかと考えました。

ゴミ箱には、デザインや形にも工夫がありました。

### 3 考察

大仙市でも、家族みんなで取り組むことができる「大仙市環境家族宣言」という事業や、不法投棄を防止するための監視カメラの設置やパトロールなど、様々な環境保全に対する活動が行われています。

オーストラリアでは、野生動物が多いなど、オーストラリアならではの環境事情があるため、大仙市とは異なる取組が多いことが分かりました。

しかし、「温室効果ガスを減らす」というのは、大仙市とオーストラリアだけでなく、全世界共通の問題だと思います。温室効果ガスの増加は、地球温暖化が進む原因の1つです。この対策として、私たちが普段の生活で簡単にできることは、「シャワーの使用時間を短くする」、「通勤・通学の際になるべく自転車を利用したり、徒歩で向かったりする」、「使っていない電気器具のコンセントを抜く」、「マイバッグを持参したり、包装の少ない商品を選んだりする」などが挙げられます。環境保全に対する関心を一人一人が今までよりもっと高め、意識するようになれば、環境保全の活動が促進され、大仙市のよりよい未来につながると思います。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

ステイ先が農場だったため、乳しぼりが体験できました。



農場の人の見本



私たちも挑戦！

滝やバッファローを見に行きました。



Millaa Millaa Falls



集まってきたバッファロー

お土産として、大曲の花火グッズや箸をプレゼントしました。また、2日目の夕食にはカレーを振る舞いました。

「おいしい」と日本語で言ってくれて、作ったかいはありました。

みんなで作ったカレー



今まで見たことがなかった動物をたくさん見ることができたり、家事の手伝いをしたり、バーベキューをしたり...と盛りだくさんの毎日でした。

短い期間でしたが、とても有意義な時間になりました。

お世話になった、Russell 夫妻には本当に感謝しています。

お世話になった Bob & Carmel





## 2 オージーキッズとの交流

オージーキッズは、みんな私たちより年下か同い年だったので、とても親しみやすかったです。

障害物レースでは、トップバッターだったので作戦を考える暇もなくスタートしましたが、みんなで声をかけあい協力して壁を乗り越えました。

いかだづくりでは、どうやったら沈まずにうまくいかだを作れるか、一人一人が知恵を出し合いみんなで作り上げました。その後のみんなで一緒に食べた食事、ダンスはとても楽しく、絆が深まった気がしました。私たちがクッキング講習で作ったチーズケーキも、キッズたちに喜んでもらえました。

土ボタルは、今まで見たことがなかったので、その美しさにとっても感動しました。

星も日本よりとても綺麗に見え、オーストラリアならではの数々の体験ができ、とても充実した時間になりました。



オージーキッズと一緒に

## 3 海外で働く日本人

研修中に4人の日本人の方にインタビューする機会がありました。

その中で、OKギフトショップの原田さんへのインタビューについて紹介します。

Q. なぜオーストラリアに移住しようと思ったのか？

A. 子どもをオーストラリアで育てたかったから。

Q. 今の仕事との出会いとは？

A. 知り合いに紹介してもらった。アルバイトから始めた。

Q. 店の売り上げを伸ばすために何をしているか？

A. くじびき、エコバッグの配布など。

Q. オーストラリアの環境のよさとは？

A. 自分がアバウトなのに対して、オーストラリア人もアバウトなので自分に適している。  
日本のように「やらなければならない」というルールがしっかりしていない。  
(ルールにしばられないということ)

Q. 無駄をなくすために、なにをしているか？

A. 印刷で失敗した紙の裏面を再利用するなど。

インタビューを通して、原田さんは文化が違う場所でも、自分らしさを大切にしながら生活しているということが伝わってきました。日本人の目線から見たオーストラリアについての意見を聞くことができ、とても勉強になる貴重な内容でした。

私も将来、海外で活躍できるような人になりたいと思っていますので、今回のインタビューから学んだことを生かし、現地で活躍されている方を目標に頑張っていきたいです。また、これからも、それぞれのお仕事で活躍し、もっと日本の良さを広めていってほしいと思います。

## V 研修を終えて

この9日間の研修は、とても充実した有意義な時間になりました。

初めて見たものや、初めて体験したことなど、私にとってとても素晴らしいものばかりでした。

自分の研究テーマを解決するために積極的に質問できたので、より一層海外への興味が深まりました。また、自分も持っている英語力を最大限に生かして実際現地で買い物をするのは、とても緊張する経験でした。しかし、何とか通じたのは、オーストラリアの人たちがとても気さくで温かい方ばかりだったからだと思います。オーストラリア人の人柄のよさにも助けられました。

今回この研修に参加したことによって、グローバルな立場で物事を判断できる人になりたいという思いが強くなりました。そして、研修で学んだことを将来の夢に存分に生かしていこうと思いました。

研修で体験したことを糧に、これからの英語学習に今までよりも力を入れていこうと思います。

# オーストラリア研修を終えて

No.5 大曲中学校 西村 駿

## I はじめに

僕がこの研修に参加した理由は、今自分が使っている英語が、ネイティブの人々にどのくらい通用するのかを知り、そこから、自分の苦手な部分や、授業で学ぶ際の留意点を知りたかったからです。小学校の頃から英語を習っていて得意科目だったので、海外に行ってみたいという思いもありました。申込みをする時は多少の不安はありましたが、派遣が決まった時には、しっかりがんばってみようと思えました。

## II 研究テーマ／設定理由

**テーマ：「CO<sub>2</sub>の排出を抑えたり，ゴミの分別を進めたりするためにできることはなにか？」**

**設定の理由：**僕が、この研究テーマにした理由は、地球温暖化が進む今、その進行を食い止めるために、自分にもできることはないかと思ったからです。現状を改善するために、誰でも身近なところから始められる対策を調べたいと思いました。

## III 研究方法／調べた内容

### 1 調べた結果

#### (1) CO<sub>2</sub>削減の対策について

大仙市で行われているCO<sub>2</sub>削減の対策としては、小中学校に太陽光パネルと蓄電池を設置したり、各家庭で取り組みやすい「大仙市環境家族宣言」を実施したり、大仙市太陽光発電事業【年間発電量約3000MWh（一般家庭約824世帯分も発電できる）】の展開などがあります。

オーストラリアでは、室温が高くてもクーラーなどはつけず、室内で過ごす時は「ファン」という大きめの扇風機のようなものを回していました。クーラーほどではないですが、とても涼しかったです。これも電気代が節約できるよい取組だと思いました。他にも、節電のため夜は早く寝て、明るくなる朝方に仕事や家事をすることが多かったです。

## (2) 「ごみ」について

### ① 「ごみ」に対する基本的な考え方の違い

日本のごみの分別について調べると、資源ごみとして、びん・缶やペットボトル、使用済み食用油など、最大14種類も分別して集めていました。僕はその事実を知り、少しびっくりしました。日本では、出たごみを回収しリサイクルしてまた使うという考えでしたが、オーストラリアでは、ごみ自体を出さないようにするという考えでした。

日本では、友だちにお土産を買う際に、小分けの袋をもらうのが普通ですが、オーストラリアで小分けの袋をもらおうとしたら、そのような習慣はないらしく、とても驚きました。なぜもらえないのか聞くと、「ビニール袋のごみが多いから」とか「ビニール袋は値段が高いから」と言っていました。「オーストラリアに比べ、日本はムダが多い国なんだ。」と思いました。

### ② 環境の違い

他にも、ゴミに関する事で一つ発見したことがあります。オーストラリアの町中を歩いていて少し違和感を感じたので、日本との違いを探したところ、「道にほとんどゴミが落ちていない」ということでした。どうしてポイ捨てが少ないのか不思議でしたが、色々な所に連れて行ってもらううちに理由が分かりました。それは、人が少しでも来そうな所には、必ずゴミ箱が置いてあるからです。ゴミ箱は少し大き目で、人が多く来そうな所では、四つも置いてありました。つまりポイ捨ては、その場に捨てる所がないために仕方なくしてしまう行為であり、どんな場所にもゴミ箱があれば、ポイ捨てはなくなると思いました。



マーケットの近くにあったゴミ箱



滝の近くにあったゴミ箱

### ③ ホテルでの取組

僕たちが泊まったホテルでは、社員専用の食堂があり、バイキングができるようになっていました。バイキングでよくあるのが、「取りすぎてしまい残して捨てること」です。これをもったいないと思った人がひらめいたのが、「NO BIN DAY」というゴミ箱を置かない日です。バイキングで残してしまうのは、残してもそれを捨てる場所があるから、という考えで、捨てる場所がなければ残さないだろうと始まった取組です。「NO BIN DAY」は毎週水曜日に設定され、ごみの量もかなり減ってきているそうです。



「NO BIN DAY」のほりがみ

### (3) 他の資源節約の取組について

オーストラリアでは、水はとても貴重な資源で、シャワーの時間が限られていたり、食事の時も、洗い物を減らすために一人に一枚、大きめの皿に1食分盛りつけたりしていました。屋外には貯水タンクがいくつもあり、資源をととても大切にしていました。それに比べ、日本は水資源に恵まれているので、毎日水を使いたい放題にしています。その点でも、日本はむだが多いと思います。どんなに水が豊富でも、使いすぎはよくないと思います。

## 2 考察

電力消費量を減らす方法は違いますが、日本もオーストラリアも、CO<sub>2</sub>を削減しようと努力している点では同じだと思いました。大仙市でさらにCO<sub>2</sub>を削減するには、夏はなるべくクーラーではなく電力消費の少ない扇風機を使ったり、クーラーを使う場合でも、設定温度を1℃か2℃上げるなどして、節電を心がけるとよいと思いました。

ゴミの分別については、これまでの取組を続けていくとともに、オーストラリアのようにゴミを出さないようにしていくことも、ゴミの削減につながると思いました。また、エコバッグを持参してレジ袋を使わないようにすることも、ゴミを減らしたり、資源を守ったりすることに結び付くのではないかと思いました。

## IV 海外で活躍する日本人

僕たちは、海外で働く日本の方々にインタビューすることができました。その中でも特にすごいと思った人は、マンガリフォールズのロッジで働いていた大屋<sup>おおや</sup>泰斗<sup>たいと</sup>さんです。海外で働きたいと思った理由は、「日本と違って、オーストラリアは自由だから」だそうです。

大屋さんにインタビューしました。

Q：オーストラリアに来て大変だったことは何ですか？

A：元々あまり英語が得意でなかったため、オーストラリアに来てみると全く英語が分からなかった。だから、最初はいつも他の日本人に頼っていた。しかし、それだと勉強にならないので、あえて全く知り合いのいないキャンベラへ移り住んだ。

Q：オーストラリアに来てよかったことは何ですか？

A：オーストラリアの大学を卒業した後、実は一度日本に帰って、サラリーマンとして働いた。しかし、満員電車で毎日乗るのはとても大変だった。オーストラリアで働く方が、自由で楽しく働けるのでよかった。

## 感想

僕が一番印象に残ったのは、オーストラリアで働く理由です。大屋さんは、オーストラリアが自由なところで自分に合っていて、今はとても楽しいそうです。大屋さんは、どんな生き方でも、「楽しく生きられるならそれでいいと思う。」と言っていました。だから、僕も自分に合った楽しい生き方をしていきたいと思いました。

## V エピソード

### 1 ファームステイ先にあったトランポリンで...!!!

僕たち男子が泊まった家には、屋外に大きなトランポリンやバスケットリングがあり、毎日午後になると、2～4時間くらいそれを借りて遊ぶことができました。（午前中は気温がとても高く、熱中症や脱水症状を起こす恐れがあるからと、使わせてもらえませんでした。）僕は、トランポリンでバックの宙返り（バック宙）に挑戦しました。最初は、回りすぎて失敗したりしていましたが、段々コツをつかんでいき、簡単に回れるようになりました。慣れてくると、今度は前方宙返り（前宙）に挑戦です。バック宙と同じようにできるかと思いましたが、難易度は全く別物でした。着地する足元が一瞬見えるバック宙に対し、前宙は足元が全く見えず、感覚で着地するしかないためです。それでも挑戦し続けるうちに、成功させることができました。失敗が多かった分うれしさも倍増で、次は、何もない床の上で、挑戦したいと思いました。

### 2 「楽しかった思い出のお出かけ」

僕たちのステイ先の家族は、3日間の滞在中に様々なところへ連れて行ってくれました。

一日目は、きれいな滝をたくさん巡りました。安全で浅いところでは、川に入ることもできました。オーストラリアは夏だったので、川の冷たい水はとても気持ちよかったです。体全体に染み渡るようで、ずっと入っていたいぐらいでした。でも、駐車場から滝のある場所までは、道がほとんど整備されておらず、足場が悪くて、歩くのがちょっと大変でした。

二日目は、ショッピングに行きました。お土産を売っている店やマーケットなど、色々な店へ連れて行ってもらいました。昼は広い公園へ行って、ピクニックを楽しみました。お昼ご飯にサンドウィッチを食べた後、園内でフリスビーなどをして遊びました。

三日目は、広い農場を散策しました。農場は歩いてまわれない程広く、赤と青の2台のバギーで案内してもらいました。2人ずつに別れて乗せてもらい、運転手と3人で乗るにはやや窮屈な感じでしたが、道のでこぼこでとても揺れて、スリル満点で楽しかったです。行った先には川があり、みんなで水浴びをしました。次に向かった先には、まだ産まれて数週間の子牛がたくさんいて、とてもかわいかったです。またいつかバギーに乗りたいです。

この最終日の夜にも、戸外でオーストラリアの自然を楽しみました。「空を見てごらん。」と言われ見上げてみると、そこには満天の星空が広がっていました。その中にゆっくり動く光があり、人工衛星であることを教えてもらいました。人工衛星を見るのは初めてだったので、珍しくて見えなくなるまでずっと眺めていました。流れ星も3回見ましたが、あまりにとっさのことで、願い事は1回もできませんでした。でも、流れ星も空一面の星も、ゆったり見るのができたので悔いはありません。



連れて行ってもらった滝



ピクニックで食べた卵サンド



バギーに乗せてもらった記念に

### 3 「アボリジニの人たち」

僕たちは、オーストラリアに来てから五日目に、アボリジニの人達に会いに行きました。ブーメランの投げ方を教えてもらいましたが、「少し利き手側に傾けて、力強く前に投げると高く遠くへ飛ぶ」と教わり、言われた事を意識して投げました。とても高く上がり、うまく飛ばせてうれしかったです。しばらく飛んだブーメランは、落ち始めたと思ったらもう一度上がり、意外な動きにびっくりしました。こんな飛び方を見るのは初めてで、印象的でした。

特製の槍を投げるところも見せてもらいました。30~40メートル程離れたところに立てられた小さな木を獲物に見立てて、投げていました。3発目に見事命中させたのを見て、獲物狩りのリアルさを実感しました。先住民の人達に会うのは初めてだったので、思い出深い体験になりました。



アボリジニの人

### 4 「フランクランド島」

六日目に、一日限定100人しか上陸できないフランクランド島に行きました。島の周りを取り囲むグレートバリアリーフがとてもきれいでした。島では、シュノーケリングを楽しんだり、島内散策をしたりしました。何とウミガメに会うこともできました。



海から撮ったフランクランド島

## VI 海外研修を終えて

僕は、この9日間という短い期間に、とても貴重な経験をたくさんすることができました。

その一つは、今回の研修で、初めてファームステイをしたことです。知らない人の家、しかも言語の違う人の家に泊まることは不安でいっぱいでしたが、注意しなければいけないことや、やらなければならないこと、分からないことなどをしっかり聞くことができました。自分の英語が通じてうれしかったです。英語力を試すことができた貴重な体験でした。

もう一つは、外国で働く日本人に会うことができたことです。オーストラリアに来ることになった理由や、中学生の頃の思い出などを聞くことができました。お会いした人たちは、色々な苦難を乗り越えてきた人たちばかりでした。そんな人たちを見て、僕も“もっとがんばらなければ”と思いました。

本物の英語は、テストのリスニングとはまったく違って、聞き取るのはとても難しく感じました。話すことも授業でやっているのとは違い、緊張してしまい、いつもなら普通にはっきりと話せることも、言葉が頭に浮かんでこなくてうまく話せませんでした。

僕は、今回の体験をこれからの英語の学習に活かしていきたいと思いました。また、普段の生活の中でも、環境を守ることを意識して生活していきたいと思いました。

# Australia report

No. 6 大曲中学校 畠山 ひなた

## I はじめに

私がこの研修に参加しようと思った理由は二つあります。一つ目は、自分の英語コミュニケーション能力がオーストラリアでどれだけ通用するか試してみたいと思ったからです。二つ目は、日本と異なる文化に触れ、食文化の違いや、自然の違いを生で感じ、自分の視野を広げてみたいと思ったからです。

### ○研究テーマ

『大仙市の地産地消を活性化させるには?』

## II テーマ設定の理由

毎日のように給食のメニューに使われる農産物に、大仙市の農産物が優先的に取り入れられていることは学んでいましたが、オーストラリアの地産地消の状況はどうなっているのかを調べ理解を深めることで、大仙市の地産地消を活性化させる方法を見つけたと思いました。

## III 研究方法/調べた内容

### 1 研究方法

- ① 現地のスーパーマーケットで、地産地消の様子を調べる。
- ② ファームステイ先で、地産地消についてインタビューする。

### 2 調べた内容

- ① 現地のスーパーマーケットでは、特に肉類が豊富で、オージービーフ、ポーク、チキンなど、たくさんの種類がずらりと並んでいました。他にはキウイやバナナなどの果物も豊富に取り揃えられていて、種類も量も豊富でした。売られている農産物のほとんどが、オーストラリア産でした。



豊富なオーストラリア産の肉類



- ② ファームステイ先の食事では、旬の果物が多く、マンゴー、パパイヤ、スイカ、バナナなどは、地産地消ということが分かりました。ステイ先ではにわとりを飼っていて、そのにわとりが産んだ卵が毎日のように食卓に並びました。



たくさんの地元の果物



産みたての卵

### 3 まとめ

オーストラリアでは、夏がとても暑く、作物が豊富に収穫されていました。ファームステイ先の生活で一番驚いたことは、食事の時に出来るもののほとんどが、家で育てられたものだということでした。自分たちで育てたものを有効に活用していました。大仙市でも、今まで以上に地産地消を活性化させるために、子どもの頃から地元の食材に関心をもたせ、生産者は食卓に安全安心な食材を提供することが大切であると思います。大仙市では、道の駅やスーパーマーケットで地産地消コーナーを設置していますが、地元のを、その地域でより多く消費していくことが地産地消の活性化につながると思います。

## IV エピソード

### 1 ファームステイにて

私はJOHNさんとDIANNEさんのお宅にホームステイさせていただきました。JOHNさんもDIANNEさんも優しく、明るく、とても元気な方々だったので、すぐにホームステイの生活に慣れることができました。

出会いの式でのあいさつで、  
We want to enjoy talking with  
our host family. と言ったら



ホストファミリーと

喜んでくれて、お話するのが楽しかったです。

JOHNさんはとてもドライブが好きで、毎日ドライブに連れて行ってくれました。大きなショッピングモールの中のチョコレート屋、チーズ屋など、色々な場所に連れて行ってくれ、町についても詳しく教えてくれました。DIANNEさんは料理がとても上手で、ステイ中の食事が毎回楽しみでした。特にラザニアが美味しかったです。ホームステイ先ではセルフサービス方式だったので、自分の食べたい分だけ盛ることができ、食べ残しを最小限に抑えることができました。さらにワンプレート方式で、洗い物が少なくなるため、水が貴重であるオーストラリアではよいアイデアであると思いました。このように、日本ではできない貴重な体験をたくさんさせていただき、とても勉強になりました。



カーテンフィグツリーにて



セルフサービス方式の食事

## 2 海外で活躍している日本人

海外で働く日本人の方にインタビューをしました。その中でも一番心に残った日本旅行の黒田さんのインタビューを紹介します。

Q. 仕事をしていて、やりがいを感じる時はどんなときですか。

A. 旅行から帰って来たお客さまから、楽しかったと言ってもらえた時。

Q. オーストラリアと日本の違いは何ですか？

A. オーストラリア人は人の目を見て話します。目を見て話すのはオーストラリアでは当たり前のルールで、印象もよくなると思います。

Q. 英語を上達させるには、どうすればよいですか。

A. 何事も経験を積むこと。例えば、日本で英語の映画を見て勉強すればいいと思います。恥ずかしがらずに常に英語でコミュニケーションをとることを意識することが重要であると思います。

黒田さんのお話を聞き、仕事をしていく中では大変なこともあるけれども、一生懸命頑張った分だけやりがいもたくさんあるとおっしゃっていたことが、一番心に残りました。

黒田さんには将来のことについてのたくさんのアドバイスをしていただいたので、これからの生活に活かしていきたいです。

## V 海外研修を終えて

オーストラリア研修では、全ての出来事が新鮮でした。最初は、自分の英語があまり通じなくて戸惑いましたが、アイコンタクトやジェスチャーをしながら英語を話し、自分の伝えたいことが相手に伝わった時は、とてもうれしかったです。また、オーストラリアに行ってみて、オーストラリアのよさを見つけられたと同時に、大仙市のよさもたくさん見付けることができました。



オージーキッズ



キュランダ溪谷鉄道

普段の生活では体験できない貴重な体験をし、楽しい思い出もたくさん作ることができました。とても綺麗な海で泳いだり、オージーキッズと交流したり、なにより20人のかけがえのない仲間とこの貴重な体験ができたことは、私の人生の中の宝物です。この経験を将来に活かして頑張りたいです。



カンガルーの赤ちゃん

# =AUSTRALIA REPORT=

No. 7 大曲中学校 森元 遥香

## I はじめに

私がこの海外派遣研修に応募しようと思ったきっかけは、小学校の頃から英語を習っていて、海外に興味があったからです。

今までは日本で、ALTの先生からネイティブの英語を学んでいましたが、この機会に、普段の生活で使われている英語に触れて学びたいと強く思い、応募しました。

また、私はオーストラリアとその自然・環境に興味があり、オーストラリアで学んだことを生かし、自分の身の回りから環境問題に対する意識を高めていこうと考えました。

## II 研究テーマ／設定の理由

### 「より多くの人々が資源を大切にするには？」

環境問題は、日本だけでなく世界各地で起きている大きな課題です。

そこで、オーストラリアではどのような資源を大切にしているのかを学び、自分の日常生活に生かしたいと考え、このテーマを設定しました。

## III 研究方法／調べた結果

### ・研究方法

- ①ステイ先で、資源を大切に使う工夫を見たり質問したりする。
- ②どのような活動をしているのか現地の日本人の方に聞く。

### ・調べた結果

- ①機械を利用して水を汲み、利用できる限り使っている。



水を汲み出す機械



ここに水をためている

- ②ホテルでは決められた日に「NO BIN DAY」というものを設定し、ゴミを出さないようにするために、社員食堂からゴミ箱をなくしている。



「NO BIN DAY」のポスター

## 【考 察】

大仙市でも広報で「資源を大切に使いましょう」と呼びかけたり、タイヤの不法投棄をなくすための様々な取組をしたりしています。

しかし、日常生活を見てみると、給食の食べ残しやうがいをする際に水を出しっぱなしにするなど、身近なことで資源を大切にしている意識が、オーストラリアに比べると低いのではないかと思います。

そこで、資源を大切にするための工夫として、大仙市内の小・中学校でも、週に1回「NO BIN DAY」を設定すればよいと思います。そうすることで、物を燃やす燃料が減り、一人一人の環境問題に対する意識を高めることにつながるのではないかと考えました。

身近にできることを日頃から心がけて行い、学生である私たちが習慣として身に付けることで、将来の大仙市の資源活用に対する意識や環境問題の在り方も、よい方向に変わってくるのではないかと思います。

## IV エピソード

### 1 街全体が緑（自然がたくさん）

ステイ先の庭



飼い犬と散歩



ホテルの外の様子



街の様子



ケアンズの街全体は、どこを見ても自然でいっぱいでした。

ステイ先の庭には川が流れていて、吊り橋までありました。その庭を2匹の飼い犬が自由に歩き回っていて、一緒に散歩にも行きました。

## 2 日本からのお土産

私たちはホストファミリーへのお土産として、「コアラのマーチ」や「ハイチュウ」などのお菓子、そうめん、箸置きを贈りました。

ファームステイ2日目の昼食に、そうめんを作ってあげました。ホストファミリーは「delicious!!」(美味しい!!)と言って食べてくれました。

その夜、ホストマザーのGwenさんが、残ったそうめんで作って来て、とてもおいしかったです。



そうめんを食べるホストファミリー

完成したそうめん

## 3 オーストラリアで生活する日本人にインタビュー

ケアンズ市内でホテルの営業を担当している児玉有正さんは、2001年にオーストラリアのアデレードに一人で来ました。

**Q**：オーストラリアに来る前はどのような仕事をしていたのですか？

**A**：2001年までは、ディズニーランドのポリネシアンテラスレストランでウェイターとして働いていました。

**Q**：なぜその職業をやめてオーストラリアに来たのですか？

**A**：元々ホテル業に興味がありました。  
でも履歴書に英語で記入する欄があり、それが書けませんでした。  
それで、そのことをきっかけに留学してみようと思い、オーストラリアに来ました。

**Q**：オーストラリアに来て大変だったことは何ですか？

**A**：飛行機の乗り継ぎや、言葉の違いです。  
それともう一つは、オーストラリア人と自分たち（日本人）の価値観や文化の違いです。

**Q**：オーストラリアで学んだことは？

**A**：もちろん英語です。  
それから海外にいと、逆に日本の様々なことが分かります。

### 【感想】

児玉さんは、「英語を学ぶ学校にいた頃よりも、ホテル業について学ぶ学校にいた頃の方が英語力が伸びた」と言い、そして私たちに「若いうちから喉を英語の形にしておくとよい」と教えてくれました。大人になってから英語を学ぶと、喉が日本語の形に慣れてしまっているのよいイントネーションになりにくいからだそうです。

最後に児玉さんがおっしゃった「外国が自分を強くした」という言葉を自分なりに理解し、大切な言葉として自分の将来に生かしていきたいと思いました。

## V 海外研修を終えて

初めての海外は不安ばかりでしたが、オーストラリアの人は誰にでも優しく、心の広い人がたくさんいました。

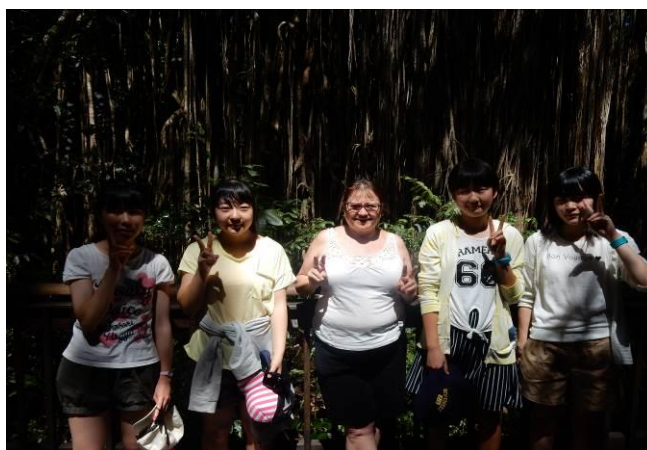
この研修で、本だけでは知ることのできないことをたくさん学び、日本ではできないことをたくさん経験させてもらいました。

海外で生活することで、日本との違いをたくさん知ることができました。例えば日本の主食はお米ですが、オーストラリアは朝・昼・晩と毎日パンでした。そしておかずがとても多く、肉中心の食事でした。

また、オーストラリアでは、家から一歩外に出ると目の前に自然があふれていました。見たことのない植物や花、動物、大きな滝、青い海など、すべてがとても素敵で、日本では体験できない9日間でした。

英語でのコミュニケーションはとても難しかったのですが、笑顔で相手と会話することができました。伝わらないこともたまにありましたが、ジェスチャーで思いを伝えることができました。

この研修で経験し学んだことをこれからの生活や将来に生かし、いつかまたオーストラリアに行った時には、この研修以上のことを学びたいと思いました。



ホストマザーとの記念撮影

# オーストラリアレポート

No.8 大曲西中学校 佐々木優斗

## 1 はじめに

私がこの研修に参加した理由は、三つあります。

一つ目は、日本と違う世界を知りたかったからです。私は、以前から外国に興味がありました。外国ではどんな人が、どんなことを考えて、どのように暮らしているのか知りたかったので、それを実際に見るよい機会と思いました。

二つ目は、自分の英語力がどれくらいかを試してみたかったからです。私は、小さい頃から英語を習っているので、実際に現地の方と触れ合うことで、これまで学んできた英語がどれくらい通用するのかを知りたかったからです。

三つ目は、私は将来海外で暮らしたいと思っており、外の世界にあこがれをもっていたからです。

## 2 研究テーマ

### 大仙市を観光地にするには、どうしたらよいか？

## 3 設定の理由

今、日本では少子高齢化が問題になっています。特に秋田県では急速に進んでおり、どうやったらそれを食い止められるかを考えたときに、地元を観光地にして大仙市に人を呼び込めばよいのではないかと考えました。

また、私は大仙市が大好きなので、大仙市のよいところを世界中の人たちに伝えたいと感じており、そのためにはどうすればよいのかを考えたいと思いました。

## 4 調べた内容

- ① 大仙市の観光地の現状を知り、オーストラリアと比較する。
- ② ファームステイ先の家族や、オーストラリアで働いている方々に、地域の魅力をどのようにして伝えているかなどを、インタビューする。
- ③ オーストラリアでの滞在を通して、オーストラリアの観光への取組について調べる。



マンガリーフォールズの滝



移動中に見た畑



## 5 調べて分かったこと

### ① 観光地の現状について

- ・大仙市

- ・海外にはあまり見られない、四季を生かした観光地。
- ・神社・屋敷などの、歴史的な観光地。(例:旧池田氏庭園)
- ・花火の街として売り出している。
- ・名物のコンテストなどを行うことで名物を増やしている。
- ・大仙市にしかない特産物で勝負をしている。



日本の番組にも取り上げられる列車

- ・オーストラリア

- ・自然がメインの観光地が多かった。
- ・日本人向けのパンフレットを作っていた。
- ・オーストラリアにしかない動物がいる動物園があった。

### ② インタビューから(ホストファミリーや添乗員さんなどに聞きました。)観光地を有名にするにはどうしたらよいですか？

- ・積極的に、その観光地のよさを話す。
- ・さまざまな国の言葉のパンフレットを作る。
- ・インターネットなどを使っていろいろな人が見られるようにする。

### ③ オーストラリアの観光への取組

- ・パンフレットを作る。
- ・インターネットで配信する。
- ・自然を生かすために、自然を守る。

## 6 考察

インタビューで、「パンフレットやインターネットで配信しても、興味をもたないと行ってみようとは思ってくれないので、興味をもってくれるようなものを作ろうと頑張っています。」と聞き、まずは興味をもってもらうことが大切だと知りました。

また、私は、「観光地がないのなら、作ればよいのでは？」と考えていましたが、実際は、観光地を作るといことはとても難しく、私の考えは容易なことではないと痛感しました。だから、大仙市もオーストラリアも、その地にもともとある自然や歴史的なものを上手に生かして、観光地として利用することで地域の活性化をしていました。

これらのことから、中学校で行っているクリーンアップや、地域で行っている清掃活動など

には、もっと積極的に参加しようと強く思いました。観光地にするためには、観光地の管理はとても重要なので、一部の人だけではなく、地域が一丸となってきれいにしていくことが大事だと思いました。

## 7 エピソード

### ① ファームステイ

私は、Borgartさんの家にファームステイしました。敷地がとても広くて驚きました。犬が3匹と、猫が1匹、その他牛や馬、鶏などのたくさんの家畜もいました。更に、庭にはバスケットリングとトランポリンまであり、すごい家だと思いました。最初は、英語で何を言っているのか分かるか、自分の話す英語が伝わるかなどの不安がありましたが、ホストファミリーの皆さんは優しく、たくさん話すことができました。

一日目は、滝巡りをしました。オーストラリアの季節は夏でとても暑かったのですが、滝の周辺はとても涼しく、暑さを忘れるほどでした。

二日目は、ピクニックに行きました。ピクニックに行く前に、郵便局やスーパーにも立ち寄りました。スーパーには、日本でも見かけるような商品が置いてあって、少し親近感がわきました。ピクニックは、公園に行き、ホストマザーと昼食を食べました。ホストマザーが作ってくれる料理はどれもとてもおいしくて、たくさん食べました。昼食後にみんなでフリスビーをしました。久々に公園で遊んで少し疲れましたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。

最終日は、さやいんげんの収穫をしました。その日はとても暑くて大変でしたが、これがホストファミリーとの最後の日と思うと、ホストファミリーへの感謝の気持ちがわいてきて、たくさんあったさやいんげんをすべて収穫することができました。収穫後のさやいんげんは、両端を切り落として、食べやすいように処理もしました。

ホストファミリーと過ごした三日間は、現地の方と交流するよい機会となりました。ホストマザーはとても優しく、いつも私たちのことを考えてくれていて、うれしかったです。おかげでファームステイは、オーストラリアでの一番の思い出となりました。



朝食の様子



ホームステイ先の朝食

## ② オージーキッズとの交流

現地の子どもたち、オージーキッズとの交流では、障害物レースやダンスをしました。障害物レースは、オージーキッズがとても活発で、積極的に意見を出してくれて、難なくクリアすることができました。最初私はあまり話さなかったのですが、オージーキッズがたくさん話しかけてくれたので、私もうちとけることができました。その後、みんなでダンスをしました。発表会のようなものを行いました。やはりオージーキッズは積極的で、どんどん前に出て行って、様々なダンスを披露してくれました。



オージーキッズ

## ③ フラン克蘭ド島

1月9日には、1日100人のみ上陸を許可される特別な島に行きました。途中、野生のワニが息している、マングローブに囲まれた川のクルーズもしました。海は透き通っていて、とてもきれいでした。島にはさまざまな植物があつて、とても面白かったです。こすると熱が出る豆など、不思議な植物がたくさんありました。上陸人数を制限するなどして、自然保護に努めていることが、すばらしい生態系につながっているのだと改めて思いました。



フラン克蘭ド島の海



こすると熱が出る豆

## 8 海外で働いている方々へのインタビュー

### ① 日本旅行の現地支店長の黒田さんへのインタビュー

(1) なぜ海外で働こうと思ったのですか？

- ・ 修学旅行でアメリカに行って、そこで海外の異文化に触れて、海外で働きたいと思ったから。

(2) 海外の仕事で大変なことは何ですか？

- ・ 死亡事故が起きたときに、政府や病院関係の手続きが大変なこと。

(3) パンフレットを作るときに、気を付けていることは何ですか？

- ・ パンフレットを見るお客様の国にあわせて、好みの場所などのデータを集めて作ること。

## ② 現地のお土産店で働いている原田さんへのインタビュー

(1) なぜ海外で働こうと思ったのですか？

- ・日本での仕事は、枠にとらわれているような気がして、嫌だったから。

(2) 海外の仕事で大変なことは何ですか？

- ・お土産店は同じものを売っているところが多く、ライバルもたくさんいますが、その中で買ってもらえるようにすること。

(3) 海外で生活していくうえでのこつは何かありますか？

- ・枠にとらわれない自由な発想。

インタビューをしてみると、海外で働く方々には、「海外で働く」という強い意志が感じられました。また、どの方も海外で働いていて後悔をしている人はいませんでした。このインタビューをしてみて、私も海外で働いてみたいという気持ちが強くなりました。

## 9 海外研修を終えて

今回の海外研修では、日本とは全く違った言葉、文化、考え方をもった人々が生活しているオーストラリアで、日常生活とはかけ離れた貴重な体験ができて、とても面白かったし勉強になりました。

今回の研修を通して、様々なことを学びましたが、一番心に残ったことは、「周りの意見に流されない」ということです。一見普通の、誰にもできるようなことですが、私はこれまで周りの意見に流されてしまうことがあったので、この「周りの意見に流されない」という言葉を聞いたときに、少し怖くなるほどでした。

そのほかにも学んだことがたくさんあり、それら研修で学んだことを今後の生活に生かしていきたいと思います。

今回このような貴重な体験をさせていただき、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

# Australia Report

No.9 大曲西中学校 田畑璃子

## 1 はじめに

私がこの研修への参加を希望した理由は二つあります。

一つ目は、昨年度、この研修に参加した友達の研修発表を見て、自分も実際に見て、その感動を味わってみたいと思ったからです。

二つ目は、今の自分にどれくらいの英語力があるか試してみたかったからです。私は将来、英語を生かした職業に就きたいと考えています。英語コミュニケーション能力を向上させるために、また、将来の夢を叶えるために、今の自分に何が足りないのか、足りないところを補うために何をすればよいのかを見付けるよい機会だと思い、参加を希望しました。

この研修に参加できることが決まってから、出発の日をとっても楽しみにしていました。楽しみと同時に、しっかり英語が通じ、コミュニケーションがとれるかという不安もありました。

## 2 研究テーマと設定の理由

### ① 研究テーマ どんな暮らし方の工夫があるのか？

### ② 設定の理由

第1回目の事前学習会で、「オーストラリアでは、水が一番大切に貴重な資源である。」「1月のオーストラリアは真夏で日差しが強い。」ということ学びました。そんなオーストラリアで生活する人々は、どのように水資源を守る工夫をしたり、暑さ対策をしたりしているだろうと考えたからです。今、私の学校ではペットボトルキャップの回収やクリーンアップ、ゴミの分別などといった環境保全の取組をしています。オーストラリアで行っている節水方法は、日本でも参考にできることがあるかもしれないので、これからの自分の生活の中で取り入れたいと思い、このテーマを設定しました。

## 3 研究方法

- ・ファームステイ先のホストマザーや、オーストラリアで働いている日本人に、節水方法や暑さ対策などについてインタビューする。
- ・ケアンズの街を調査する。

## 4 調べて分かったこと

### 【水について】

#### ①節水方法

- ・シャワーを浴びる時間を短くする。(最大5分)
- ・歯磨きで使う水を出しっぱなしにしない。
- ・庭の植物にまく水は雨水を利用する。
- ・タンクに雨水を貯める。(ファームステイ先のタンクは6つある。)
- ・飲み水は川の水を汲む。(水を汲んだらフィルターにかける。)



水を貯めるタンク

## ②水を大切に使うための工夫

- ・年間、規定以上の水を使うと、水の税金が課せられる。
- ・ペットボトルの水やジュースの値段が高い。(水が貴重だから)
- ・車を洗ってはいけない、庭に水をまいてはいけない時期がある。(その期間中に水を使っていたら、近所の人が市役所に電話する。)

### 【暑さ対策】

- ・こまめに水分補給をする。
- ・風通しがいい服装をする。
- ・外出するときは、帽子をかぶり、日焼け止めをこまめに塗る。
- ・涼しいところで休み、なるべく日陰の道を歩く。
- ・近所の川や湖などで水泳をする。
- ・家のドア、窓を全開にする。



川の水をきれいにする  
フィルター

## 5 考察・まとめ

インタビューをしてみて、日本人よりも水を大切に使用していることが分かりました。オーストラリア人の、水を大切にする心は、日本人にも必要なことだと思うので、より一層節水を積極的に行い、しっかり周りの人に呼び掛けていきたいと思いました。

また、オーストラリアの暑さ対策と日本での暑さ対策は、共通点が数多くあったので、驚きました。

水をたくさん使いすぎると、水の税金が課せられることにとても驚きました。でも、それだけオーストラリアでは水が貴重で、国民一人一人が水を大切にする意識を高めることにつながっているのだと思いました。

今回学んだことを、普段の家庭生活や学校生活の中に取り入れて、今よりも環境にやさしい生活が送れるようにしたいです。

## 6 エピソード

### ★ファームステイ★

私は、Sandyさんのお宅にファームステイに行きました。Sandyさんは、とても元気で明るく、優しい人でした。初めは、自分の英語がしっかり伝わるのか不安で、あまり話すことができませんでしたが、Sandyさんが笑顔で接してくれたので、自然と笑顔でコミュニケーションをとることができました。

一日目は、ドライブしながら滝を見に行ったり、ショッピングに行ったりと、たくさんSandyさんと触れ合うことができました。

二日目は、ピクニックに出かけました。湖に入って泳ぎ、とても気持ちよかったです。その日の夜に、庭で星を眺めました。オーストラリアは南半球にあるため、星の位置が日本と反対に見えたのが印象的でした。



Sandyさんと一緒に

三日目は、Sandyさんの友達の牧場に行って、乗馬体験をしました。馬に乗ることに最初は恐怖心がありましたが、実際乗ってみると、楽しかったです。

三日目の昼に日本の文化の紹介ということで、うどんを作りました。Sandyさんは和食が大好きで、とても喜んでくれてうれしかったです。夜には、一緒に折鶴を折りました。折り紙を楽しんだ後、Sandyさんがタオルアートを披露してくださいました。2枚のタオルが華麗に変身するのは折り紙と似ていました。

最終日、Sandyさんと娘のCheyanneちゃんへのプレゼントを渡しました。年賀状や昔話の絵本、折り紙で作った洋服や動物を、感謝の気持ちを込めてプレゼントしました。もっと一緒に過ごしたかったです。Sandyさんのおかげで充実したファームステイを過ごすことができました。Sandyさん、本当にありがとうございました！！



乗馬体験！



タオルアート・白鳥

### ★オージーキッズとの交流&土ボタル鑑賞★

オージーキッズとの交流では、障害物レースやバーベキュー、ダンスの交流をしました。3チームに分かれてのアクティビティでは、私のチームのオージーキッズが元気いっぱい、一緒にいて楽しかったです。オージーキッズの中にはホストマザーの娘のCheyanneちゃんも含まれていて、ステイ中には会えなかったもので、ここでたくさん話して交流することができました。ダンスではみんな積極的で、堂々と前に出て踊っていました。その踊る姿に元気をもらいました。オーストラリアで有名な曲や日本で有名な曲など、皆でたくさん踊り、楽しかったです。現地の子とも交流する機会はあまりないことなので、とてもよい経験になりました。



元気なオージーキッズたち

夜には、土ボタル鑑賞に行きました。土ボタルは人によって青白く見えたり、緑に見えたりするようですが、私はなぜだか青白い緑に見えました。マンガリーフォールズの方の話によると、青白い緑に見える人は珍しいようです。土ボタルの放つ光は、まるで星のように美しかったです。

### ★フランクランド島★

1月9日に、1日100人の上陸のみ許可されたフランクランド島に行きました。こんなに青い海は写真でしか見たことがないというほど美しかったです。



フランクランド島から見た海



海中に生息している珊瑚礁

## 7 海外で活躍している日本人にインタビュー

### ①マンガリーフォールズで働く大屋さん

1 オーストラリアで仕事をしてよかったことはなんですか？

- A
- ・楽しい施設にやりがいをもっている。
  - ・やりたいことが何でもできる環境がよい。
  - ・自分の好きなことを仕事にできる。

〈楽しく生きられる環境は大切〉

2 どうやって英語力、コミュニケーション能力をつけましたか？

- A
- ・DVDをたくさん観る。(初めは字幕なしで) \*初めはディズニー映画を観た。
  - ・発音に癖をつけて毎日繰り返し練習する。
  - ・音楽の話題を通して会話力アップ。音楽は世界共通だから。

〈感想〉 とても楽しそうに仕事をしていた大屋さんですが、たくさんのことを経験した方だったので、何事も経験が大切だと思いました。

### ②OKギフトショップで営業の仕事をしている原田さん

1 英語が通じないときはどう対処していましたか？

- A
- ゆっくり話してもらおう。それでも通じないときは、紙に書いてもらおう。  
後で、分からなかった単語を調べる。

2 もっと英語を話せるようになるためにはどうすればよいですか？

- A
- 恐れずに、英語での会話を楽しんだ方がよい！自信をもって話す。  
失敗して学ぶこともたくさんある。英語を楽しむ！

〈自分がこうなりたいという心をもつことが大切〉

〈感想〉 原田さんには、英語力アップのコツをたくさん教えていただきました。  
英語力アップはやっぱり努力だなと強く思いました。



### ③ダブルツリー・バイ・ヒルトンで働く児玉さん

- 1 オーストラリアに来て大変だったことは何ですか？  
A ①飛行機(国際線→国内線への乗り継ぎ) \*英語が通じなくて大変。  
②言葉  
③価値観  
④文化の違いを説明すること(やりがい、難しさもある)
- 2 今の仕事のやりがいは何ですか？  
A 日本とはまた違ったビジネスができること。
- 3 オーストラリアに来て、特に学んだことは何ですか？  
A 日本のよさを改めて知った。海外に来ると、日本のよさがわかる。  
(児玉さんが思った日本のよさ)  
① 日本人の礼儀正しさ(しっかりしているところ)  
② 親への感謝、ありがたさ

〈若い時からいろいろ経験し、

英語に触れることが英語力アップの秘訣〉

〈感想〉児玉さんはとても仕事熱心な方でした。英語を身に付けるためにたくさんの努力や経験をされた方だったので、得たものがとても多かったです。

### ④株式会社・日本旅行ケアンズ支店に勤めている黒田さん

- 1 どうしてオーストラリアに来ようと思いましたか？  
A 高2の修学旅行でアメリカに行ったとき、日本語と英語が堪能なバスガイドさんに憧れて海外に住もうと思った。オーストラリアは自然が豊かなので、住む国はオーストラリアにした。
- 2 オーストラリアに来てよかったことは何ですか？  
A ①通勤時間が短いこと(車で10分) \*東京にいたときは毎朝満員電車で通勤  
②職場での上下関係がなく楽なこと \*オーストラリアはフレンドリーな社会  
〈感想〉黒田さんには、研究テーマに関する質問をし、とても丁寧に答えていただきました。オーストラリアに来て19年目の黒田さん、経験豊富で質問に対する答えが的確で分かりやすかったです。

#### 〈インタビューを通しての感想〉

インタビューを通して、英語力をアップするためには、自分から積極的に英語にたくさん触れたり、会話したりすることが大切だと分かりました。今回学んだことを生かし、英語力をアップさせたいです。毎日少しずつ取り組めば大きな力になると思うので、継続して頑張りたいです。

## 8 海外研修を終えて

今回の研修で、普段できない体験をたくさんすることができました。初めての海外で、不安な面もありましたが、充実した時間を過ごすことができ、あっという間の研修期間でした。

また、オーストラリアに来て、日本のよさが改めて分かった気がしました。ホストマザーや町の人は皆、「日本が大好き」と言っていました。それを聞いた瞬間、日本で生まれ、育ったことに誇りをもつことができました。

「英語を使う職業に就きたい」その夢を叶えるために今自分ができることは、英語の知識を増やすことです。オーストラリアでも、自分の英語力の未熟さを感じました。これからは、以前より積極的に学習に取り組んでいきたいです。

この研修で学んだことを普段の生活や、学校生活の中で生かし、よりよい大仙市の未来をつくるために自分ができることをしていきたいです。

最後になりますが、今回、このような機会を与えてくださった教育委員会の方々、引率してくださった先生方、本当にありがとうございました。



オーストラリアの雄大な自然



水が綺麗な湖

# Australia report

No. 10 大曲南中学校 2年 佐々木 由希

## I はじめに

私は中学校に入ってから、英語を学ぶことの楽しさを知りました。英語が話せるようになってからは、以前の私にはできなかった、外国人と意思疎通ができるようになったことに、誇りを感じていました。英語が日常的に使われている世界は、私にとって未知の世界で、強い憧れをもっています。将来、英語を使う職業に就きたいと考えているので、生の英語に触れたり海外の自然環境や文化に触れたりすることで自分の視野を広げたいと思い、この研修に参加させていただきました。

## II 研究テーマ

「日本の豊かな自然を守り、よりよい環境で人々が快適に暮らしていくために、私たちは何ができるだろうか？」

### 1 設定理由

私の学校では環境学習に積極的に取り組んでいます。その中で「日本の自然環境はよいといえるのだろうか？」という疑問をもちました。日本はごみを出す量が非常に多く、過去には高度経済成長に伴って大気汚染や水質汚染などが問題になりました。一方で森林や天然林が広がり、自然が豊かであるというよい面もあります。

そこでオーストラリアの環境保護に目を向け、よいところを取り入れて自然を守り、大仙市が更に人々にとって快適に過ごせる環境になればよいと思い、この研究テーマを立てました。

### 2 調査方法

- ① 自分の地域の自然環境や行われている環境保護対策について知るために、大仙市役所の環境交通安全課の方々にインタビューする。
- ② ホストファミリーにごみを減らす工夫などについて質問する。
- ③ ケアンズ市街やオーストラリアの訪問地の自然を観察する。また、ホテルの裏側を視察する。

### 3 調べた内容

- ① 大仙市で行われているごみ対策について
  - ・ 不法投棄監視員による巡回パトロールや、不法投棄監視カメラの設置など

による不法投棄防止対策

- ・ 発泡スチロールや食品トレイ、使用済み小型家電などの回収の呼びかけ
  - ・ レジ袋の削減とマイバック・マイバスケット持参の呼びかけ
- 問題になっていること→給食の残飯が非常に多い。

## ② ホームステイ先で見聞したこと

質問内容

Q. 一日に出るごみの量はどれくらいですか？

A. 約0.5kg

Q. ごみを減らすために何か工夫していることはありますか？

A. リユース、リサイクル

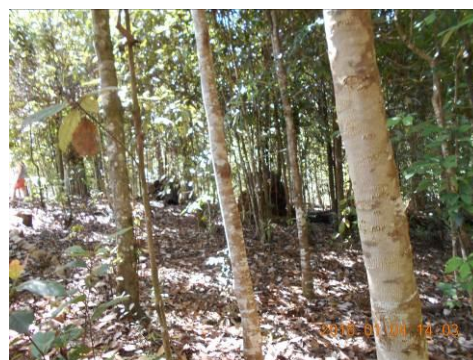
Q. 環境を守るために行っていることはありますか？

A. 木を植える、水を節約する、自然にやさしい製品を使う



ホームステイ先の家の庭

私がホームステイしたお宅の周辺は、自然がとても豊かでした。たくさんの木々が生き茂り、川もあって、野生の鳥があちこちでさえずるような美しい所です。その広い森を散策させていただきましたが、ごみ一つ落ちていなかったし、カモノハシなどの野生の動物もたくさん生息していました。



たくさんの木々

また、ホストマザーにごみや環境対策について質問したところ、驚くべき答えが得られました。それは一日に出すごみの量が0.5kgであることです。日本人は、一日約1.1kgものごみを排出するそうなので、その約半分ということになります。生ごみを肥料に変える容器を持った家庭も多いそうで、その肥料をまた畑に使うということでした。

そして何よりも実感したのが、オーストラリアでは水資源を大切にしているということです。シャワーを浴びる前、ホストマザーから「シャワーは5分以内で済ませて。」と、指示がありました。オーストラリアの一般家庭には雨水をためるタンクがあり、ろ過して生活用水として使っているの、なくなってしまうようにできるだけ急ぎましたが、慣れるまでは大変でした。また水道水も、そのまま飲める日本と違って、市販の飲料水でなければ飲めません。日

本がどれだけ水が豊かな国なのかを改めて実感することができました。オーストラリアのように水資源が乏しい国もあり、水が無限にあるわけではないというのを頭に入れて、日々節水を意識して生活していきたいです。

### ③ オーストラリアの街・建物を観察してみよう

オーストラリアの街を散策してみると、屋内にも屋外にも、いたるところにごみ箱が設置されていました。そのためか、道端にはごみ一つ落ちておらず清潔でした。特に、空港やショッピングモールなどの施設では、リサイクルマークのついたごみ箱が目につきました。また、ホームステイ中に、風車のある所に連れて行ってもらったり、キュランダ鉄道からソーラーパネルを取り付けた家を眺めたりすることができました。これらのことから、再生可能エネルギーでの発電も行っていることが分かりました。



街中で見つけたごみ箱



ショッピングモールのごみ箱



空港のごみ箱

私たちが泊まったダブルツリー・バイ・ヒルトンというホテルの裏側の視察では、主に二つの環境に対する取組を見付けることができました。一つ目は【NO BIN DAY】です。これは食事の残飯を捨てるごみ箱を取り払う日のことで、スタッフだけを対象に行っています。ごみ箱がないことで、「食べられる分だけ取る。」ということ意識します。非常に画期的な取組だと思いました。



【NO BIN DAY】のポスター

二つ目は、次の写真の【Reuse and recycle】というカードです。お客さんは

タオルの交換がいなければこのカードを置きます。洗濯にも水を使うので、節水のためには効果的な方法だと思いました。

#### 【Reuse and recycle】 のカード



#### 4 まとめ

オーストラリアは非常に自然豊かで、ごみの少ない美しい国でした。日本では、山や川辺などに時々不法投棄されたごみが見られ、それらは自然に害を与えます。私もクリーンアップの活動に参加させていただくことがありますが、大切なのは捨てることではなく、ごみを出さない・捨てないことだと思います。日本の豊かな自然を守っていくためには、普段からオーストラリア人のように、ごみの排出量を減らす工夫をしていかなければならないと思いました。また、大仙市の給食の残飯量が多いというのは、私たちに大いに関係していることなので、日常生活の毎日が【NO BIN DAY】になるよう、食べ物を残さないことを心掛けたいです。ごみが減れば、燃やす際に生じる二酸化炭素が減り、人々にとっても自然にとっても快適な環境を作り出すことができると思います。

### Ⅲ エピソード

#### 1 ホームステイ

ホームステイ先へのお土産として、日本のお菓子や日本風のマグネット、そうめんなどを持っていきました。三日目の昼食にホストファミリーのためにそうめんを作って振る舞いました。喜んでくれるかどうか不安だったのですが、「delicious!」と言って、つゆまで飲み干してくださったので、とてもうれしかったです。



私たちが作ったそうめん



そうめんをほおぼる  
ホストマザー&ホストファザー

そうめんの「めんつゆ」がよほどおいしかったのか、この後行ったスーパーで、ホストマザーに「めんつゆ」を探すように頼まれました。



朝食のシリアルと  
パンケーキ



公園でバーベキューを  
して作ったハンバーガー



最終日の夕食  
いろいろなおかずが  
ワンプレートに！



カップケーキ

## 2 海外で働く日本人にインタビュー

OKギフトショップで働く原田さんにインタビューしました。

Q. オーストラリアで働こうと思ったきっかけは何ですか？

A. こちらに来る前は製粉会社や、アプリの開発などを行うIT企業に勤めていました。しかし、子どもによりよく成長してほしいという思いや、海外での仕事にチャレンジしてみたいという思いから、半ば賭けのような感覚でオーストラリアに来たのです。

Q. オーストラリアに来て困ったことは何ですか？

A. 文化の違いです。日本人は人の目を見て話すことを苦手とし、コミュニケーションの中で行っている人が少ないです。でもオーストラリアでは、人の目を見て話さないと失礼なのです。

Q. 英語をどのようにして上達させましたか？

A. 日常生活で使っていないと話せるようにはならないので、日常生活の中で常に話す練習をすることです。

Q. オーストラリアに来て辛かったことはありますか？

A. 特にはないです。ホームシックにかかるということもなく、日本の友達が恋しいと思うこともあまりありませんでした。友達はこっちで作れば良いという考えでしたね。

Q. オーストラリアに来て自分の考え方に何か変化はありましたか？

A. 物事にあまりこだわらなくなったというか、固執しなくなりました。そして人に優しくなりました。日本人は真面目ですが、オーストラリア人はどちらかというとのんびりしており、考え方が緩いのです。例えば、友達との約束に遅れてしまった場合、時間を守るタイプの日本人は、約束を守らなかったことに対して、いらだちや不快な気持ちを抱くと思います。オーストラリア人の場合、それを寛容に受け止めて怒ったりはしません。

英語でコミュニケーションをとるには、単語や文法を勉強して知識を得ること以上に、いかにネイティブと触れ合い、日常生活で使っていくかが決め手となると分かりました。また、海外に視野を広げることで、日本に住んでいては分からないことも見えてくるのではないかと思います。人とコミュニケーションをとる際はもっとオープンになり、オーストラリア人がもっているHospitality【サービス精神】を大切にして接していきたいと感じました。

### 3 感動！グレートバリアリーフの海

船でフランクランド島へ向かう途中、デッキにて風を感じながら広々とした海の風景を楽しみました。途中から半潜水艇に乗り換え、グレートバリアリーフのサンゴ礁を間近で見ました。サンゴ礁は私が想像していたものよりもはるかに大きく、その堂々とした姿から、自然の美しさや生命力を感じました。潜水艇から

出た後、目の前に広がっていた光景に息をのみました。日本では見たことがないような、透明度の高いエメラルドグリーンの宝石のような海です。同じ海なのに、日本とこんなに違うものかと圧倒されました。

浜辺で貝殻を集めていたところ、「自然遺産だから持ち帰りは禁止」ということを聞き、残念でしたがまた砂に戻しました。この島にあるものは一切持ち出し禁止で、税関で見つかると大変なこともあるそうです。厳しい規制があり、それを人々が守ってこそ、この美しい自然が保たれているのだということを改めて感じることができました。



エメラルドグリーンの海



グレートバリアリーフ



#### IV 研修を終えて

今回のオーストラリア研修は、様々なことを体験し、学び、そして思いきり楽しむことのできた、とても有意義な旅でした。実際に英語が使われている地で生活してみても感じたことは、本場の英語はやはり速く、聞き取るのが難しいということです。自分が普段授業で聞いたり使ったりしている英語とは、全く違うということを実感させられました。しかし大切なのは、そのような環境でいかに上手くコミュニケーションをとるかだと思います。「伝えたい」という気持ちさえあれば、英語が完璧でなくとも、思いは相手に伝えられると思うし、そういったコミュニケーションをとっていくなかで、少しずつ英語も上達していくものだと感じました。「海外で働いてみたい」という意欲も高まったので、この経験を将来に生かしていきたいです。

また、日本とは違った文化・自然環境に触れて、オーストラリアのよさはもちろん、日本の文化や自然の素晴らしさに改めて気付くこともできました。しかし、日本にはまだまだ改善すべき点があります。オーストラリアのよい点を取り入れ、よりよい環境にしようとする意識を高めていくために、学んだことを積極的に発信していきたいです。

最後になりますが、この研修に参加することができたのも、教育委員会の方々をはじめ学校の先生方、家族のおかげだと思います。本当にありがとうございました。

# オーストラリアレポート

No.11 大曲南中学校 2年 佐藤 萌々寧

## I はじめに

私がこの海外研修に申し込んだ理由は、2年前にこの研修に参加した姉が、とても楽しかったと言っていたからです。私自身がイングリッシュキャンプに参加して、英語で会話することが楽しいと感じ、自分の英語力、コミュニケーション力を伸ばしたいと思ったことも理由の一つです。

また、大曲南中学校で取り組んでいる環境学習について、外国での取組はどのようになっているのかということについても興味がありました。テレビや新聞、インターネットなどでも調べる機会はありますが、実際に自分の目で見てみたいという思いがありました。このようなことから、研修に参加してみたいと強く思うようになりました。



Australia の広大な自然

## II 研究テーマ

「エコ活動をより身近なものにするためには、どのような工夫があるか？」

## III 設定の理由

私の住んでいる地域では、小・中学校が連携して環境問題について学習しています。小学校の頃は、総合的な学習の時間を通して学習してきました。中学校では、全校をあげて環境学習に取り組んでいます。各家庭や地域で取り組まれているエコ活動に対して、これらの学習を進める中で、「私たちが行っているようなエコ活動は外国でも行われているのだろうか？」「外国ではどのような取組を行っているのだろうか？」という疑問をもちました。また、「エコ活動に今まで以上にみんなが取り組み、当たり前のこととして定着させるにはどんな工夫をしたらよいだろうか？」とも考えました。海外研修を通して、今後の自分の生活や環境学習への取組に生かしていくヒントを得たいと思い、この研究テーマを設定しました。

## IV 調べた内容 <発見したエコ活動>

### 1 節水について

日本では毎日湯船にお湯を張ってつかることが当たり前ですが、ファームステイ先には湯船がありませんでした。オーストラリアでは、一般的に入浴をシャワーだけで済ませて、できるだけ水を無駄使いしないようにしています。ステイ先でも、3分間しか水を使ってはいけないと言われたので、急いで入りました。実際に3分間で済ませることは難しかったのですが、水を大切にしていることが体験できた出来事の一つでした。

また、雨水を有効活用したり水分を逃がさないように工夫したりしている様子も見ることができました。



浴室の様子

## 2 節電について

室内では、天井についている大きなファンが常に回っていました。しかし、外出するときや、部屋に誰もいないときは、ファンのスイッチを消すようにしていました。さらに、コンセントには必ずスイッチがついていて、プラグを差しても、スイッチを押さないと電気が流れないような仕組みになっていました。

また、外国のホームパーティーのイメージとして、野外で大きな肉を焼いてバーベキューをしている様子がよくあげられますが、これは、燃料の節約という面でも意味があるということが、ホストファミリーへのアンケートから分かりました。電気や水をできるだけ使わない工夫の一つだと思いました。

## 3 ゴミの分別について

ファームステイ先では、生ゴミを他のゴミと分けて捨てるようにしていました。生ゴミは農場で育てている鶏のエサにしているため、家庭内から出るゴミの量が、生ゴミの分だけ減っていることが分かりました。分別するための袋もリユースされていました。日本でもゴミの分別は行われていますが、ゴミの再利用はあまり一般的ではないように思います。各家庭で取り組めれば、ゴミを減らすことにつながると思います。

ホテルの裏側を見学したときには、「NO BIN DAY」のポスターを見付けました。これは従業員の人たちがゴミを出せないように、食べ残しをしない日を決めて、ゴミ箱を撤去してしまう日なのだそうです。ゴミを出さないという取組もエコ活動として大切なことだと思いました。それ以外にも、部屋で使われた石けんを回収して貧しい国に寄付したり、宿泊客にはほとんど使われない歯ブラシは置かないようにしたり、無駄を省く取組が工夫されていました。



生ゴミ用バケツ



育てている鶏



NO BIN DAYの  
ポスター

## 4 ホストファミリーに質問

Q: How do you separate your garbage?

【あなたは、ゴミの分別はどのようにしていますか？】

A: We separate the food scraps for the chickens.

【鶏にやるために、生ゴミを分別しています。】

Ordinary garbage is put into plastic bags.

【通常のゴミはビニール袋に入れていきます。】

Recyclable items are placed in a separate bag.

【リサイクルするアイテムは別々の袋に入れていきます。】

Both are taken to the dump.

【リサイクルのゴミも通常のゴミも、ゴミ収集車でゴミ集積所まで運ばれます。】

Q: How do you save water?

【あなたはどのようにして水を節約していますか？】

A: We only hose the garden when it is dry.

【私たちは、庭が乾いているときだけ水をまきます。】

We get a lot of rain here.

【ここでは、雨から多くを得ます。】

The water pump turns off at 9pm and comes back on at 6am.

【ウォーターポンプは夜9時から朝6時まで止めています。】

The garden is mulched with hay to conserve moisture.

【庭は、乾燥しないように干し草で覆われています。】

Q: How do you save electricity?

【あなたはどのようにして電気を節約していますか？】

A: A lot of cooking is done outside on gas and small wood burners.

【調理の多くは、外でガスや薪を使って行います。】

Q: What are some of the environmental activities you do?

【どのようなエコ活動がありますか？】

A: We look after the soil, the water, and the animals and only get rid of the feral (killer) animals.

【私たちは土壌や水、動物たちを大事にしています。わずかに野生動物を撃ちます。】

Q: What do you do to protect the resources of the land?

【あなたは資源を守るためにどんなことに気を付けていますか？】

A: We don't put too many head of cattle in the paddocks as this will destroy the pasture.

【牧草地を守るために、多くの牛を入れ過ぎないようにしています。】

Q: How do you know what effects of these eco activities will have?

【エコ活動の効果はどうやってわかりますか？】

A: By the experience of living on this land.

【この土地に住んでいる経験でわかります。】



ホストの家の庭と畑



高く積まれた薪



パドック

## V 考察

今回の研修で、ホストファミリーが取り組んでいるエコ活動に触れることができました。特別なことに取り組んでいるわけではなく、日本でも行われているようなことをしていると感じました。ただ、日本と違うところは、水に関する部分だと思いました。日本は豊かな水資源に恵まれています。私たちはほとんど意識することはありませんが、年間を通してたくさんの水を自然から受け取っています。それに対して、降水量の少ないオーストラリアでは、水を使うことにとっても気を配っていました。私たちは、今の恵まれた環境に安心せず、この豊かな環境を長く維持する工夫をしていく必要があると感じました。

節電に関しては、日本よりも積極的に取り組んでいる印象をもちました。その理由はコンセントに付いているスイッチにあります。コンセントにスイッチがあることで、待機電力をできるだけ減らすことができます。また外で料理をすることも電気を使わずに済むので、エネルギーの節約に効果があると思いました。文化の違いや生活スタイルの違いから、日本では野外でバーベキューをする機会は多くありませんが、みんなで楽しく過ごせよい思い出になったので、機会があれば家でも

やってみたいと思いました。

ゴミの分別に関しては、日本の方が細かく分けられていると感じますが、再利用の点では、オーストラリアほどできていないように思います。食べ残しの再利用は、今の日本ではあまり行われていませんが、肥料にしたり家畜のエサにしたりということは、昔の日本ではよく見られた光景だと聞いたことがあります。「もったいない」と言っているだけでなく、再利用という視点から見直していくべきだと思いました。

「エコ活動を身近にする」ためには、特別な活動を行うことよりも、これまで行ってきたことを見直したり、現在取り組んでいることにもう少し積極的になったりすることが大事なのだと思います。みんながもう少しだけエコに関心を持ち、現在取り組んでいることに力を入れることや、できそうなことに気軽に取り組むことが、エコ活動を活発にする一番の方法なのではないかと考えました。



分別用のゴミ箱

## VI エピソード

### 1 ファームステイ

私は、Russell (ラッセル) ファミリーの家泊まらせてもらいました。

<家族構成>

父：Bobさん 母：Carmelさん  
犬：二匹 牛：三頭 鶏：とてもたくさん

Bobさんはいろいろなところに連れて行ってくださいました。私が一番印象に残っているのは、景色を一望できる山の上に行ったことです。そこからは、日本ではあまり見られない、緑でおおわれた土地がどこまでも広がっている景色が見えて、とてもきれいでした。そのほかにも、いくつか滝を見に行ったり、バッファローを間近で見たりしました。途中に通った家々でも、馬や牛を飼っていたので、オーストラリアでは、動物がとても大事な存在なのだということがよく分かりました。

Carmelさんは、私たちの三日分の食事を準備するために毎日腕を振るってくれました。外国の食事は初めてだったので、どんな料理が出てくるのか興味深かったです。もちろんだれもとてもおいしかったです。そして、お返しに私たちが日本のカレーを作ると、「おいしい」と喜んでくれたので、とてもうれしかったです。お土産として持って行った折り鶴や、大仙の雪景色の写真も喜んでくれました。



Bob&Carmel 夫妻

### 2 オージーキッズとの交流

レインフォレストロッジでのオージーキッズとの交流では、同世代の人たちと交流することができました。みんな積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれて、自分との違いを感じました。生まれた国や人種の違いなど気にせず積極的に関わるためには、言葉にだけ頼らず、相手と関わり合おうとする気持ちを大切にしなければならないと思いました。チーズケーキ作りやアクティビティなどを通して仲良くなれたことは、英語が通じるという自信になりました。日本のダンス紹介もうまくできてほっとしました。

### 3 現地で働く日本人の方のお話

Q: オーストラリアに来たきっかけは何ですか？

A: 英語を勉強したかったから。

高校時代に吹奏楽のハワイ大会に出る機会があり、海外で生活してみたいと思ったから。南の島に住んでみたかったから。

Q: 英語の勉強はどのようにしましたか？

A: 現地の人と積極的に関わりをもって、英語に触れる時間をできるだけ多くする。英語のラジオを聞く。間違いを怖れずたくさん英語を使う。使わないと上達はしない。

4人の方からお話を聞くことができましたが、みなさん最初から英語が得意だったわけではなかったそうです。しかし、自分からコミュニケーションをとり、たくさんの英語に触れていく中で身に付いていくものだとお話を聞いていました。お話を聞きながら、それぞれの方が、海外での生活を明るく楽しそうに送っていると感じました。日本語の通じない国での生活に不安もなく、今の生活を満喫しているように見えました。また、私たちとは日本語で会話しながらも、スタッフから英語で話しかけられると、すぐ英語で対応する切り替えの速さに驚き、複数の言語を使いこなすことのすごさを感じました。お話を聞いていて、英語の上達という点に限らず、積極的にコミュニケーションを図ることが、人間関係を円滑にしたり、人とのつながりを築いたりする上でとても大切なのだと感じました。また機会があったら、海外での生活を送ってみたいと思います。できたら数ヶ月、数年という長い時間を海外で過ごし、日本との違いやその国のよさを味わいたいです。

## VII 研修を終えて

今回の研修では、初めての経験が多く心配なところもたくさんありましたが、オーストラリアでの8日間は、学ぶことが多かった充実した日々だったと思います。最初は緊張して、他校の生徒とコミュニケーションをとることに消極的でしたが、研修を進めるうちに、少しずつですが積極的に関わることができるようになりました。そして様々な活動と一緒に取り組んだり、たくさん話をしたりすることで、日本に帰国する頃には仲良くなることができました。

私は、これまで日本を出たことがなかったので、準備の段階からとても大変でした。研修の準備は、家族に手伝ってもらいながら進めました。研修に出発してからは、友達と協力しながら活動に取り組みました。たくさんの人たちの支えがあって無事に研修を終えることができました。今回の研修を通して「自分のことは、しっかり自分で管理することが大切である」ということも実感できました。

オーストラリアの広大な自然や、ホストファミリーの優しさに触れられたことは、自分にとって大切な思い出です。また、たくさんの人たちとの出会いは、素晴らしい財産になりました。これらのことは、これから自分の将来を考えると、大きな影響力をもつと思います。

最後に今回の研修に参加する機会をくださった大仙市教育委員会の皆様、背中を押してくれた先生方、家族に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



友達と一緒に

# オーストラリアレポート

NO.12 西仙北中学校 2年 京極 綾香

## 1 はじめに

私の父は以前、海外で働いていました。父から、海外での仕事や海外のよさをよく聞かされていたので、海外で過ごすことに対して強い憧れをもっていました。大韓民国と中華人民共和国には何回か行ったことがあります。英語は使いませんでした。しかし、その経験を通して、世界共通言語である英語は、将来のためにも覚えた方がよいと感じました。そこで、今回のオーストラリア研修の話聞いたときに、絶対行きたいと思いました。オーストラリアに行って生の英語に触れ、苦手な英語を少しでも得意にしたいということと、日本には経験できないことを体験し、視野を広げたいという思いから、今回の海外派遣に参加しました。

## 2 研究テーマ

「日本とオーストラリアの動物保護の違いと特徴は何だろう？」  
オーストラリアといえば私がすぐに思い浮かぶのは、コアラやカンガルーなどのオーストラリア固有のかわいい動物たちです。そんなかわいい動物たちがいるオーストラリアは、絶滅危惧種で守っている動物がたくさんいます。大仙市でも鳥獣保護区の看板を多く見ます。場所によっては、民家の近くでも、カモシカやクマ、キツネ、タヌキ、リスなど、たくさんの動物たちが見られ、私たちは野生動物に囲まれていると言えます。そこで、オーストラリアの動物保護の仕方と日本の動物保護の仕方の違いや特徴を調べ、大仙市の動物たちの保護の在り方はどうあるべきかを考えたいと思い、このテーマにしました。



動物園のコアラ

## 3 研究内容

私はオーストラリア政府や、オーストラリアに住んでいる人々が動物保護のために行っている取組について調べました。その内容と結果をお伝えします。

### 【動物と環境の関係】

#### ・オーストラリア固有の動物

378種以上の哺乳類、828種の鳥類、4000種の魚類、300種のトカゲ、140種のヘビ、2種のクロコダイル、約50種の海洋哺乳類が生息しています。

オーストラリアの植物、哺乳類、爬虫類、カエルの80%は固有種だそうです。

オーストラリアには大型の捕食動物が存在せず、最大の肉食性哺乳類といえば、ディンゴ(野犬)、フクロアライクイ、フクロネコ、タスマニアン・デビルなどであり、飼い猫サイズ以上のものはいないそうです。

#### ・広大な自然

ホストファミリーの家の周辺やスーパーに行く道沿いなど、一歩外に出ると周りには広大

な自然があふれていました。草原には必ずと言っていいほどバッファロー、牛、馬がいました。暑い環境でも動物たちは元気に過ごしていました。オーストラリアの動物たちは強いなと感じました。

### 【動物を保護するための働き】

#### ・法律の制定

地球上の約10%の生物が、生息域の減少、気候変動や外来種の侵入などの環境の変化により、絶滅の危機に瀕していると言われていたのですが、そのうちオーストラリアの固有種が占める割合は9%にもなるそうです。それらの固有種を守るために1975年に野生生物保護法が成立しました。

#### ・保護区の指定

必要に応じて地域を保護区に指定したり、そのいくつかを国立公園にしたりして、積極的に絶滅のおそれのある生物を保護しています。

#### ・動物の数を調整する

コアラのエサとなるユーカリが不足すると、餓死するコアラが急増します。そのため餓死するコアラを減らすために、コアラを間引きしています。特に干ばつが起きると食べ物が減り、多くの動物の命が奪われることになります。

カンガルーなどの動物も、増えすぎると射殺して数を調整しています。一年に少なくとも520万頭の殺処分をします。森林や草原などが生い茂る季節には動物の数が増えるので、増えすぎないように調整しているそうです。

### 【人々の取組と意識】

#### ・野生動物を保護して育てる

私のホストファミリーはレストランを経営していました。レストランの近くには、野生のきれいな鳥が見られました。この鳥たちのために、エサやりの場所を作り、毎日エサをあげていました。一般家庭にも日常的に野生の動物たちがやってくるようでした。



レストラン前にやってきた小鳥

#### ・動物の絵がついた看板

看板には、カンガルーなどの動物の絵がついているものがあり、これらは動物たちが急に車道に飛び出してくる場合があるので気をつけるようにという看板です。動物たちを守るための看板があちらこちらにたくさんありました。

#### ・負傷した動物を保護する

オーストラリアの人たちの多くが、万が一動物をひいてしまった際に、それらを保護するため、毛布やタオルを車に入れてあります。



### カンガルーを車ではねてしまった場合

24時間オペレーターがいる野生保護団体に連絡をする



動物が団体に保護される



動物の種類に合わせて、野生動物のケア資格登録家庭に団体から連絡がいき、家庭で保護される



動物の回復次第で、野生に戻すか動物園に入れる（動物園に行くことが多い）



動物園のカンガルー

※動物園の動物たちは生態や病気の研究に役立っている。

### ・昆虫類もたくさん

ホストファミリーの家には、たくさんの昆虫がいました。広大な自然は、昆虫たちにも過ごしやすい環境であることを感じました。昆虫が嫌な人もいると思いますが、オーストラリアの人々は昆虫をうっとうしく思っている、すぐに殺すようなことはありませんでした。動物だけではなく昆虫も大切にしようという考えがあるのではないかと思います。

### 〈考察〉

このテーマについて調べてみて、オーストラリアは、国全体で動物保護についての問題をしっかり見極め、問題解決に向かって一丸となり協力しているところが日本と違うと感じました。オーストラリアでは、動物の存続のために間引きをして数を調整し、動物を未来に残そうとする取組をしていました。一方日本では、人や農作物の被害による有害駆除のために動物が殺されることがあります。動物に対しての考え方や感じ方の違いが、これらの行動の違いに反映されていると思いました。日本でも動植物のバランスを考えて調整を図り、両者が共存していけるようにするべきではないかと思います。

そのためには、日本に絶滅しそうな動物たちがどのくらいいるのか、どの地域にいるのかを私たちが理解し、どうすべきかを考えてどんどん行動に移していかないといけないと思いました。オーストラリアの動物保護の考えを取り入れていけば、日本の動物保護も変わっていくのではないかと思います。これからの日本の動物たちのために自分は何ができるかを考えていきたいです。

## 4 エピソード

私がオーストラリア研修で一番楽しかったのは、オージーキッズとの交流です。オージーキッズとの交流では、一緒にお昼ご飯を食べたり、おしゃべりしたり、体を動かしたりして遊びました。日本語を話せる子どもたちがたくさんいて驚きました。夜にはオージーキッズとダンスを踊り、とても楽しかったです。また会いたいです。



交流したオージーキッズ

グレートバリアリーフという、オーストラリアの世界遺産を見ることもできました。たくさんの珊瑚礁がとてもきれいでした。

フランクランド島という島に行って、シュノーケリ



フランクランド島の海



潜水艇から見たさんご礁

ングを体験しました。海は真っ青でとても美しかったです。シュノーケリングをしている最中に、ウミガメが2m程の近さに来て、とても興奮しました。ウミガメは、のんびり泳いでいてかわいかったです。シュノーケリングは難しかったけれど、楽しかったです。

## 5 海外で働いている日本人にインタビュー



大屋泰斗さんと引率の先生方

ロッジでお世話になった、日本人マネージャーのおおよたいと大屋泰斗さんにインタビューをしました。大屋さんは、オーストラリアに住んで15年目で、現在は家族とこちらで暮らしているそうです。泰斗さんがオーストラリアに来たのは、高校時代の吹奏楽部での活動がきっかけだそうです。高校2年生のときに吹奏楽の世界大会でハワイに行き、演奏後にもらったスタンディングオベーションに衝撃を受け、海外に興味をもつと同時に、海外に住もうと決めたそうです。数か国の中から比較

的安全なオーストラリアに場所を決め、最初はダイバーの仕事をし、それから今の職業に就いたそうです。当初は日本人が一人もおらず、寂しい思いをしたそうですが、現在はたくさんの日本人スタッフと一緒に働くことができうれしいそうです。泰斗さんは最後に私たちに向けて、「見えないところでも頑張っていたからこそ今自分がここにいるんだ。」とおっしゃっていました。

泰斗さんのお話を聞き、どこかで誰か見ている人がいて、だからこそ見えないところでも頑張ることが大切だと学びました。私は将来、海外で働きたいと思っているので、泰斗さんの考えをこれからの生活でしっかり生かして過ごしていきたいと思いました。

## 6 海外研修を終えて

今回のオーストラリア研修では、日本にいただけでは経験することのできないことをたくさん学ぶことができました。英語はなかなかうまくできず、もどかしい思いを何度もしました。だからこそ日本に帰ってきた今、自分の将来に向けて英語をもっともっと上達させたいという気持ちが強まりました。

また、様々な人とのコミュニケーションを通して、他国の考え方ややり方、日本と違うよさをたくさん見つけることができました。このオーストラリア研修で学んだことを忘れずに、これからの生活に生かしていきたいです。そして、このような機会があったらまた挑戦したいです。本当によい経験になりました。

この度、お世話をしてくださった教育委員会の皆様、引率してくださった先生方のおかげでたくさんのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

# オーストラリアで学んだこと

NO. 13 西仙北中学校 2年 田村 紬寧

## 1 はじめに

私は、小学校2年生の頃から英語を習っていました。しかし、その知識を使う機会は少なく、実際に外国の方と話したことはほとんどありませんでした。そこで、別の世界に行ってみようと、この海外研修に応募しました。応募した理由は二つありました。一つは、なかなか実践で使うことがなかった英語の技能の向上、もう一つは、海外という広い世界に行ってみたいという思いです。今回この海外研修に参加することができ、一生の思い出に残る体験をすることができました。

## 2 研究テーマ設定の理由

研究テーマ「様々な生物の暮らしをよくするには？」

日本では野生の動物を守るため、鳥獣保護区という区域を設定しています。私は、過去に鳥獣保護区について調べたことがあります。自然豊かなオーストラリアでは、動物を守るためどのようなことに取り組んでいるのか疑問に思い、この研究テーマを設定しました。

## 3 オーストラリアでの動物保護の工夫

- (1) 自然・環境を守るための工夫
- (2) 動物を守るための工夫
- (3) 研究のまとめと考察

- (1) 自然・環境を守るための工夫

### グレートバリアリーフで聞いた話

- ・島に入れるのは1日100人というルールを設ける
- ・珊瑚には触らないように呼びかける。  
(1年に数ミリしか伸びない貴重な成長を妨げないようにするため)
- ・自然(島)を守るための法律を作っている。  
世界遺産を守っていくと同時に島特有の環境を守るための取組。

例) 島にあるものの持ち出し禁止。石油採掘の禁止。  
都市からおよぶ有害物質の規定を定める。



グレートバリアリーフの自然(さんご礁)

## その他

- ・ゴミは道ばたに捨てない。
- ・まとまったところに集め、汚れた環境の範囲を減らすことで自然を守る。

### (2) 動物を守るための工夫

- ・道路に動物注意の標識を立てる。  
野生の動物が多く、道路に飛び出してくることも多々あるため、車でひかないように注意を呼びかける工夫。
- ・餌は自然に近いものを与える。  
人工の食べ物を与えるより、自然の食べ物を与えた方が、動物に負荷をかけないという考えから行っている工夫。



動物園で見たワラビー

- ・保護区を設ける。  
グレートバリアリーフ海洋公園や動物保護区を設け、動物の環境を守り、絶滅を防ぐ工夫。
- ・(1) で表記した自然を守る取組を実施することできれいな環境を保ち、動物が生きやすい環境を守っている。
- ・動物を守るために国全体で保全活動をしている。  
キノボリワラビー、ウサギワラビー等、オーストラリア固有動物の主な生息環境の保全に尽くす。

### (3) 研究のまとめ

オーストラリアでも、保護区が設けられているということが分かりました。ほかにも法律を定める、標識を立てるなど、国全体で動物を大切にしていることも分かりました。そして秋田との違いは、動物を大切にするという取組が当たり前になっていることだと思いました。ファームステイ先のような豊かな自然環境のところでも、野生動物はあまりいないであろう市街地でも、ゴミのポイ捨てはほとんど見られませんでした。これも動物の生命を守っていくことに深く関係していると思いました。

自然を守っていかなければいけないのは当然のことです。しかし、近年の日本ではそのような志が低くなってきています。ゴミのポイ捨てや未分別のゴミ捨てが当然ようになってきています。

今後の課題は、もっと多くの方が環境に関心をもつということだと思います。一人一人が自然

を守ろうと思って行動すれば、絶対に秋田も日本もよくなるはずです。

そして、オーストラリアのように、一人一人が環境をきれいに保つことを心がけ、人と動物が共存していけるようになればいいなと考えました。



家畜との生活も動物と人との共存

#### 4 エピソード 私が今回の研修で体験したことの紹介です

##### ～1日目～

大曲駅から秋田こまちで東京へ。そこからまた少し電車で揺られて成田空港に着きました。初めて乗る飛行機が離陸する瞬間はドキドキしていました。

##### ～2日目～

ケアンズの空港に到着しました。日本とは違い、オーストラリアは夏なので、朝でも蒸し暑かったです。ファームステイ先のマザーはとても優しい人で、私たちを温かく迎え入れてくれました。その日は滝や小さな町にあるお店に連れて行ってもらいました。

##### ～3日目～

この日もお店に行ったり、牧場を見に行ったりしましたが、一番印象に残ったのはピクニックでした。湖の近くにピクニックに出かけ、そこで泳いだりもしました。夜ご飯のBBQもおいしかったです。



ピクニックでの食事



夜ご飯のBBQ



ピクニックで行った湖

#### ～4日目～

馬に乗せてもらったり、乳牛を見せてもらったりと、動物との関わりが多い1日でした。

お昼ご飯に日本から持っていった稲庭うどんを作りました。マザーはとても喜んでくれていました。

乗せてもらった馬→



#### ～5日目～

ファームステイを終え、ロッジにてオーギーキッズとの交流を楽しみました。ダンスがとても楽しく、オーストラリア滞在の7日間の中で、一番思い出に残った日でした。

#### ～6日目～

ロッジを離れて街に行きました。秋田にいても、自分たちだけで町を散策することはなかったので、市内散策は新鮮で会話もはずみました。お土産もたくさん購入することができました。

#### ～7日目～

世界自然遺産にも登録されているグレートバリアリーフに行きました。なかなか見ることができない珊瑚礁に感動しました。海は青く綺麗で、とても塩辛かったです。



グレートバリアリーフの海



潜水艇から見たさんご礁

#### ～8日目～

朝のマーケットを見ました。新鮮なフルーツや綺麗な手作りアクセサリーが並んでいました。その後、準備を整えてケアンズの空港に。お土産を追加購入したりした後、飛行機に乗って日本へ。7時間後、無事日本に着きました。

#### ～9日目～

夜行バスに乗り秋田に到着。とても寒く感じました。

## 5 海外で活躍する外国人にインタビュー

日本旅行ケアンズ支店長の黒田さん、OKギフトで働いている原田さん、宿泊したダブルツリーバイヒルトンホテルで働いている児玉さんにインタビューをしました。

Q オーストラリアに来た理由は何ですか？

A 環境のいい海外に憧れがあった。そこで見つけたのがオーストラリアだった。(原田さん)

Q オーストラリアで見つけたおいしい食べ物は何ですか？

A ミートパイ。家庭それぞれの味があっておもしろい。(黒田さん)

Q ホームシックにはなりませんでしたが？

A あまり。環境にすぐに溶け込むことができたから。(黒田さん)

Q どうやってこの仕事に出会いましたか？

A 知人の紹介です。(原田さん)

Q なれないコミュニケーションをとるに当たって大切なことは何ですか？

A ジェスチャーなどを交えて相手に伝えられるよう努力すること。下手な英語でもいから精一杯表現して！(児玉さん)

Q 仕事をしていて一番うれしい瞬間は？

A オーストラリアの人たちに日本を褒めてもらえたとき。

「楽しかった。」「綺麗だった。」という声を聞けることがすごくうれしい。(黒田さん)

### <みなさんの話を聞いて>

海外で仕事をするには、慣れない環境でへこたれずに仕事を続けるメンタルの強さ、周りの人とコミュニケーションをとろうとする明るさが大切なのだと思います。海外で働くときだけでなく、将来を生きていく上でも、とても大切なことを教えてもらいました。

## 6 海外研修を終えて

最初は不安でいっぱい海外研修でしたが、実際に行ってみると、毎日が楽しく充実していて、あっという間に研修が終わってしまいました。

慣れない英語を使ったコミュニケーションは不安でしたが、現地の人たちが理解してくれようとして、何とかクリアすることができました。

私の人生の中で忘れられない一週間になりました。これからは、この研修で学んだ経験を生かし、オーストラリアで学んだ「自然を守るための取組」を、普段の生活でも実践していけるようにしたいです。

また、今まであまり使う機会がなかった英会話も上達させることができたと思うので、これからは積極的に会話をするように心がけたいです。急に外国人の方に話しかけられても、怖がらずにコミュニケーションをとれるようにがんばっていきます。

この海外派遣事業にご協力くださった、大仙市教育委員会の皆様、引率してくださった先生方、本当にありがとうございました。



一番きれいだったファームステイ先近くの丘からの景色



# Australia Report

No.14 豊成中学校 2年 熊谷まゆか

## 1 はじめに

私がこの研修に参加しようと思った理由は二つあります。一つ目は、自分の英語が海外で通じるか試してみたかったからです。将来は通訳を目指しています。現在はそのために、英語の勉強に熱心に取り組んでいます。その勉強の成果を発揮してみたいと思いました。二つ目は、今まで海外に行ったことがなく、日本を飛び出してみたい気持ちがあったからです。異国の文化に触れることで、日本について新たな発見があるかもしれないと思いました。

## 2 研究テーマと設定理由

研究テーマ

### 「農業人口を減らさないためにはどうすればよいか？」

私の家では農業を営んでおり、家の周りには田んぼの風景が広がっています。農業は、大仙市または日本の大切な産業の一つであると思います。ところが、全国的に農業人口が減ってきています。大仙市の主要な産業である農業を絶やさないために、農業大国であるオーストラリアで何かヒントが得られるのではないかと思います、このテーマにしました。

## 3 調べた内容

### ① 農業について

私がホームステイしたPelgrave (ペルグレイヴ) 家には、たくさんの種類の鳥と2頭の牛がいました。鳥たちはとても鳴き声が大きかったですが、かわいかったです。庭に放し飼いをされている鶏が一日に産む卵の数は、それ程多くはありませんでしたが、それらを食事で使用していました。牛は、大きくなったら牛肉として売ってしまうのかと思っていましたが、ペットだと言っていました。私の家のペットは、父の飼っている魚だけなので、牛をペットにしているのはすごいと思いました。私は農場の広さを知りたくて、

“How large is your farm area?”

とホストファザーのJohn(ジョン)さんに尋ねてみました。正確に質問が通じたかは分かりませんが、

“How large” や “area” など関連する言葉を入れたので、理解してくれたと思います。Johnさんは、“2 hectares.” と答えてくれました。2ヘクタールはだい



庭に放し飼いの鳥



ペットの牛

たい100m×200mの広さと考えることができます。畜産をしているわけではなく、ペットのために広さが2倍もある農場とは驚きです。他のホームステイグループでは、バギーに乗せてもらい、延々と続く農場をドライブしたそうです。広大な農地はオーストラリアならではの風景だと思います。

また、若手育成について聞いてみると

“Old farmers teach young farmers.”

と答えてくれ、若手育成も行われていることが分かりました。

## ② 地産地消について

Pelgrave夫妻は、私たちが様々な所へ連れて行ってくれました。その一つが、スーパーマーケットです。行ってまず驚いたことは、カートがとても大きいことです。私たちがたまにしか使わないような大きなカートが、オーストラリアでは普通サイズのようにでした。あちこちの売り場で、扱っている食品がオーストラリア産かどうか聞いてみました。すると、ほとんどがオーストラリア産であることが分かりました。

また、Pelgrave家のあるMalanda（マランダ）という町では、サトウキビやピーナッツ、茶、アボカド、ブルーベリーなどがたくさんとれるということも教えてくれました。



BIG なカート

## ③ 考察

オーストラリアには広大な農地があり、また地産地消が盛んであることが分かりました。更に、オーストラリアの人々は地元のことをよく知っていて、地元愛にあふれている人が多いと感じました。それに比べて、日本はまず土地が小さいです。日本の農業の持ち味は「安心・安全」な農産物、産地直送などの「新鮮」さ、農家がそれぞれの「こだわり」をもって作っていることなどだと思います。近い将来には「TPP環太平洋戦略的経済連携協定」によって、外国産の安い農産物が日本に輸入されるようになります。協定が実施されるにあたり、「日本の農産物は安全だ」とさらにアピールしたり、地元産のものをスーパーでもっと販売し、給食のメニューに積極的に取り入れたりすればよいと思います。地産地消を活発にしていけることで、農家の収入が上がり、良い循環が生まれ、農業をやめる人も減っていくと思いました。どうしても日本でまかなえない分だけ輸入をして、日本の食料自給率を上げることも大事だと思います。



説明する John さん

## 4 エピソード

### ① ファームステイ先

ホストマザーのDianneさんとホストファザーのJohnさんはとても親切な方々でした。Dianneさんの料理はとてもおいしかったです。

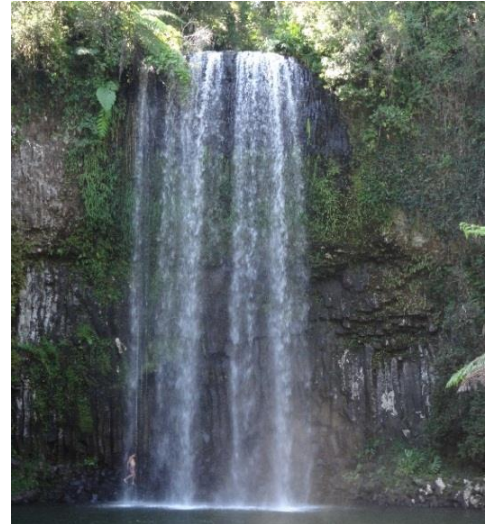
ステイ先にはプールがあり、毎日入りました。自分の家にプールがあるなんて、うらやましいと思いました。また、ゲームセンターにあるようなエアホッケーやサッカーのゲームもあり、それも夢中になって遊びました。

スーパーマーケットで2ドル28セントのペットボトルの水を買い、2ドル30セント出しました。引き算をして2セントのおつりを待っていましたが、おつりが来なくて動揺してしまいました。オーストラリアドルには1セント硬貨がないのです。一番小さい硬貨が5セントであり、端数が四捨五入されることに驚きました。

ホストファミリーの英語は、最初は何を言っているかわからなかったけれど、だんだん慣れて分かるようになりました。その頃にお別れの日になってしまったことが残念でした。「もう一日いたかった。」と強く思いました。ホストファミリーと過ごした時間はとてもよい思い出となりました。



ステイ先のプール



連れて行ってくれたミラミラ滝

### ② オージーキッズとの交流

オージーキッズとは、オーストラリアに住んでいる子供たちのことです。彼らと意思疎通できるかとても不安でしたが、日本語を話せるオージーキッズが結構いました。多くのオージーキッズが私たちよりも年下であるのに、二つの言語を使うことができていました。2か国語を話せることは、将来国際交流において役に立ちそうだと思います。

### ③ アボリジニ文化とキュランダ鉄道

アボリジニとは、オーストラリアの先住民族のことです。私は、アボリジニという言葉しか知りませんでした。アボリジニショーで、アボリジニたちは、体全体を使って蛇やカンガルー、蚊などを表現していました。体にはいろいろな部位にたくさんの模様を描いていました。それにはどんな意味があるのか興味をもちました。

次に、キュランダ鉄道に乗りました。キュランダ鉄道は10年間、「世界の車窓から」のオープニングを務めました。古い列車なので中に冷房はありませんでしたが、窓が開いていて、意外と涼しかったで



キュランダ鉄道

す。私の乗った車両は後ろの方だったので、カーブの度に先頭車両が見えました。車両と車両の間にはデッキもついていました。終点のケアンズまで、絶景スポットがたくさんあり、もう一度乗りたいと思いました。

#### ④ フランクランド島



仲良くなった友達

昼食を食べた後に島内散策をしました。ガイドさんの案内で、フランクランド島に一本しかないヤシの木、太陽の方向に向かって進む木、星の砂と呼ばれる小さな星形の生物の死がいなどを見ました。ここでは、オーストラリアの自然を体で感じる事ができました。

船に乗ってフランクランド島へ行きました。島に着くとウェットスーツを着て、自分のサイズに合う足ヒレを付け、シュノーケリングの準備をしました。世界遺産にもなっているグレートバリアリーフは、とてもきれいな海でした。サンゴ礁がたくさんあり、海ガメも気持ちよさそうに泳いでいました。



世界遺産のグレートバリアリーフ

#### ⑤ 海外で活躍する日本人

オーストラリアで働く黒田さん、原田さん、児玉さんの3人にインタビューをしました。その中でも印象に残った、日本旅行の支店長である黒田さんのインタビュー内容を紹介します。

Q. オーストラリアで大変だったことは何ですか。

A. オーストラリアの人々は口に虫が入らないようにするために、もごもごしたしゃべり方になります。「トゥデイ」(today) が「トゥダイ」となって聞き取りづらかったです。

Q. 英語はどうやって学びましたか。

A. 映画を見て学びました。また、英語力は話さないと伸びないので「失敗したら嫌だな」という気持ちは捨てましょう。

私は、黒田さんの「英語力は話さないと伸びない」という言葉を聞いて、「まず話してみることで」が大事なんだと思いました。そうすることで、コミュニケーション能力もアップしていくのではないかと考えました。

## 5 海外研修を終えて

私は、人生で初めて海外へ行きました。ホームステイ、オーギーキッズとの交流、アボリジニショー、フランクランド島など、オーストラリアの自然や文化、人々の温かさをたくさん感じることができました。最初は自分の英語が通じるか不安だったけれど、日を追うごとに英語でコミュニケーションをとることに慣れてきて、これからの英語学習への意欲が増しました。また、ホームステイのグループや、ホテル・新幹線・バスで隣になった友達など、徐々に友達の輪が広がっていった気がします。友達の意外な一面もたくさん発見することができました。この貴重な体験で自分の視野が広がりました。今回の研修で得たものをこれからの自分の将来に生かしたいです。そして、今度行く機会があったらシドニーを観光したり、エアーズロックを見たりしたいです。このような機会を与えてくださった大仙市教育委員会のみなさま、日本旅行の飛田さん、引率してくれた先生方、

**ありがとうございました！**



マクドナルドのソフトクリームが意外に小さかった。  
暑くて手前のソフトクリームが溶けています。



帰りの機内食

野菜のグラタン、パン、水、チョコムース

※チョコムースが飛び出して大変なことに…



フランクランド島の全貌。  
やはり海の青がとても美しい。



ホストファミリーとグループのメンバー

# オーストラリア研修に参加して

No,15 協和中学校 鎌田 美羽

## I はじめに

私がこの研修に参加した一番の理由は、外国で生活することに興味があったからです。実際にファームステイをすることで、現地の人の生活を体験できるのではないかと考えました。また、オーストラリアと日本の暮らし方の違いを比べられることにもとても魅力を感じていました。

初めての海外旅行となるため、自分の思っていることを伝えられるか心配でしたが、それ以上に、自分の英語がどのくらい通じるのか試せることの方が楽しみで、貴重な体験になると思い参加しました。

## II テーマについて/設定の理由

テーマ 「地球に優しい『エコ』な生活をするためには？」

私は「エコ」の中でも「ゴミの分別」と「節水」について調べようと思いました。なぜなら、地球温暖化と言われている中、オーストラリアではどのような取組が行われているのかを調べてみたいと思ったからです。また、日本とは違うであろうゴミの処理の仕方を学び、実際の日常生活に生かすことができればよいと思いました。さらに、オーストラリアは水不足を抱えているということを聞いたので、節水の工夫も調べたいと考えました。

## III 研究方法/研究結果

### 研究方法

- 1 ゴミの分別について調べる
  - (1) 大仙市のゴミの分別について事前に調べる。
  - (2) オーストラリアのゴミの分別について実際に見聞する。
- 2 水事情について調べる
  - (1) 大仙市の水事情を事前に調べる。
  - (2) オーストラリアで水事情について見聞する。
- 3 考察
  - (1) ゴミの分別について。
  - (2) 水について。
- 4 まとめ

### 研究結果

- 1 ゴミの分別について
  - (1) 大仙市のゴミの分別について
    - ・ 6種類に分けてゴミを回収している（燃やせるゴミ、燃やせないゴミ、ビン・缶、ペットボトル、古紙、古布類）。
    - ・ その中でも下線部の物をリサイクルしている。

- ・下線部以外にも、使用済み小型家電、使用済み食用油、発砲スチロール、食品トレイ、ペットボトルキャップ、粗大鉄類を回収してリサイクルしている。

## (2) オーストラリアのゴミの分別について

- ・燃えるゴミと燃えないゴミに分ける。
- ・ファームステイ先では、生ゴミを鶏の餌にしていた。
- ・生ゴミを土と混ぜて畑の肥料にする家庭がある。
- ・ゴミ回収は週に一回。
- ・各家庭に配られるゴミ箱（写真1）に入れて道路脇に置くと、回収してくれる。



【写真1】

## 2 水について

### (1) 大仙市の水事情について

- ・水は川から汲み上げられ浄水場に行く。
- ・環境家族宣言などを実施することで、節水を呼びかけている。

### (2) オーストラリアの水事情について

- ・水道水は飲むことができる。
- ・雨水をためて利用する（トイレ、シャワーなど）。
- ・水が貴重なため、シャワーは3分以内（ファームステイ先）。
- ・スーパーマーケットなどで水を買うと、日本よりも値段が高い。

## 3 考察

### (1) ゴミの分別について

オーストラリアでは、ゴミの分別の種類が日本よりも少なかったです。その一方で、生ゴミを家畜の餌にしたり、土と混ぜて畑の肥料にしたりしていました。

大仙市でも生ゴミを肥料にしている家庭を見たことがありますが、実際に行っている家庭は少ないと思います。大仙市は農業が基幹産業であり、オーストラリアの生ゴミの再利用が参考になるのではないかと思います。

生ゴミは水分を多く含んでいるため、燃やすのに大量の資源を使い、二酸化炭素を多く排出するそうです。生ゴミをなくすことで資源を守り、二酸化炭素の排出を少なくすることができると思います。

### (2) 節水について

オーストラリアでは、水を大切にしていました。ファームステイ先では雨水をシャワーとして使っているのでも、使いすぎると水が無くなり出なくなっています。そのため、シャワーは3分以内と決められていました。手を洗うときにも水を出しっぱなしにしないことが大切でした。

日本は湯船につかる文化があるので、水を多く使ってしまうがちですが、シャワーを使う時間を減らすことが節水になると思います。オーストラリアでは、常に節水を心がけているため、日本よりも節水に対する意識が高いと感じました。

日本では浄水場で水をきれいに処理しており、これにもエネルギーを使っています。日本もオーストラリアのように節水への意識が高まれば、水をきれいにするために使っているエネルギーを減らすことにつながると考えました。

#### 4 まとめ

私は、日本でも参考にできるゴミ処理や節水の工夫をオーストラリアでたくさん見付けることができました。節水やゴミの分別、ゴミの削減が、地球を守ることに繋がると思いました。

I think that we should start making small changes with the goal to protect our planet.

#### IV エピソード

##### 1 ファームステイ先でのこと

—Russellさん一家の紹介—

Papa ・ ・ Bob さん  
Mama ・ ・ Carmel さん  
犬 ・ ・ Tony  
Bella



【MamaとPapa&愛犬】

##### [体験したこと]

###### ・ 牛の乳搾り

飼っている牛の乳搾りを体験しました。お手本を見た時は簡単そうだと思いましたが、実際にやってみるとうまく搾れず、大変でした。(写真2)



【写真2】

###### ・ 買い物

Papaがスーパーマーケットやお土産屋さん連れて行ってくれました。たくさんのお土産を買いました。スーパーマーケットの中にもたくさんのお店があって、とても大きいお店でした。

Mamaのカートの中に入っていた一袋20本入りのにんじんには驚きました。あまりにも多くて、何に使うのか不思議でした。



【Mamaとの写真】

###### ・ 大自然

大きな滝をたくさん見に行きました。周りには木々が生い茂っていて、大自然を間近に感じることができました。川に自生していた草は食用だと教えられましたが、見た目はただの草でした。サラダなどに入れて食べるのだそうです。

###### ・ カレー作り

普通のカレーになる予定がスープカレーになってしまったので、Mamaが米粉で作られた麺を出してくれました。それを茹でて、カレーうどんのようにして食べました。(写真3)



【写真3】



ホストファミリーは、本当に優しくかったです。私がかうまく聞き取れなかった時は、繰り返して話してくれました。食事はとても豪華で、朝食と昼食にはフルーツが出ました。メロンやパイナップルがおいしかったです。中でも一番心に残っている食事はBBQです。切込みを入れたパンに、たまねぎや肉を挟みましたが、肉がはみ出るくらい大きかったのにはびっくりしました。

I really enjoyed the farm stay, thanks to Mama and Papa. I love them. I want to meet them again someday.

## 2 オージーキッズとの交流

マンガリーでは、たくさんのオージーキッズと交流しました。中には日本語で自己紹介してくれた子もいてびっくりしました。気軽に話しかけてきてくれて、とても楽しかったです。小さな子もいましたが、積極的に発言しているところを見ると、自分は負けてるなと思いました。ダンスをして驚いたのは、オージーキッズたちが皆ステージの上で踊りたがっていたことです。全く恥ずかしがらないのが、オージーたちのすごいところでした。

## 3 世界遺産グレートバリアリーフに行つて

私たちは、世界遺産のグレートバリアリーフに行つてきました。半潜水艦に乗ると、サンゴ礁がびっしり敷き詰められたような海の底が見えました。色鮮やかな魚もたくさんいました。到着した島には、きれいなビーチが広がっていました。島の反対側のビーチには、ナマコやヒトデがいっぱいいました。ブヨブヨした触感がおもしろかったです。落ちてくる貝殻や砂は世界遺産の一部なので持ち帰ると捕まるそうです。島内散策では、島に唯一のココナツの木を見たり、星の形をした砂を見たりしました。しかし星砂は、普通の砂に混じっており、大きさも変わらないので、見付けてもすぐに手のひらからこぼれ落ちてしまいました。

日本では見られない景色はとても美しかったです。



【グレートバリアリーフにて】

## V インタビューを通して

私たちは、オーストラリアで働く方々にインタビューをしてきました。このインタビューで心に残ったことを紹介します。

OKギフトにお勤めのハラダさんへのインタビューです。

Q 英語が分からなくて困ることはありますか？

A あります。

そんな時にはゆっくり話してもらったり、紙に書いてもらったりします。相手はこちらのことを完璧に英語が話せる人だとは思っていないから怖れずに聞くことが大切です。失敗を怖れずに自信をもって話せば、きっと相手も分かってくれます。

私は、この答えを聞いた時に、自分うまく話そうということに気をとられていたのかも知れないと思いました。英語は自分の思いを伝える手段なので、うまく話すことよりも、何とかしてでも伝えようという思いが大切なのではないかと思います。

## VI 海外研修を終えた今思うこと

今回の研修では、テーマについて深く考えることができました。小さな心がけを積み重ねれば、それはやがて地球を救うことにつながるのではないかと思います。私はこれから、たくさんの人に調べたことや考えたことを伝え、自分自身も節水やゴミの分別に気を付けていきたいと思います。そして、将来は大仙市のために、秋田のために、日本のために、世界のために、様々なことに取り組んでいきたいと思います。

また、この海外研修でたくさんの人と関わることができました。ファームステイ先のPapa, Mama, そして現地のオージーキッズたちなど、たくさんの人と英語でコミュニケーションをとることができました。伝わらなくても頑張って伝えようという思いが助けてくれたからだと思います。

一緒に行った派遣生とも友達になることができました。どんな時も助け合って協力し合ったからこそ、無事に楽しんで帰ってこることができたと思います。

また、この研修に参加できたのは、たくさんの人が支えてくれたからだと思います。これからも感謝を忘れないようにしたいです。本当にありがとうございました。

私はこの貴重な体験を無駄にしないよう頑張っていきます。そして、大人になったらたくさんのお国を訪問したいと思います。いつかまたオーストラリアにも行きたいです。

I am really grateful to everyone who I met on this trip. They were very kind to me and they always helped me. I couldn't have gone to Australia if they hadn't helped me. Thank you to my friends, my teacher, Papa, Mama and my parents.

Thank you very much.



【カンガルーをパチリ】



【キュランダ鉄道】

# オーストラリアの思い出

No. 16 大仙市立南外中学校 2年 佐々木心都

## I はじめに

待ちに待ったオーストラリア研修は、初めての海外ということで、多少の不安はありながらも、クラスみんなから見送られて、元気に出発することができました。そして、ケアンズ空港に着き飛行機から降りると、12月の早朝とは思えないような蒸し暑さを感じて驚きました。本当に日本とは季節がまったく反対なのだと、改めて感じた瞬間でした。

オーストラリアに着いて、ホームステイ先のホストファミリーと対面しました。最初は何を言っているのかわからず、Oh! としか反応できませんでした。しかし、二日目、三日目と日を追うごとに、だんだん何を言っているのかわかるようになってきて、会話をするのが楽しくなってきました。私のあまり上手ではない英語にもちゃんと答えてくれてうれしかったです。ぜひもう一度会いたいと思っていますし、手紙も出したいと思います。

## II 研究テーマとテーマ設定の理由

### 研究テーマ

「若い人が暮らしやすく、自然環境を生かした町づくりをするには？」

このテーマに決めた理由は、大仙市の少子高齢化を改善する手がかりを得るためです。大仙市は今、深刻な少子高齢化に悩まされています。若い人たちは皆仕事を求めて東京などの都会に出て行ってしまいます。このままでは大仙市に働き手がいなくなり、過疎化が進行してしまいます。そのような事態にならないように、「若い人たちを大仙市にとどめて、人口を減らさないようにするためにはどうすればよいのだろうか」「大仙市に興味をもって、観光に來たり移住したりする人を増やすにはどうすればよいのだろうか」と思い、今回の研究テーマを決めました。

## III 調べた内容

### 1 オーストラリアの人口

日本の20倍もの広大な国土をもつオーストラリアには、約2,400万人の人が住んでいるそうです。それに対して、日本の人口はおおよそ1億2千7百万人です。つまり、日本の20倍の国土に、日本の5分の1程度の国民が生活しているということになります。

### 2 オーストラリアの出産手当

オーストラリアは、人口を増やすために政府が対策を練りました。まず、国立病院で出産する場合には、出産にかかる費用は無料になるという政策です。さらに妊婦検診も無料で、出産したらベビーボーナス（出産手当）を出すということでした。しかも、子ども手当ももらえるそうです。子ども一人あたりの補助金の額は場合によって異なりますが、日本よりも多いということなので、子どもを3人産むと、支給される補助金だけで十分生活ができ、しっかりと子育てができるので、「安定した家庭を築きたい」という人が多く移住してくるのだそうです。

### 3 オーストラリアの気候と住居

次に、オーストラリアの住みやすさについてです。オーストラリアは、広大な土地があるため、それぞれの地域で気候が異なります。ブリスベンやゴールドコーストは亜熱帯、シドニーやメルボ

ルンは温帯，ウルルやアリス・スプリングスなどは乾燥帯，そして，私たちが滞在したケアンズは熱帯でした。

ケアンズの季節は，雨季と乾季に大きく区別されます。雨期は12月～3月頃で，乾季は4月～11月頃です。私たちがケアンズを訪れたのはちょうど雨季でした。もともと湿気が多くて，ジメジメしている地域なのですが，雨季にはよりいっそうジメジメします。この湿気から逃れるために，高床式の家をしているそうです。そうすると，湿気が地面から入ってこないで蒸し暑くならないそうです。

一方，乾季は，水資源が貴重であるオーストラリアにはあまり来てほしくない季節です。国土の約18%が砂漠に覆われているので，オーストラリアは乾燥している国と言えます。この乾季を乗り切るために，雨季にためておいた雨水をろ過して住民に供給しているそうです。そのため，一人あたりに供給される水の量は少量なので，節約して使わなければなりません。お風呂に入っても，シャワーを出していただける時間は5分以内と決まっています，髪や体を洗うときもさっと流して終わりだそうです。

ケアンズの人たちは，気候に合わせて高床式の住居にしたり，雨水を利用したりするなどの工夫をして，生活をより快適なものにしていることがわかりました。

#### 4 オーストラリアの食べ物

オーストラリアには，様々な施設や観光スポットがあります。ホストファミリーと出かけたときに，スーパーマーケットに連れて行ってもらいましたが，店内はとて広く，買い物かごや食材のサイズが大きいいうえに，量も多くて驚きました。また，食材の種類も豊富で，日本では高値で売られているものもかなり安くなっていました。特にマンゴーの値段は日本の約10分の1で驚きました。試食をさせてもらい，マンゴーとイチゴを食べました。日本のものより甘さが控えめで酸味が多く，日本のものとはまた違う味がしておいしかったです。様々な種類の食材を安くたくさん買うことができるスーパーマーケットは，オーストラリアの人々の生活には欠かせないと思いました。

次に訪れたのは牧場です。鶏を放し飼いにしていたり，機械で効率よく牛の乳搾りをしていたり，私にはとても珍しく，新鮮に感じられました。



放し飼いの鶏。のびのびと育っていました。



機械を使って牛の乳搾りをしていました。

一通り牧場の見学を終え，牧場の敷地内にあるお店に行きました。そこにはたくさんの加工されたチョコレートが売られていました。牧場なのに，なぜこんなにチョコレートが売られているのかと不思議に思って質問したら，この牧場で飼育されている牛のミルクを使ったチョコレートなのだと教えてくれました。そして，チョコレートを作っている工場も見学させてもらいました。牧場見学だけでなく，買い物も工場見学もできるので，お年寄りから子どもまでたくさんの人が楽しめる施設だと思いました。



牧場でとれたミルクを使ってチョコレートを作っています。

## 5 オーストラリアの自然

私が一番心に残っているのは、グレートバリアリーフです。日本では見たことがない真っ青な海でした。私は、最初に潜水艇という乗り物に乗り、たくさんの珊瑚礁を見ました。その後、シュノーケリングに挑戦しました。水面に顔を近づけて海の中を見ると、水がきれいで透き通って見え、カレイやヒラメのような魚が泳いでいるのが見えました。しばらく泳いでいると、海面に岩のようなものが浮かんでいました。近づいてよく見てみると、それはウミガメでした。至近距離でウミガメを見ることができ、とても運がよかったです。



真っ青なグレートバリアリーフの海に感動しました。



透明度が高く、潜水艇から海の中がはっきりと見えました。

次に、フランクランド島を散策しました。地面のほとんどが珊瑚の死骸やイカの骨で埋め尽くされていました。イカの骨をこすると、白い粉が出ました。昔の人はこれを歯磨き粉に使ったそうです。浅瀬にはナマコやクモヒトデ、シャコがいました。どれも初めて見るもので感動しました。少し深いところにはシャコ貝がいました。口を開いているところに手を入れるとすぐに閉じて挟まれてしまう危険性があるということでした。

オーストラリアには、このように、見るだけで楽しむ、体験もできる自然がたくさんありました。大仙市も自然が豊かなので、オーストラリアのように観光にうまく生かしていけたら、人口流出を食い止めることにつながるのではないかと思います。



真っ白なイカの骨。こすると白い粉が出ます。



口を開けたシャコ貝。手を入れると危険です。

## IV 考察

オーストラリアは、出産手当がもらえるなど、経済面でのサポートがあり、安心して人が住める環境だと思いました。砂漠が多いので水が少ないということもありますが、昔から生息している植物や

珍しい動物がいて、自然豊かな国だと感じました。また、熱帯に属する地域では、雨季と乾季に対応するために、住居を高床式にしたり、スプリンクラーで溜めておいた雨水を放水したりしていました。気候に合わせて、少しでも自分たちが快適な生活を送るためにさまざまな工夫がなされていて、住みよい町づくりをするための参考になりました。

日本は温帯に属しており、四季がはっきりしていて過ごしやすい気候です。さらに、島国ということで経済水域が広く、水産資源が豊富です。オーストラリアに比べて、気候や資源の面では決して住みにくい国ではありません。しかし、大仙市は日本の中でも雪深く、寒い地域です。生活のために雪よせもしなければなりません。関東や関西、九州などの地方に比べると住みやすい気候だとは言えません。そんな自然条件の厳しい大仙市でも、オーストラリアと同じように気候に合わせた工夫をすることにより、住みよい町づくりができるのではと考えています。例えば、横手のかまくらや湯沢の犬っこまつりのように雪像をつくって楽しむイベントを行ったり、スポーツ雪合戦のように雪を使ってゲームをしたりして、雪の魅力を伝えることができれば、「雪は楽しい！」というイメージをもってもらえるのではないかと思います。そして、雪を目当てに観光に来る人も増え、大仙市にもっと多くの人を呼び込むことができ、大仙市に住みたいと思う人を増やすことができるのではないかと思います。

## V エピソード

### 1 コアラとご対面

私は動物が好きで、犬とカメを飼っています。今回の研修では、オーストラリアでの動物とのふれあいを一番の楽しみにしていました。なかでも一番会いたかったのはコアラです。オーストラリアにしか生息していない貴重な動物だからです。うれしいことに、コアラを抱っこして写真を撮ってもらうことができました。思っていたよりも人なつこくてかわいかったです。撮り終わってからそのコアラを見ると、不思議なポーズをしていました。体内の熱を放出しているときにするポーズなのだと教えてもらいました。コアラと言えば、木に捕まっているイメージしかなかったので、意外な一面を知ることができました。オーストラリアに来なければ、知らないままだったと思います。



体の熱を放出しているコアラ。  
初めて見る不思議なポーズでした。

### 2 楽しかったホームステイ生活

私は、ホームステイ生活をするに少し不安がありました。行く前は、ちゃんと英語を話せるだろうか、迷惑をかけはしないだろうか、日が経つにつれて不安がどんどん大きくなっていきました。ホストファミリーと対面したときも、笑顔になれていたか自信がありません。しかし、車に向かって途中、オーストラリアの有名な場所やきれいな景色、野生の馬や牛を見せてもらい、それらを見ているうちに、私はホームステイを楽しみにしていた頃の気持ちを思い出し、不安がやわらいでいきました。家に着くと、鶏やアヒルが放し飼いにされていて驚きました。家の裏手には牛が二頭いて、パンを自分の手で食べさせてあげることができました。夜には星空を眺めたり、ホストファミリーのみんなとUNOをやったりして、親睦を深めることができました。たった3日間で、みんなで笑い合えるくらい仲良くなれました。とても明るく、フレンドリーなホストファミリーに出会えて、私はとてもラッキーでした。家族の暮らし方についてもたくさん学ぶことができ、本当によい経験をする事ができたと思います。

### 3 オーストラリアで働く日本人にインタビュー

私がインタビューしたのは、ダブルツリー・バイ・ヒルトンというホテルで働く児玉有正（こだまゆうせい）さんです。2001年にオーストラリアのアデレードに来て、ホテルマンになるための専門学校で、英語とホテルについての勉強をしていたそうです。

#### [Q 1] オーストラリアに来た理由は何ですか？

→オーストラリアに来る前は東京ディズニーランドで働いていましたが、徐々にホテル関係の仕事に興味をもち、転職することにしました。しかし、履歴書を書くときに英語がわからず、とても苦労したため、本場で英語を学ぼうと思い、オーストラリアに来ました。

#### [Q 2] オーストラリアに来て学んだことは何ですか？

→オーストラリアに来て、英語はもちろん、異国の文化や風習に触れて改めて日本の良さがわかりました。また、オーストラリアに来た当初はとても寂しくて、ホームシックにもなりました。しかし、そこで初めて親のありがたみが分かり、感謝の気持ちをもつこともできました。

#### [感想]

児玉さんは、とても親切で、インタビューしたことにわかりやすく答えてくれました。今回のインタビューで児玉さんが強調していたことは、「本場の英語に多く触れて、とにかく話す」ことです。私は話すことが苦手で、インタビューをするときもとても緊張しました。しかし、児玉さんのお話を聞き、この壁を超えないと次に進めないと思ったので、これからは自分の苦手なことにも積極的に挑戦していきたいと思いました。

## VI 海外研修を終えて

私は、自分の苦手な英語を少しでも克服したくて、この研修に参加しました。ちゃんと英語で会話できるか不安でしたが、思っていたよりも自分の英語が通じ、多くの質問をすることができました。これからは、英語だけでなく、様々な教科の授業で積極的に考えや意見を発表していきたいと思います。また、この研修を通して、英語力だけでなく、コミュニケーション力も少しは向上することができたと思います。相手が言っていることが100%は分からなくても、そして正しい英語で返答することができなくても、相手を見てうなずくなど、何かしらの反応をすると相手に伝わることもあるという経験を何度もしました。

また、たくさんのおすてきな思い出ができました。初めての海外で、優しいホストファミリーと楽しく過ごしたこと、オーストラリアの雄大な自然を全身で感じられたことは絶対に忘れません。オーストラリアと比較しながら自分が住む大仙市について真剣に考えたのもよい経験となりました。今回の研修で感じたこと、考えたことを、これからの自分の生活や学習に生かしていきたいと思います。

最後に、この研修を通して私が決意したことを英語で伝えたいと思います。

I want to challenge various things from now on, and I want to live without forgetting the kindness of people and the importance of natural resources.

Thank you.

# オーストラリアレポート

No. 17 大仙市立仙北中学校 2年 池田 晴香

## I はじめに

小学校の英語学習では、「英語は楽しい」という感覚しかありませんでしたが、中学生になり、本格的に英語を学習していくうちに、海外にとっても興味をもつようになりました。日本以外の国を観てみたいという好奇心と、学習している英語を使って、たくさんの海外の人々とコミュニケーションをとりたいという思いから、この海外派遣研修に応募しました。そして、現在の英語力がどれくらい通用するのか試してみたいと思いました。さらに、事前学習会で、オーストラリアのことについて学習するにつれて、日本と違った文化に触れることも大変楽しみになっていきました。



ホストファミリーに連れて行ってもらった  
Millaa Millaa Falls

## II 研究テーマ

### 「観光資源を有効活用するにはどうすればよいか？」

大仙市にはたくさんの観光資源があります。私の家の近くにも、国指定名勝である旧池田氏庭園があります。そして全国花火競技大会である大曲の花火も全国的に有名です。また、お酒や檜岡焼などの特産品や温泉もたくさんあります。今、日本には海外から多くの観光客が訪れるようになり、その行き先も東京や大阪などの都心部に限らなくなっています。秋田も、これからは海外からの観光客を受け入れられるようにしなければならないと思い、私はこの観光資源をもっと活用できないかと考えました。

## III 研究内容

### 1 観光地の施設について

ホストファミリーとは滝や湖に行き、研修メンバーとはキュランダ村でアボリジニショーを見たりキュランダ鉄道に乗ったりしました。グレートバリアリーフ内のフランクランド島では、シュノーケリングや島探検などを行いました。そのときに、日本と違うと感じたことは、駐車場が近くにないことです。駐車場から5分くらい歩くことは当たり前で、駐車場からの道のりは遠いだけでなく、階段も急で、足元が不安定なところもありました。よいと思った点は、ごみ箱がたくさんあったことです。清掃員が常時いるわけでもないのに、ごみが落ちていませんでした。多くの国から観光客が来るようで、パンフレットは様々な言語で用意されていました。また、パンフレットだけでなく、観光地に勤めている人たちが英語以外の言語も習得していて、日本語で説明してくれるところもあり、驚きました。



キュランダ鉄道

### 2 お土産

お土産屋に行ったとき、特産物のオパールの商品には手頃な値段なものもあり、家族に購入することができました。また、同じ商品が複数入ったものもあり、親戚や友達に配るため購入しました。数多く購入したにもかかわらず安価で、多くの人から喜んでもらえました。しかし、小分け袋がない店が多かったことは残念でした。

### 3 ご当地キャラクター

大仙市の「まるびちゃん」のようなご当地キャラクター(いわゆる「ゆるキャラ」)が、ケアンズにも存在しました。



左:オースカモリア 右:まるびちゃん



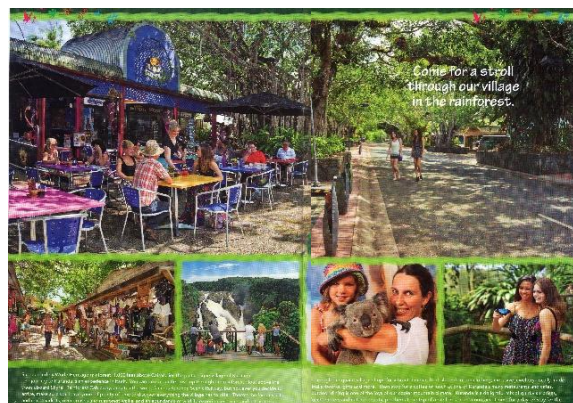
名前は「オースカモリア」で、カモノハシをモチーフにしたキャラクターです。非公認ですが、オースカモリアグッズも多数あり、私はOKギフトというお土産屋で、オースカモリアのエコバッグをもらいました。

#### 4 考察

現在、大仙市農林商工部観光物産課では、花火をメインにして、大仙市の魅力を発信しているようです。例えば宿泊も含めたツアーを旅行業者と企画しています。また、四季を感じるものや、旧池田氏庭園なども観光客に勧めているようです。そこで私は、次の三つを利用すると大仙市の観光資源が有効活用できると考えました。

##### ① パンフレットについて

オーストラリアにはたくさんのパンフレットが置いてありましたが、正直何を調べばいいのか分かりませんでした。中を見てもほとんど写真というものもあれば、文章ばかりというものもあって、「これは何だろう？何が書かれているのだろうか？」と思うものがたくさんありました。パンフレットは観光客にとって、大事なガイドです。そこで私は、大仙市全体の観光地について写真をメインにしたパンフレットと、その観光地だけを詳しく紹介するパンフレットを作ることよいと考えます。また、パンフレットは日本語版や英語版だけでなく、中国語版や韓国語版などを空港や駅などに用意すると、さらに海外から観光客が大仙市に来てくれると思います。



オーストラリアの観光パンフレット

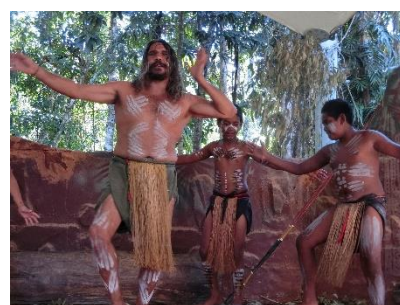
##### ② 観光地について

オーストラリアで駐車場が遠く、歩きにくかった経験から、観光地はバリアフリー化することが大事だと思います。私は、昨年秋に旧池田氏庭園のボランティアに参加したときに、車椅子のお客様が意外に多いことに気付きました。車椅子用スロープやスペースの広い洋式トイレ、手すりなどを設置し、バリアフリー化することによって、若い人からお年寄りまで、幅広い世代の方が観光に来てくれると思います。また、秋田県は車社会なので、駐車場を観光地の近くに設けることも大切だと考えます。

オーストラリアでは、ごみ箱から次のごみ箱が見えるくらい、多くのごみ箱が設置されていました。大曲の花火は、ごみ捨て場を多くしたことによって、道路や民家にごみを捨てていくケースがかなり減ったと聞いています。ごみ箱や灰皿を多くすることで、ポイ捨てが減り、美しい観光地を保つことができると思います。

体験型観光も喜ばれると思います。オーストラリアでは、アボリジニショーで楽器を演奏したり、近くの施設でブーメラン投げを体験したりすることができ、とても楽しかったです。大仙市でも、体験できる観光を多くすればよいと思います。

そして、英語でコミュニケーションできる人も観光地には必要です。流暢ではなくても、伝えたいことが伝わるよう、外国語を学んで上達させることもとても大事だと思いました。



アボリジニショー

##### ③ お土産とご当地キャラクター

大仙市の特産物には、お酒や樽岡焼などがあります。看板商品も大事ですが、量や大きさが小さくても購入しやすい手頃な値段のお土産用のものも置いてあれば、もっとよいと思います。また、ご当地キャラクターは、そこでしか入手できないものなので、お土産として買っていく観光客はかなりいると思います。だから、まるびちゃんグッズや大仙市ならではのお土産も、1袋3～5個入りで安ければ、もっと手に取ってもらえるのではないのでしょうか。今はディズニーランドやUSJでも、このような商品が多くなってきているので、有効だと思います。また、まるびちゃんを広く知ってもらうために、大曲の花火や旧池田氏庭園一般公開のときに、「まるびちゃんふれ

あいコーナー」を設けたり、大仙市の観光関係のものに必ずまるびちゃんのイラストを掲載したりするとよいと思います。

#### IV エピソード

##### 1 人のやさしさ

私はこの研修で様々な人のやさしさに触れました。入国審査の時に何を出せばよいか迷っていると、「パスポートとこれ。」と係員が教えてくれたり、私がターンテーブルのキャリーケースを取れず困っていたら、他の乗客が何も言わず取ってくれたり、他店で買ったフルーツにもかかわらず、店員さんが食べやすく切ってくれたりしました。私も日本に観光に来た外国人にはもちろんですが、日常生活でも周囲の人々に優しい人間になりたいです。



マンゴーを切ってくれた店員さん

##### 2 ファームステイ



ホストマザーの Jones さん

私たちのグループは、Jones さんの家にステイしました。家族はお父さんとお母さんと娘さんですが、娘さんはお父さんと一緒にキャンプに行っていたので不在でした。Jones さんには友達がたくさんいて、友達の農場で私は生まれて初めて馬に乗りました。その他にもたくさんの観光地に連れて行っていただきました。

私たちが日本の文化紹介で折り紙を折って見せると、Jones さんはタオルアートを披露してくれました。毎日の食事もおいしかったです。驚いたメニュー

は、ライムゼリーにカスタードクリームがたっぷりかかったデザートです。全体的に高カロリーの食事が多いように感じました。水が貴重だとは聞いていましたが、シャワー時間が5分以内と言われていたので、バスタブがあるのに湯船につかることができないのは辛かったです。でも5人で過ごした三泊四日はとても楽しかったです。



ライムゼリーにカスタード

##### 3 オージーキッズとの交流

オージーキッズと一緒に昼食のハンバーガーを食べた後、三つのグループに分かれてアクティビティを行いました。そのうちの一つのいかだレースは、グループでいかだを作り、そのいかだでレースをしてタイムを競うものです。私たちのグループが一生懸命作ったいかだが、ゲームのルールで他のチームのいかだと交換になるというアクシデントもありましたが、レースでは1位になって、ごほうびの特盛りアイスをおいしくいただきました。夕食後にはみんなでダンスを踊りました。



仲良くなったオージーキッズ

##### 4 こんなところに日本人！？

私がインタビューをしたのは、大屋さん、黒田さん、原田さん、児玉さんの4人です。

大屋さん マンガリーフォールズで働いている。オーストラリアに来て15年目。

黒田さん 日本旅行のケアンズ支店長。オーストラリアに来て19年目。

原田さん OKギフトショップの営業マン。35歳のときにオーストラリアに移住。

児玉さん ダブルツリー・バイ・ヒルトンで働いている。オーストラリアに来て15年目。

##### 【質問コーナー】

Q：なぜ海外で働いているのですか？

A：大屋さん 高校生のときに吹奏楽部の世界大会でハワイに行き、自分のソロパートのときのお客さんの反応に驚き、海外ってすごいな、海外に住みたいと思った。日本

の大学に入学したものの、そのときの感動が忘れられず、海外に行きたいと思い、大学を辞めてオーストラリアに来た。

黒田さん 最初は体育の先生になりたったが、修学旅行で海外に行ったとき、添乗員さんが海外の人とスムーズに会話しているのに感動したから。

児玉さん アデレードの語学学校に入学して、その後ホテル学校に進学し、ヒルトンケアンズに研修に来て、そのままヒルトンケアンズに就職したから。

Q：なぜオーストラリアを選んだのですか？

A：大屋さん 英語圏の中で治安のよい国だったから。

黒田さん 治安がよく、釣りが好きで海がとてもきれいだったから。

原田さん 子どもを海外で育てたいという思いと、自分が老後に南国に住みたいという思いがあったから。また、治安がよく、知り合いがケアンズにいたから。

### 【みなさんのエピソード】

大屋さん オーストラリアに来た当初は、日本語を話せるオーストラリア人にくっついていましたが、学校のクラスの階級が一番下だったので、これではいけないと思い、自分の英語力を高めようとキャンベラに行った。日本に帰りたいとは思っていたけれど、たくさんの人に背中を押されて来たので、もう戻れないから、そこで必死に勉強した。オーストラリアに来てよかったことは、今の仕事が自分で自由に開拓できる部分があるので、とても楽しいこと。大変なことは当然あるけれど、楽しく生きられる場所があるからよいと思っている。

黒田さん 英語を勉強するのは、本当に大変だった。ケアンズは特になまりが強く、分かりにくかった。そこで、海外の映画を教材にして、英語の勉強をした。今の仕事でうれしいことは、オーストラリアから日本に旅行をしたお客様から、「ありがとう」や「日本はよかったよ」と言われること。とにかく何事も経験を積むことが大事。

原田さん 仕事を紹介してもらい、最初はバイトだったものの、一生懸命働いて営業職になった。お店の工夫としては、他店との差別化を図っている。それは、くじ引きやプレゼント、他では買えないオリジナル商品を開発することなど。オーストラリアは、掃除は基本的に業者が行うが、我々の店では自分たちでやるようにしている。

児玉さん 日本にいるときは、東京ディズニーランドのウェーターとして働いていた。現在勤めているホテルでは、「NO BIN DAY」という、社員内でゴミ箱を取り払う日を設け、ごみを減らそうという取組が行われている。観光客が多いので、食事にはとても気を遣う。洋風と中華風・和風を取り入れたニュートラルな食事を提供している。



NO BIN DAY のポスター

### 【感想】

私がインタビューした4人の方の仕事はそれぞれ違いますが、皆さんオーナーや支店長のような、先頭に立って仕事をする役職でした。日本から離れても、努力で自分の道を切り開いてきたことは素晴らしいと思い、自分もそのような人間になりたいと感じました。私もたくさん英語を勉強して、海外で先頭に立って働く人になりたいです。

## V 海外研修を終えて

オーストラリアで働く日本の方々が、オーストラリアの人と話しているのを見て、私もあの人たちのように英語をすらすら話せるようになりたいと思いました。英語は世界共通語なので、英語を一生懸命勉強して、世界中の方とお話できる人間になりたいと思います。2020年には日本でオリンピックが開催されます。まずはここで通訳ボランティアに参加できるように、英語を勉強していきたいと思います。また、通訳ボランティアで終わらず、将来にもつなげていきたいと思います。

# オーストラリアレポート

No. 18 仙北中学校 小松真愛

## I はじめに

私がこの研修に応募してみようと思ったきっかけは、小学校の外国語活動で初めて英語を教えていただいたときに、楽しいと感じたからです。また、小学校6年生のときに国際教養大学で留学生と交流した際に、私のカタコトの英語を、最後まで笑顔で聞いてくれた留学生の方々に好感をもてたことも、きっかけのひとつです。さらに中学生になって英語の学習が始まって、楽しい授業を受けることができ、英語への興味がますます高まり、この研修に応募しました。

## II 研究テーマ/設定の理由

### 「未来の地球を守るために、私たちが今できることは何か？」

このテーマを設定した理由は、大仙市ではソーラーパネルの設置の他、環境を守るためにたくさんの取組をしていますが、海外の取組も詳しく知りたいと思ったからです。

## III 研究内容

### 1 太陽光エネルギーの活用について

ケアンズは日本に比べ赤道に近いので、日光がよりたくさん当たります。そのことから、私は太陽光発電が盛んに行われているのではないかと考えていました。しかし、私が訪れた場所にはソーラーパネルがひとつもありませんでした。その代わりに風車がありました。なぜこんなに日光が当たるのにソーラーパネルがないのか質問してみると、ソーラーパネルを設置するためにはそれなりの面積が必要で、パネルを設置する分の自然を失ってしまうことになるからという答えが返ってきました。



ケアンズの広い自然



風力発電

### 2 節水

オーストラリアでは水がとても貴重で、私がホームステイしたお宅では、シャワーは一回5分以内でした。また、私たちは毎日シャワーを使わせてもらいまし

たが、ステイ先の家族は毎日ではなく、二日に一回シャワーを使うそうです。そして食器を洗う時は、水を出しっぱなしにするのではなく、最初に貯めてから洗っていました。私たちの飲み物も、できるだけ洗い物を増やさないように、プラスチックの使い捨てのコップを使うなどの工夫が見られました。

### 3 自然と共存するために

オーストラリアの自然はどこを見ても素晴らしいです。特に最終日に行ったグレートバリアリーフは、今までに見たことがないくらい青く澄んだ海に、きれいな魚がたくさん泳いでおり、珊瑚礁が広がっている光景には感動しました。珊瑚礁や魚には生きていく上での適切な温度というものがあり、海水の温度が地球温暖化により上昇すると、残念ながら死んでしまうそうです。実際にここ数年で、珊瑚の量や魚の数が減ってきているのが現状で、それを食い止めるために様々な規制をかけて海を守っているそうです。

## 4 考察

### ① 太陽光エネルギーの活用について

日本でも福島の原子力発電所の事故以来、再生可能エネルギーの活用に関心を入れています。中でも、太陽光パネルの設置場所として、空き地を利用したものもありますが、ビルの屋上や家の屋根を利用したものも増えています。とはいえ、私の家の周辺で屋根に太陽光パネルを設置している家はまだまだありません。そこで、屋根をもっと有効に使えば、自然環境を破壊することなく、太陽のエネルギーを有効に活用できるのではないかと考えました。

### ② 節水について

私の家の周りは水田が多く、用水路や小川など、水があるのが当たり前の環境であるため、これまで節水という考え方をしたことはありませんでした。そのため、普段家でシャワーを使う時は、長々と15分程度使ってしまうのです。それに加え、バスタブの水も毎日入れ替えているので、水の使用量はホームステイ先の何倍にもなっていると思います。今回の体験で、水も限りある資源の一つだということを改めて考えさせられました。節水についての意識が低い人は私だけではなく、まだまだたくさんいると思います。そこで、生徒会に働きかけて、ポスターを貼るなどして、北中生の節水に対する意識を高めていけばよいのではないかと考えました。

### ③ 自然との共存について

地球温暖化は世界中どこでも話題になる深刻な問題です。それを防ぐため、または止めるために私たちが身近にできることが、リサイクルだと思います。

リサイクルの例としては、回収したペットボトルを細かくして衣類に替えるものがあります。このように、一度ゴミとなったものをまた使えるものとして再生することが、これからの日本にとっても、世界にとっても大切なことだと思います。またリサイクルを進める上では、ゴミの分別が大切になってきます。大量に集められたゴミを分別するというのは大変な作業なので、私たちの普段からの心がけが重要になってきます。一人一人の力は小さいと思いますが、みんなで日頃の小さいことから協力することによって、大きな成果が得られると思います。



グレートバリアリーフの自然



ビーチで見つけたナマコ

#### IV エピソード

私はホームステイ中に、何度かスーパーマーケットに行きました。日本のスーパーマーケットに並んでいる商品と比較すると、一つ一つの量やサイズがケタ違いに大きくて、衝撃を受けました。また、日本では売られていない果物や野菜がたくさん揃えられていて、とても新鮮でした。レジで会計をしようとする時、店員さんに日本の「いらっしゃいませ」と同じ感覚で ”How are you?” と言われ、応えるべきかどうか少し迷いましたが、 ”I’ m fine, thank you.” と応えてみたら、にっこり笑ってくれて安心しました。



スーパーマーケットのようす

#### V 海外で働く日本人

オーストラリアに実際に行ってみると、想像していた以上に日本人の方がたくさんいました。今回は、泰斗さんという、オーストラリアに来て15年目で、私たちが宿泊したロッジで働いている方について紹介したいと思います。

初めて泰斗さんに会ったとき、とても明るく、英語を流暢に使いこなしていて、私は素直に「すごい」と思いました。

話を聞くと、高校は学年トップの成績で卒業しているようで、大学には指定校推薦枠で入ったそうです。また、中学校の頃から吹奏楽をやっていて、高校では全国

大会、世界大会を味わった経験もあるらしく、私たちに娘さんとの演奏を実際に聞かせてくれました。そんな素晴らしい方ですが、「中学校のときは優秀ではなかった。」とご自分でおっしゃっていました。それを覚えてくれたのが、高校での部活動生活だったそうで、「整理整頓」と「思いやり」というものをとにかく叩き込まれたと言っていました。

日本にいたときには、高校吹奏楽部の講師として指導もしていたそうですが、そんな泰斗さんが、海外に行こうと思ったきっかけは、高校2年生のときの世界大会で海外のお客さんのパフォーマンスに衝撃をうけたことだったそうです。それから「海外でひとりで頑張って生活したい」という思いが募り、当時講師として教えていた何百人にも及ぶ生徒に見送られて日本を出てから、今に至るそうです。はじめは英語が全然喋れなくて、“This one” を多用していた時期があったそうです。言葉に関してはとても苦労されたようですが、現在はマネージャーの立場で、自分の好きなように物事を進められることに対して満足されている様子で、とても楽しそうでした。

#### 泰斗さんから学んだ心得

- その1 周りの人の意見に流されない。
- その2 失敗を恐れず、どんどん挑戦する。
- その3 自分の意思をもつ。

## V 最後に

私は、初めて行った海外で、とても有意義な時間を過ごせたと思っています。出発する前は、自分がオーストラリアという日本とは全く異なる地で、しっかり生活できるかどうかとても不安でした。しかし、オーストラリアで何日間か生活していくうちに、「不安を抱いてばかりでは楽しめない。せっかくだからたくさん失敗しよう。」と考え方を思いきって変えました。そうしてからは思いきり楽しむことができたし、ひとつひとつの経験が自信につながっていったような気がして、本当に良かったと思っています。

また、今回の研修を通して、私はたくさんの人に支えられていることを再確認することもできました。友達、家族、先生。私の周りには大切な人たちがたくさんいます。そのことに気付くことができたことも大切な収穫でした。本当にありがとうございます。そして、これからもこの経験を存分に生かして頑張っていきたいと思っています。



# オーストラリア研修で学んだこと

No. 19 太田中学校 石崎遥衣

## I はじめに

私が海外研修に参加したかった理由は、英語や海外の文化に興味があったからです。また、14歳の誕生日を迎えるにあたり、私は「立志の言葉」を書きました。私は四つのCと題し、Curiosity(好奇心) Courage(勇気) Confidence(自信) Constancy(継続)と書きました。これらを実行に移す第一歩として、日本の生活・文化との違い



空路 オーストラリアへ

を自分の目で確かめるために、ファームステイを通じてオーストラリアの生活を体験し、実際に外国での生活がどのようなものなのか見てみることは、とても貴重な経験になると思いました。オーストラリアは南半球なので日本との季節が逆であることを体験できるのもおもしろいと考えました。実際に私が体験したことは、想像以上の素晴らしいものでした。

## II 研究テーマ・設定の理由

- (1) 研究テーマ：「水を大切にしていくなめにはどうしたらよいか？」
- (2) 設定の理由：人が生きていくため必要な「水」。世界には、異常気象により水不足に悩まされている地域がある中で、日本ではあつて当然のように使われています。オーストラリアでは水を大切に使う取組があることを知り、それを日本の参考としたいと考え、この研究テーマを設定しました。

## III 聞き取ったこと・体験して気付いたこと・考えたこと

- (1) ホストファミリーにインタビューしてわかつたこと

私はファームステイでお世話になつたBobさんCarmelさん夫妻に、水を使用するためのルールがあるか聞いてみました。BobさんCarmelさんは次のように答えてくれました。

- ・水を使い終わつたら蛇口をしめる。
- ・水栓は朝6時に開けて、夜9時には閉める。
- ・シャワーは手短かに済ませる。
- ・食洗機はこまめに使わない。  
(3食分の食器を夜に洗う。)



ホストファミリーのCarmelさんと



- ・洗濯機は洗濯物がたまってから使う。
- ・歯磨き中はうがいをするまで水を止める。
- ・水は理由なく出しっぱなしにしない。
- ・トイレの水を流すときは便器の右側にある二つのボタンを大と小で使い分ける。(日本と同じ)



トイレのボタン

## (2) オーストラリアの生活を体験して気付いたこと

- ・ファームステイ先では朝7時に起床し、夜9時には就寝しました。牧場の仕事があるため、夜は早めに休むそうです。
- ・ステイ先のお宅には浴槽がありません。水をととても大事にしているため、シャワーのみで、使用時間は5分以内と決められています。水を貯めておく大きなタンクがありましたが、その中の限られた水しか使えないからです。
- ・日本の土は黒く湿っぽい感触ですが、オーストラリアの土は茶色くさらさらしていました。日本では、家の中では靴をぬいで生活していますが、オーストラリアでは家の中でも靴をはいたまま生活することが多いようです。土はさらさらしていて靴の裏にもあまり付かないし、床もあまり汚れないようで、ステイ中に拭き掃除をしているところを見ることはありませんでした。普段家の中で靴を履いた生活をしたことのない私は、ベッドへ入る時に靴を脱いだ瞬間、解放された気分になりました。たとえ長期間滞在したとしても、この習慣には慣れることは難しいと思いました。
- ・ステイ先のお宅では、生ごみと紙ごみの2種類にしか分別していませんでした。ペットのトビー（犬）にも、ドッグフードではなく食事の残り物を食べさせて、食べ物の廃棄を少しでも減らす工夫をしていました。



シャワールーム

## (3) 考えたこと

調べた結果、オーストラリアは国土の約18%が砂漠であるため、高温・乾燥の砂漠気候の地域が広く存在することがわかりました。そのため、しばしば水不足を引き起こします。学習会で勉強したように、オーストラリアは雨季と乾季があるため、雨季に水を貯め、乾季に使う仕組みになっています。水が貴重な資源なのでとても大切にしている国です。私たちが行ったケアンズは、オーストラリアで最も湿度の高い都市と言われていますが、日本と違い乾燥しているせいか、私には蒸し暑さ



壮大に広がるオーストラリアの風景

は感じられませんでした。滞在中に雨が降ることもありませんでした。家庭に水を貯める大きなタンクが設置されており、雨水を浄化して利用していましたが、雨も貴重な資源なのだと知りました。入浴の際、日本では浴槽に浸かるという習慣がありますが、オーストラリアでは、使える水に限りがあるので、浸かるという習慣はあり得ないとのことでした。オーストラリアよりも水資源が豊富である日本でも、もっと節水する習慣を身に付けるべきだと感じました。

日本では、米・野菜・肉・魚などたくさんの食材を使った食事ができます。オーストラリアでは、パン・肉・野菜中心の食事がほとんどで、洗い物を減らすためにワンプレート方式でした。また、水の使用をできるだけ減らすと同時に、ごみの削減の取組も行われていました。日本と同じように再利用できるものはリサイクルされ、なるべくごみを発生させないようにしていました。ホテルの裏側を視察できる機会がありましたが、従業員休憩室に「NO BIN DAY」というポスターが貼られており、社員間で食べ残しをなくすという取組がなされていました。一人一人が気をつけることで食べ残しを防ぐことは、日本でも可能なことだと思いました。



NO BIN DAY の呼びかけ



牛の乳しぼり

#### IV エピソードなど

##### (1) ファームステイでのできごと

私たちがお世話になったファームステイ先の朝は、牛の乳しぼりから始まりました。私も実際に体験させてもらいましたが、牛は足を固定されているのでおとなしくしていました。朝食に出てきた牛乳は、この牛からしぼったもので、味は日本の牛乳より薄くて少し草のにおいを感じられました。



ファームステイ先のプール

自宅にあるプールにも入りました。この地域では気温が高いため、自宅にプールのある家が多いようです。小さく見えるプールですが、2mほどの深さのところもあり、びっくりしました。

真夏の日本ではエアコンを使うことが多いですが、ステイ先にはエアコンはありませんでした。夜は天井についているファンのみで、部屋の空気を循環させて涼しくしていました。



天井のファン

## (2) グレートバリアリーフの美しさ

世界遺産の一つである、グレートバリアリーフへ行きました。ここは世界最大のサンゴ礁の地と言われているように、真っ青な海と、サンゴ礁、白い砂浜がとてもきれいでした。石の下にナマコがたくさん住んでいて、触ると、とてもぬるぬるしていました。



真っ青な海

テレビでしか見たことがないような景色が実在することを、自分の目で確かめることができました。オーストラリアの先住民であるアボリジニが、魚を捕まえるために使っていたという木の实も見られました。この木の实を海に投げると、魚が食べようとするそうです。



島で説明してくれたガイドさん



魚を捕まえるための木の实

## (3) 現地で活躍している日本人

オーストラリアで働いている日本人の方から、直接話を聞くことができました。話をしてくれた方は、海外への興味と英語力の向上のためにやって来たオーストラリアで、現在は働きながら生活をしていました。日本と文化が違うための失敗談、その失敗から物事をたくさん学ぶことができるよさ、オーストラリアの生活を通じて日本のよさをあらためて感じるができること、やりがいを感じて仕事ができる環境などについて話してくれました。私にとってはとても興味のもてる話でした。また、日本語を話していると喉の形が日本語になるという話も聞けました。中学生の私たちは、まだその喉のくせがついていないそうです。だから今のうちにたくさんの英語を話してほしいと言われました。私も本場の英語に触れたことで、自分の英語できちんと相手に意思を伝えられるようになりたいと思いました。自分の英語力を伸ばすことが、これからの目標になりました。

## V 海外研修を終えて

海外研修に参加できたことで、「立志の言葉」を実現することができました。海外に好奇心 (Curiosity) を持ち、実際にオーストラリアへ行けたことで、勇気 (Courage) をもって現地の人とコミュニケーションをとることができました。自分の目を見たもの、感じたもの、体験したことは全てが私の宝物となり、この宝物が私自身の自信 (Confidence) につながることばかりでした。現地に到着するまでは、言葉が通じるか不安もありましたが、BobさんCarmelさんはとても親切な方たちで、毎日笑顔で接してくれました。自分の話したいことが伝わったときは、とてもうれしかったです。現地で出会ったたくさんの人たちは、皆さん明るく親切な人ばかりで、人のつながりと優しさをあらためて感じることができました。

壮大なオーストラリアに比べると、日本は小さな島国ですが、私はこの島国に生まれたことを誇りに思いました。実際にオーストラリアで生活をしてみて、何よりも日本は食生活に恵まれていることを実感できたからです。

This homestay program was a very important experience for me.

I had the chance to speak English with Australian people, and I learned about a different culture. Most importantly I learned that water is very precious in Australia. They have to save water. I'm happy because we have lots of water. I think I should start to save water. I will make use of what I learned in Australia.

(今回のホームステイは私にとってとても意義のある経験でした。オーストラリアの人と英語を話す機会をもてたこと。異文化を学べたこと。特にオーストラリアでは水がとても貴重だということ。水を節約しなければいけないこと。私は秋田には水がたくさんあるので幸せだと思います。でも、水は節約するべきだと思います。私はオーストラリアで学んだことを生かしたいと思います。)

# Australia

No20太田中学校 2年 藤原真武

## 1 はじめに

僕は幼いころから英語を学んでいて、英語にとっても興味がありました。これまで学習した自分の英語がどれだけ相手に通じるのか試したいと思い、この研修に応募しました。参加が決まりうれしく思いましたが、英語でしっかりとコミュニケーションがとれるか不安でもありました。しかし、事前学習会を通して、ほかの学校の派遣生と仲良くなるにつれ、オーストラリアに行くのが楽しみになってきました。オーストラリアでしかできないことをたくさん体験し、仲間たちと思い出に残る楽しい活動にしてみたいと思いました。また自分が決めたテーマをしっかりと解決できるように、いろいろな人たちにたくさん質問をし、コミュニケーションを図りたいと思いました。

## 2 テーマについて

### 「若者が大仙市から離れないようにするにはどうすればよいか？」

僕がこのテーマにした理由は、多くの若者が、大仙市から離れていっている状況が気になったからです。このまま若者の地元離れが進んでいくと、2015年5月現在約8万3千人の大仙市の人口が、26年後の僕たちが40歳くらいになる頃には、5万人に減るそうです。そうならないために、大仙市はどのようにしていけばよいか、そのヒントをオーストラリアで探したいと思いました。

## 3 調べたこと

### (1) 事前に調べた内容（大仙市が現在行っている取組）

- ・大仙市の高校生向けに企業を紹介
- ・高校生向けの大学進学用の奨学金の募集

これらの活動を行っていることがわかりました。

### (2) 大仙市とオーストラリアでの職業の比較

#### ① 大仙市で見られる職業

大仙市は農業が盛んなため、色々な場所で農業が行われています。また夏には「大曲の花火」があるため、たくさんの観光客が大曲に集まります。冬は、雪が多く降

るため、除雪などの仕事が必要です。

## ② オーストラリアで見られる職業

僕がファームステイさせていただいた Borgart さんの家では、牛などの家畜を飼ったり、野菜を栽培したりしていました。牛は子牛をたくさん産んで、頭数がどんどん増えていっていることが分かりました。熱中症対策として、岩塩の大きな塊を与えていました。牛たちは、大きな舌で岩塩を何度もなめていました。

オーストラリアでは、広大な土地を生かして、ヤギ、肉牛、乳牛の放牧が盛んでした。車で移動していると、いたる所で放牧が行われていました。一軒あたりの牧場が広く、どこからどこまでが敷地なのかが分かりませんでした。また、牛の種類も多く、柵で牧場を仕切っていました。



ホストファミリーの家の牛



放牧の様子

ホストマザーに職業を質問した時の会話

Masatake : What is your job?

Host mother : I have a lot of cows , and I grow vegetables because I am a farmer.

## 考察

オーストラリアは国土面積が広い一方で、居住者が少ないため、一軒当たりの農地面積が広く、牛やヤギなどの家畜の放牧には適していることが分かりました。

またケアンズは、日本に比べ温暖なため、以前はサトウキビなどの作物の栽培が盛んでしたが、現在は観光業が増えてきています。世界遺産のグレートバリアリーフやキュランダがあるため、日本や中国からの観光客が増えてきており、それに伴って農業の割合が減り、お土産屋さんなどがどんどん増えていることが分かりました。オーストラリアに観光地がたくさんあるように、大仙市にも魅力的な場所がたくさんあります。そうした場所を生かして観光業を盛り立てていくと、働く場所も増えて、若者が大仙市で就職し、地元で定着できると思います。そうすれば、少子高齢化の進展を抑えることも期待できるのではないかと考えます。

## 4 エピソード

～思い出いっぱいの6 days～

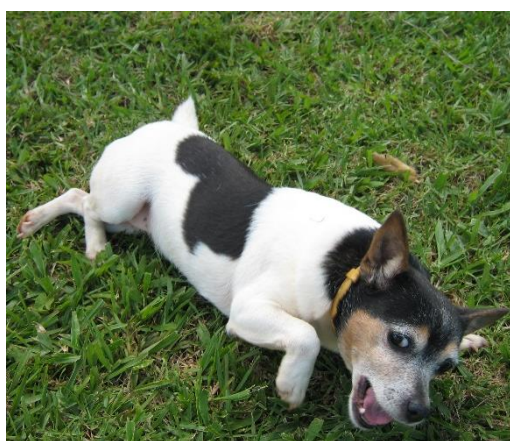
### 1日目

ファームステイ先へ車で向かう時、ホストマザーの運転のスピードがとても速く、驚きました。車からは美しい景色が見えましたが、途中立ち寄った絶景ポイントからの眺めは最高でした。

到着した家にはトランポリンやバスケットボールのリングがあり、犬や猫もたくさんいました。



見晴らし台からの景色



ホストファミリーのペット①



ホストファミリーのペット②

ペットたちは人なつこく、この2匹の犬も僕たちになついてくれました。ホストマザーは、日本から持っていったお土産の扇子や樺細工に“Beautiful!”と喜んでくれました。夜には外に出て色々な虫を見せてもらったり(家への出入りを素速くしないと虫がたくさん入ってきて大変でした。)、UNOを借りて遊んだりしました。夜の10時ごろには、ホストマザーの”It’s almost time to go to bed.”の言葉で就寝しました。

### 2日目

朝食の時に、ホストマザーが「今日はピクニックに行く」と教えてくれました。午前9時に家を出て、



ホストマザーと行った滝

最初は色々な滝を見ました。次に滝の近くの公園に行き、ホストマザーの作ったサンドイッチで昼食をとりました。その後フリスビーを使って遊んだのが、とても面白かったです。

夕方、ホストマザーが運転するバギーに乗って、所有地にある山に登りました。僕は1回落ちてしまいましたが、楽しかったです。頂上に近くから見る景色は、とてもきれいでした。間近で牛を見ることができたのも、とてもよい体験になりました。



バギーに乗って山頂から

### 3日目

3日目はインゲン豆の収穫を行いました。草の陰の見えにくいところに残っている豆も、一つ残らず取らなくてはいけなかったのが大変でした。収穫後にインゲン豆を水洗いし、袋に詰めました。その日は37度という暑さだったので大変でした。この日ホストマザーからオーストラリアのポストカードとポスターをもらい、日本へのよいお土産になりました。夜には、人工衛星や星座について教えてもらいました。流れ星もたくさん流れていて、きれいでした。

### 4日目

ホストファミリーとお別れをして、マンガリーフォールズに向かいました。到着後、ファームスティの班ごとに体験発表をし、それぞれの班のスティの様子を教えてもらいました。そのあと日中には、オーストラリアの子どもたちとの障害物競走などの交流、そして夜には、土ボタル鑑賞をしました。土ボタルの光は、人によって青く見える人と、緑に見える人がいるそうです。青く見ると「人間の目」で、緑に見える「獣の目」の傾向があるそうです。僕は緑に見えたので、獣の目に近いのかと思いました。

### 5日目

早朝にマンガリーフォールズを出発してキュランダに向かいました。キュランダでは、最初に水陸両用車に乗ってたくさんの珍しい植物や動物を見ました。

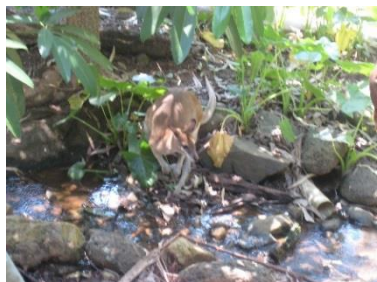
次に、ブーメラン投げやディジュリデュ演奏の鑑賞など、アボリジニの文化を体験しました。ブーメランは、僕もうまく飛ばせたので、うれしかったです。アボリジニショーでは、伝統的な踊りを鑑賞し、



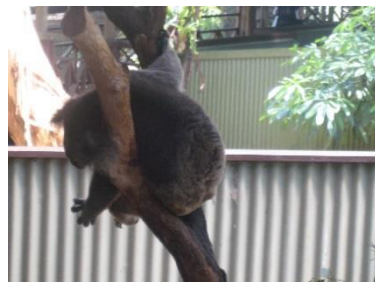
アボリジニの伝統的な楽器



動物コーナーでは、オーストラリアにしかない様々な種類の動物を見学しました。



カンガルー



コアラ



ヒクイドリ

キュランダ鉄道には、絶景ポイントがたくさんありました。特にテレビ番組の「世界の車窓から」で12年間使われていた景色は壮観でした。終点のケアンズ到着後は、市内散策を行いました。OKギフトショップでお土産などを買ったあとの夕食は自由夕食でした。久しぶりにごはんが食べたくなったので、和食を食べました。



「世界の車窓から」に出てくる景色

#### 6日目

6日目は1日100人しか上陸が許されていない、フランクランド島へ向かいました。

途中、野生のワニが生息する川をクルーズしました。グレートバリアリーフに浮かぶフランクランド島は、周りの海が青く、とてもきれいに澄んでいて、熱帯魚を見ることができました。シュノーケリング中にはカメに出会うこともできました。島内散策をして、色々な種類の貝やサンゴについて教わりました。この日はとても暑く、紫外線も強烈でした。



グレートバリアリーフ

ホテルに戻り、海外で働く日本人の方々にインタビューをしました。

Q 「英語はどうやって上達しましたか？」

A 「とにかくオーストラリア人と話すこと。」

Q 「オーストラリアに来て困ったことは？」

A 「日本とオーストラリアの文化の違いがわからず困った。」

#### 質問をしての感想

僕は、英語は学習することだけが英語の上達方法だと思っていましたが、実際の会話を通して上達する、という方法もあることを知りました。また、文化の違いが分からずに困る場合もあるということが分かったので、そういうことは事前に調べておくべきだと思いました。例えば、日本ではおじぎをして「はじめまして」の挨拶をしますが、オーストラリアのあいさつは、握手やハグなどのスキンシップから始まります。また、水がとても大切だということや、食生活の違いなども知っておくと有効です。

インタビューで学んだことを、今後の生活に生かしていきたいです。

## 5 海外研修を終えて

今回の海外派遣研修では、最初は不安もありましたが、日が経つにつれ、どんどん楽しくなって行って、最終日にはもっと滞在したいと思うほどでした。研修中に、色々な外国の人達と会話する機会がもてたのもよい体験になりました。知らない人にも意識して話しかけるよう心掛け、今回の目標の一つだったコミュニケーション力の向上も図ることができただけでなく、他の大仙市の中学生の皆とも仲良くなれたと思います。

また今回の活動では、普段できないことがたくさんできました。実際の英語圏で、生きた英語に触れることで、授業では学べないことを学ぶことができました。話した英語が通じないこともありましたが、インタビューで教えてもらったとおり、すすんで人と話すことで英語力を向上させたいと思います。これから、高校、大学と僕たちの世界はどんどん広がっていきます。知らない世界に飛び込むとき、今回の海外研修を思い出し、勇気をもって自分の世界を広げていきたいと思います。

# THANK YOU !



**Daisen City Board of Education**

